

**2018（平成30）年度**  
**男女共同参画社会づくりのための菊池市民意識調査**  
**【調査結果報告書】**

**2018（平成30）年 11月**  
**熊本県 菊池市**



# 目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施要領	1
3 調査結果利用上の注意	1
II 総括	2
1 男女平等に関する考え方について	2
2 家庭生活の役割分担について	4
3 仕事と家庭・地域生活について	6
4 出生率低下について	7
5 女性の社会参画について	9
6 女性が職業を持つことについて	10
7 子育て、教育について	11
8 配偶者からの暴力(ドメスティックバイオレンス(通称:DV))について	12
9 防災の分野における男女共同参画について	13
10 男女共同参画社会の推進について	14
III 調査結果	16
■回答者の属性	16
1 男女平等に関する考え方について	17
2 家庭生活の役割分担について	26
3 仕事と家庭・地域生活について	33
4 出生率低下について	36
5 女性の社会参画について	37
6 女性が職業を持つことについて	48
7 子育て、教育について	50
8 配偶者からの暴力(ドメスティックバイオレンス(通称:DV))について	54
9 防災の分野における男女共同参画について	56
10 男女共同参画社会の推進について	57
IV 参考資料	71



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本市では、平成27年3月に第3次の「菊池市男女共同参画計画」を策定し、市民や事業所と連携を図りながら男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進しています。

本計画では、平成30年度に中間目標の進捗状況を確認するとともに、社会情勢の変化に対応し必要に応じた見直しを行うよう計画しています。

本調査は、中間見直し年度における市民意識の変化を把握し、計画見直しの基礎資料とするために実施するものです。

## 2 調査の実施要領

調査時期	平成30年8月
調査対象者	菊池市在住の20歳から75歳の市民を住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
配布数	2,000件
有効回収数	735件
有効回答率	36.8%

## 3 調査結果利用上の注意

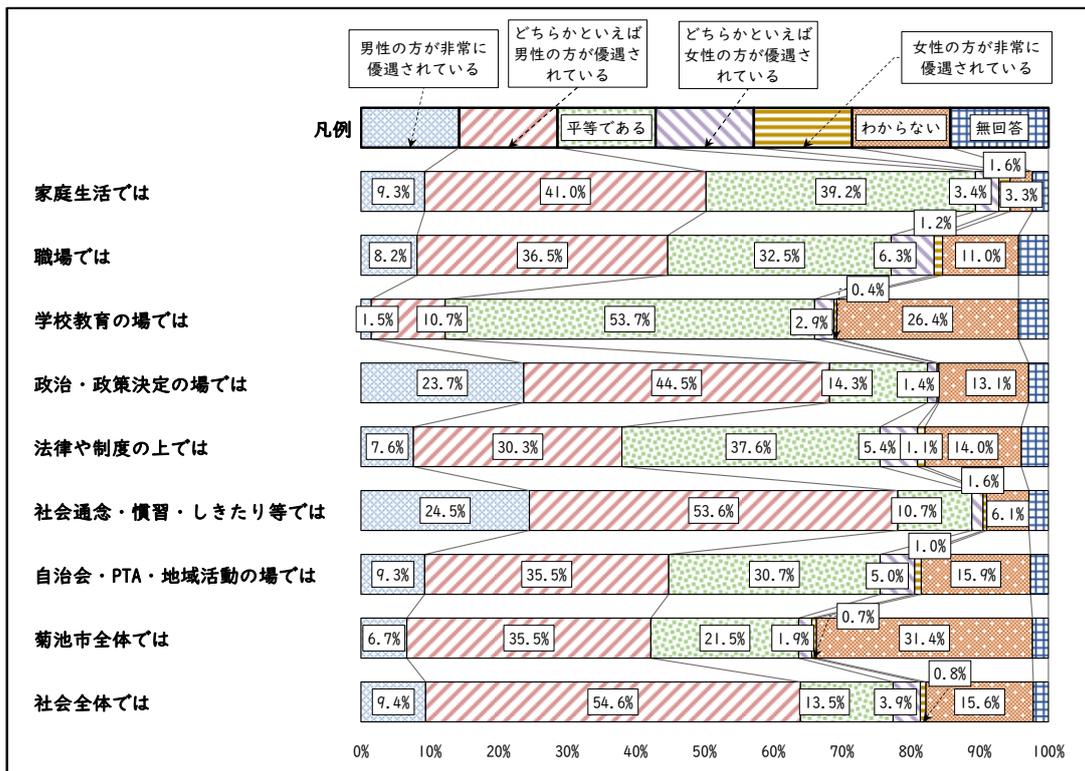
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- グラフ中の回答割合について、グラフが複雑になる場合は省略している場合があります。

## II 総括

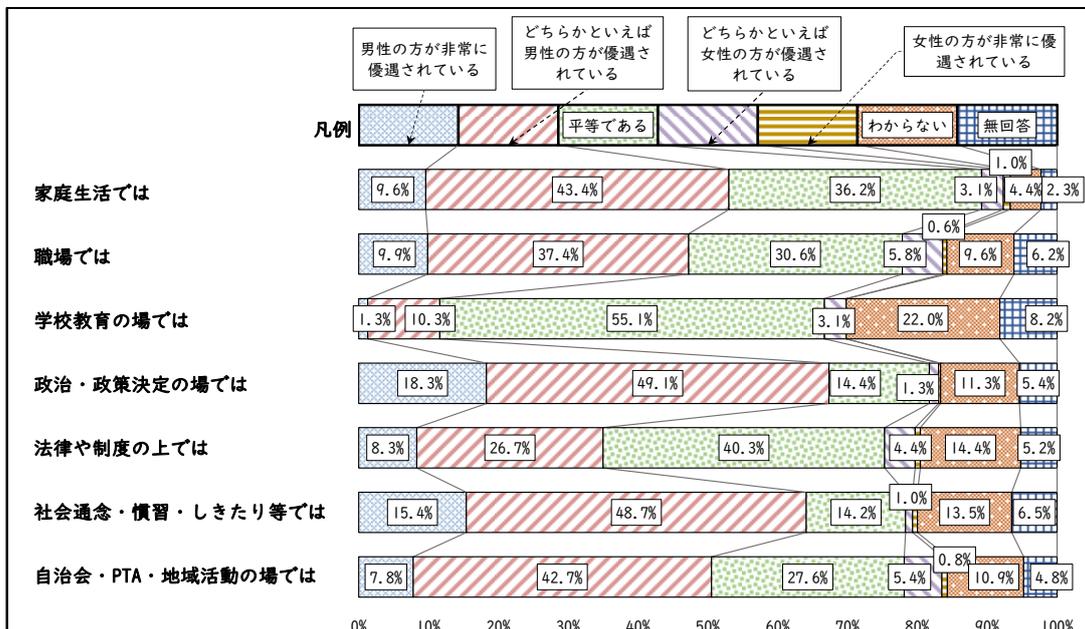
### 1 男女平等に関する考え方について

各分野における男女平等の認識については、「学校教育の場」では50%を超える割合の人が平等と回答していますが、「政治・政策決定の場」、「社会通念・習慣・しきたり等」、「社会全体」では平等と回答している人の割合が10%台となっています。前回調査においても不平等感が強い結果であった分野ですが、今回の調査結果においても改善しているとは言えない状況です。

【H30 調査結果】



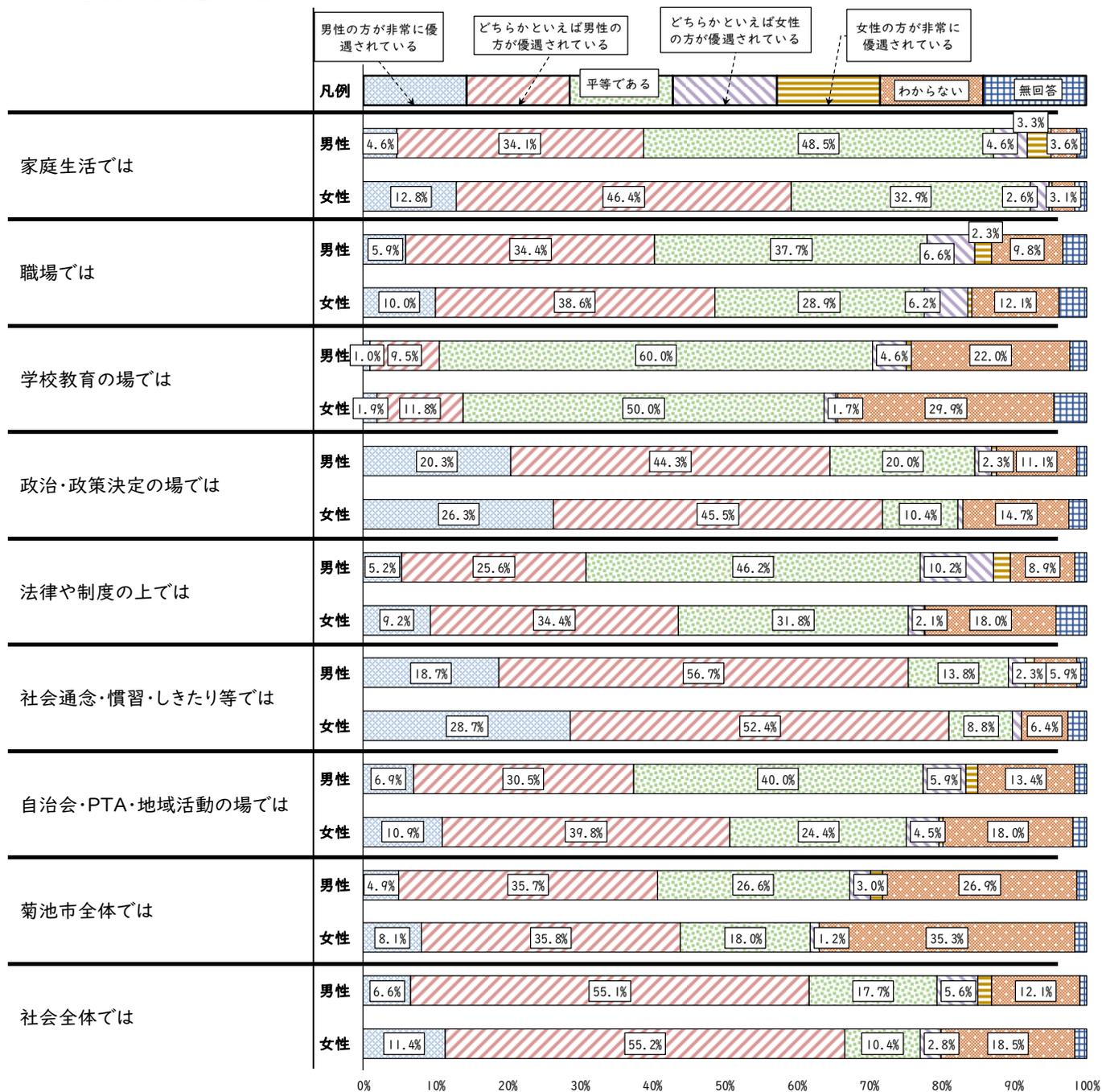
【H26 調査結果】



男女別の比較では、女性より男性の方があらゆる分野で平等と感じている人の割合が高くなっています。特に「家庭生活」、「職場」、「学校教育の場」、「法律や制度の上」、「自治会、PTA、地域活動の場」では男女間で回答結果に10%前後の開きがあり、男女間の意識差がはっきりと表れています。

その原因には、「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識や古くからある習慣等が、現在も残っていることが挙げられると思われます。

### 【男女別調査結果】

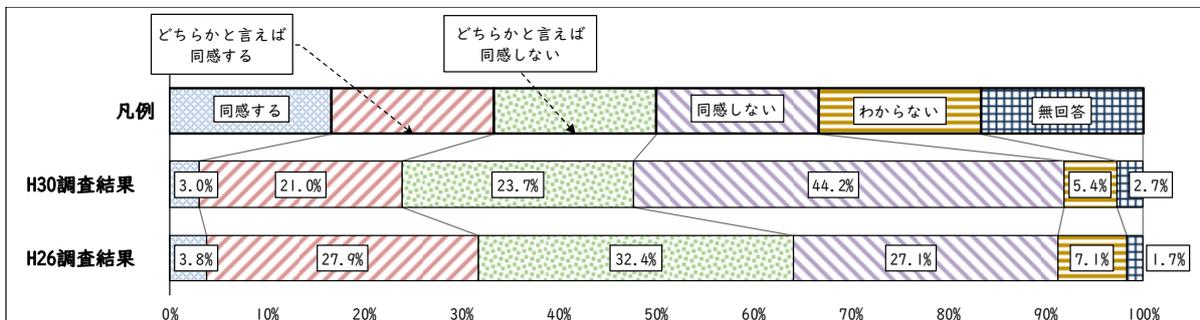


## 2 家庭生活の役割分担について

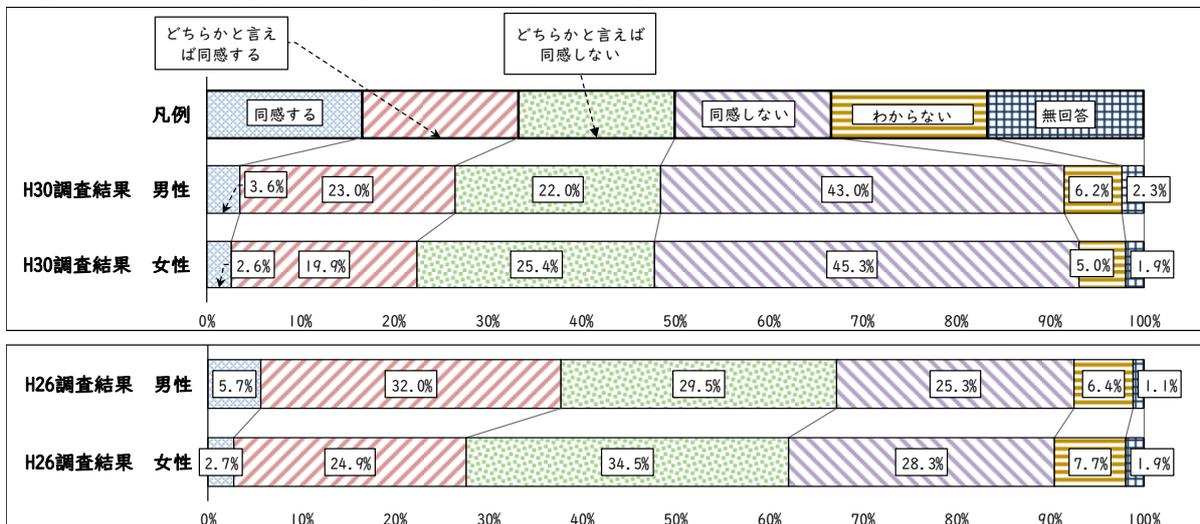
性別によって役割を固定する考え方については、“同感”（「同感する」と「どちらかと言えば同感する」と回答した割合の合計）は24.0%となっており、前回調査と比較すると7%程度減少しています。一方、“同感しない”（「同感しない」と「どちらかと言えば同感しない」と回答した割合の合計）は67.9%となっており、前回調査と比較すると8%程度増加しています。

また、男女別では、ともに“同感”の割合は前回調査と比較して減少しており、“同感しない”の割合は増加しています。“同感”及び“同感しない”男女間の差についても、前回調査と比較して小さくなっています。このことから、全体として、固定的な役割分担意識は、市民の中で低くなってきていることがうかがえます。

【性別によって役割を固定する考え方（全体）】



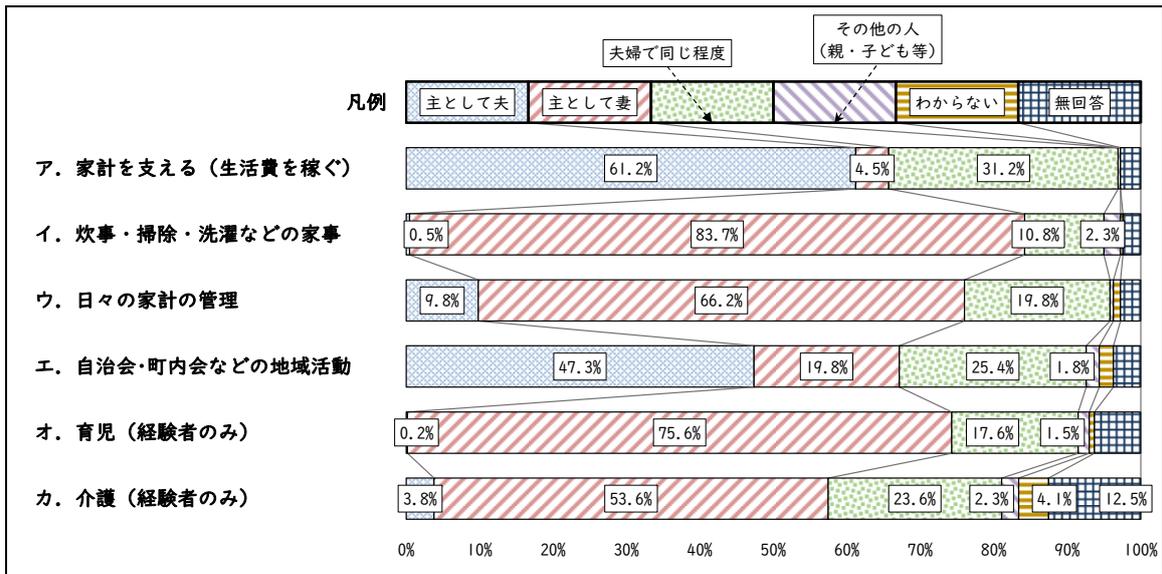
【性別によって役割を固定する考え方（男女別）】



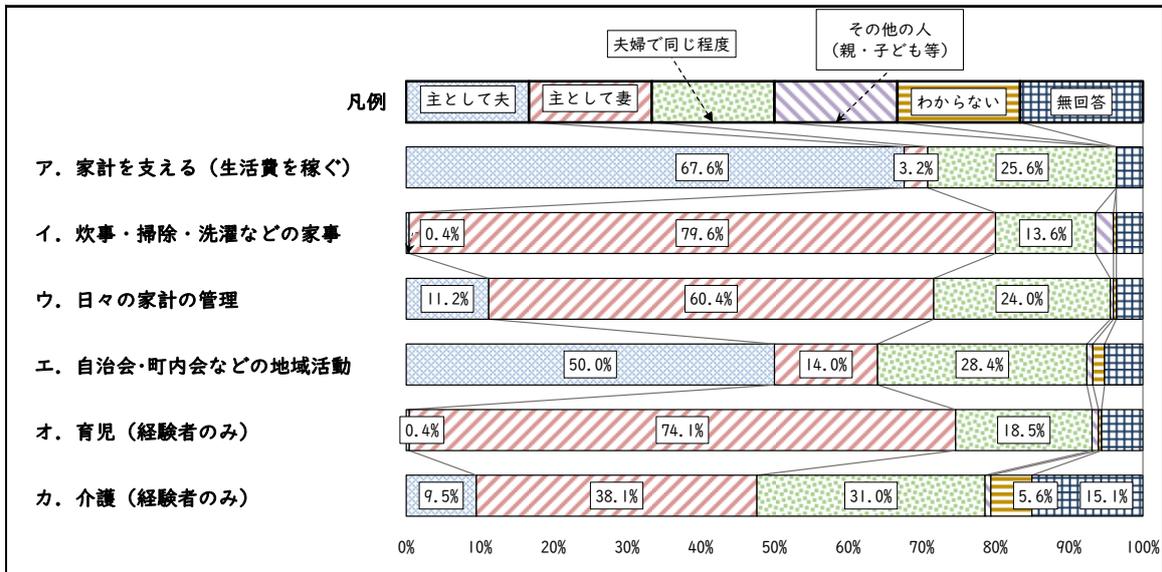
家庭における役割分担については、「家計を支える」と「自治会・町内会などの地域活動」を夫の役割としている家庭が多く、「家事」、「日々の家計の管理」、「育児」、「介護」については妻の役割としている家庭が多い結果となっています。

男女別では、「介護」について、「主として妻」の回答が、男性と比較して女性が24.4ポイント高くなっており、夫婦のどちらが主として介護を行っているかについては、男女間に認識の違いがあることがうかがえます。

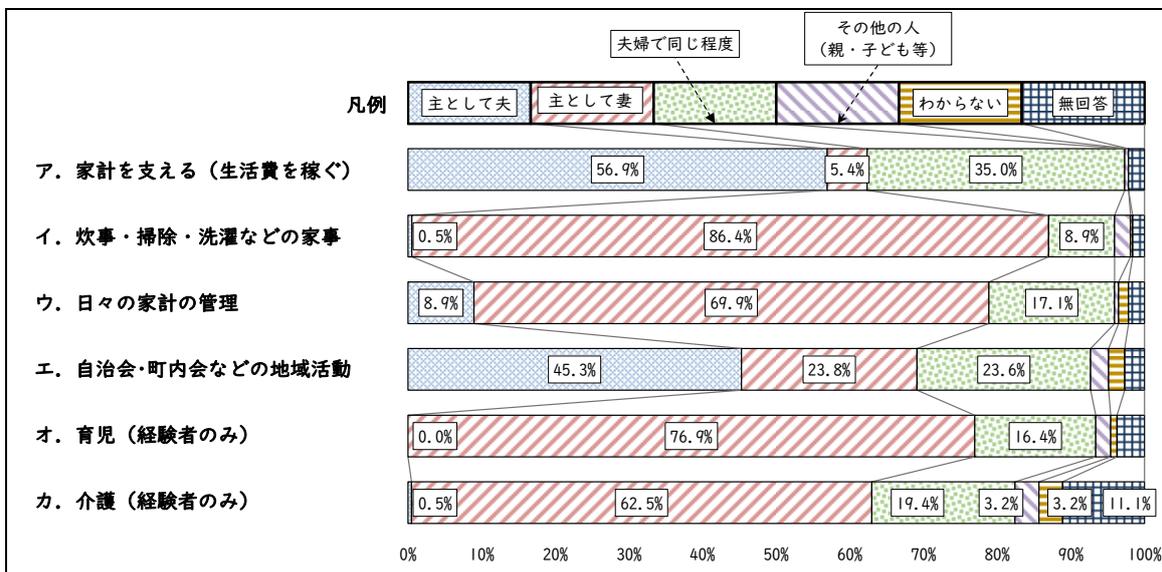
【家庭内の仕事について（全体）】



【家庭内の仕事について（男性）】



【家庭内の仕事について（女性）】



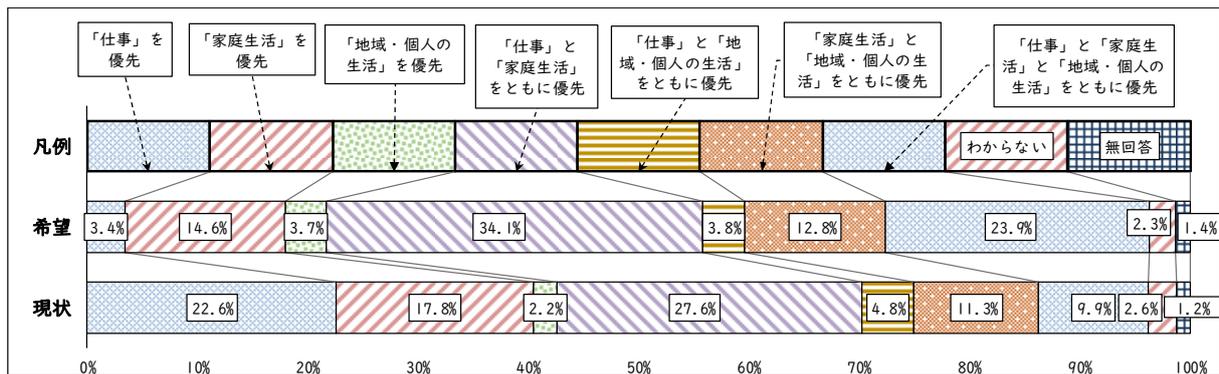
### 3 仕事と家庭・地域生活について

仕事と家庭・地域生活の優先度については、全体では「仕事を優先」（希望 3.4%、現状 22.6%）、  
「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（希望 23.9%、現状 9.9%）が希望と現状の間に大きな乖離が見られます。

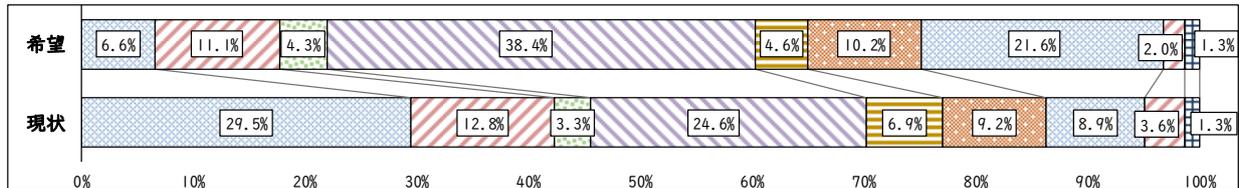
男性では更に「仕事を優先」が現状において高くなり、「仕事と家庭生活や地域・個人の生活をともに優先」が希望通りになっていない様子がうかがえます。男性も女性と同じく就労環境の改善が重要であると考えられ、それが男性の家事や地域活動への参加にもつながっていくことが考えられます。

女性では、希望と現状の両方で最も高い割合となっている「仕事と家庭生活をともに優先」について、希望と現状に大きな乖離は見られないものの、希望では2番目に高い割合となっている「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」については、希望と現状に大きな乖離が見られます。半面、希望では最も低い割合となっている「仕事を優先」が、現状では高い割合となっており、希望と現状を可能な限り一致するためにも、ワーク・ライフ・バランスの推進が今後も重要であると考えられます。

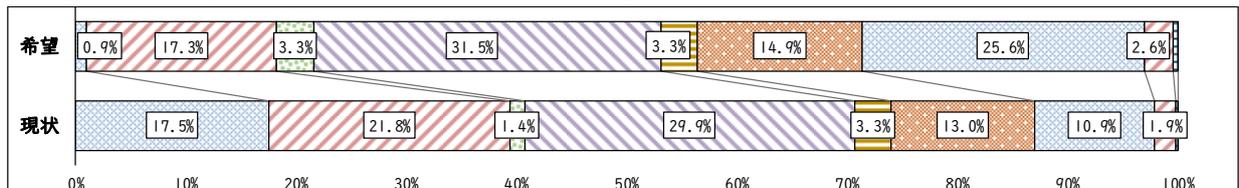
【仕事と家庭・地域生活の希望と現状（全体）】



【仕事と家庭・地域生活の希望と現状（男性）】



【仕事と家庭・地域生活の希望と現状（女性）】

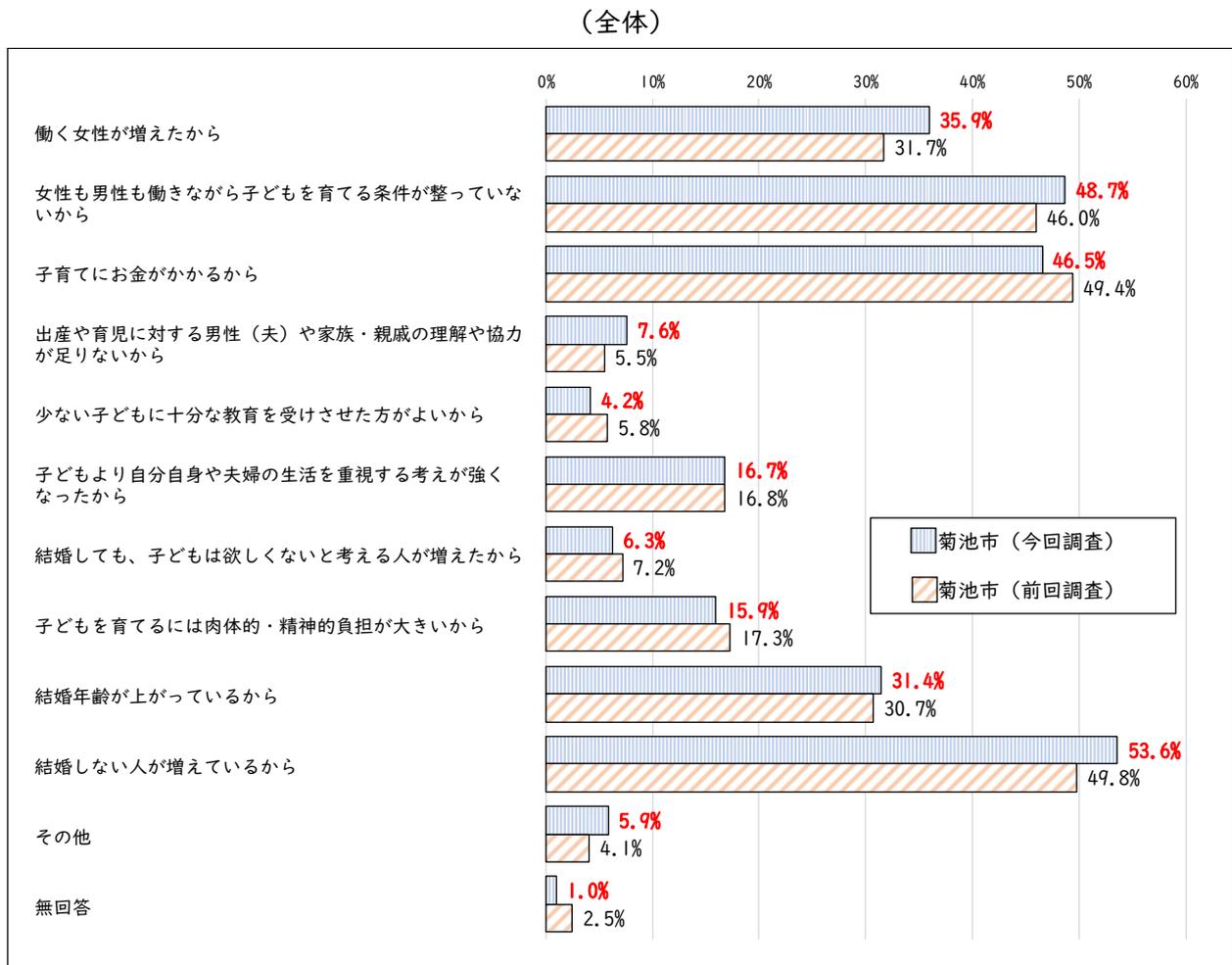


## 4 出生率低下について

出生率低下の原因としては、男女ともに「結婚しない人が増えているから」、「女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」、「子育てにお金がかかるから」、「働く女性が増えたから」といった回答の割合が高く、価値観の変化や経済的な理由、社会情勢の変化が少なからず影響していることが考えられます。

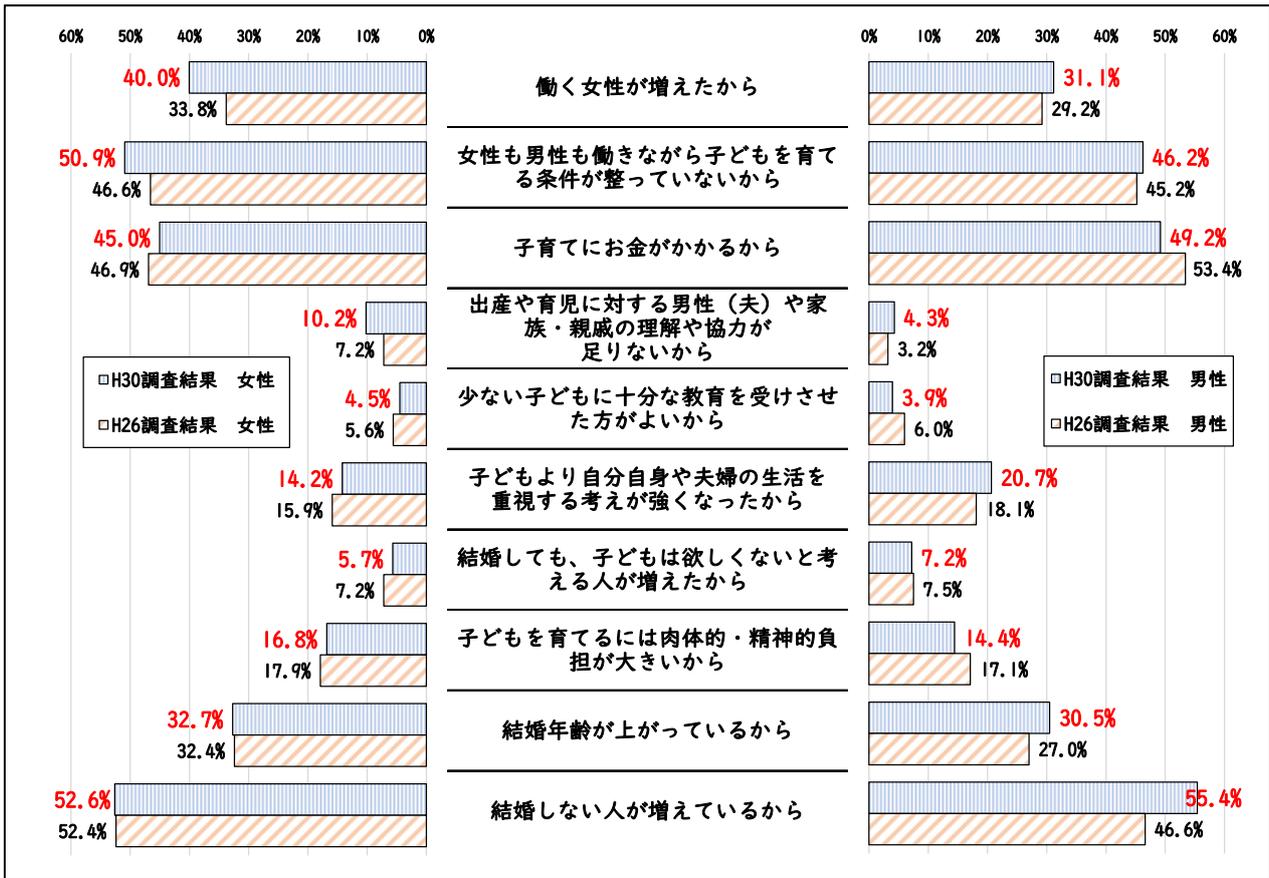
女性の回答では、男性と比較して「働く女性が増えたから」の割合が約1割高くなっています。また、「女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」及び「出産や育児に対する男性や家族・親戚の理解や協力が足りないから」の割合も5%程度高くなっていることから、女性が働きながら安心して育児を行うことについて、不安感を持っていることがうかがえます。

### 【出生率低下の原因について】



(女性)

(男性)



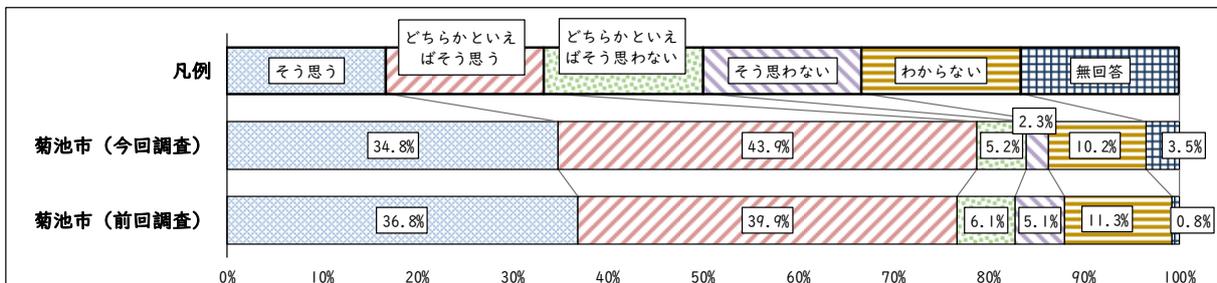
## 5 女性の社会参画について

政策の場で女性の意見がもっと反映できるようになることについては、全体の回答の約8割が肯定的（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計）な考えをもっており、前回調査時と比較して微増傾向にあります。

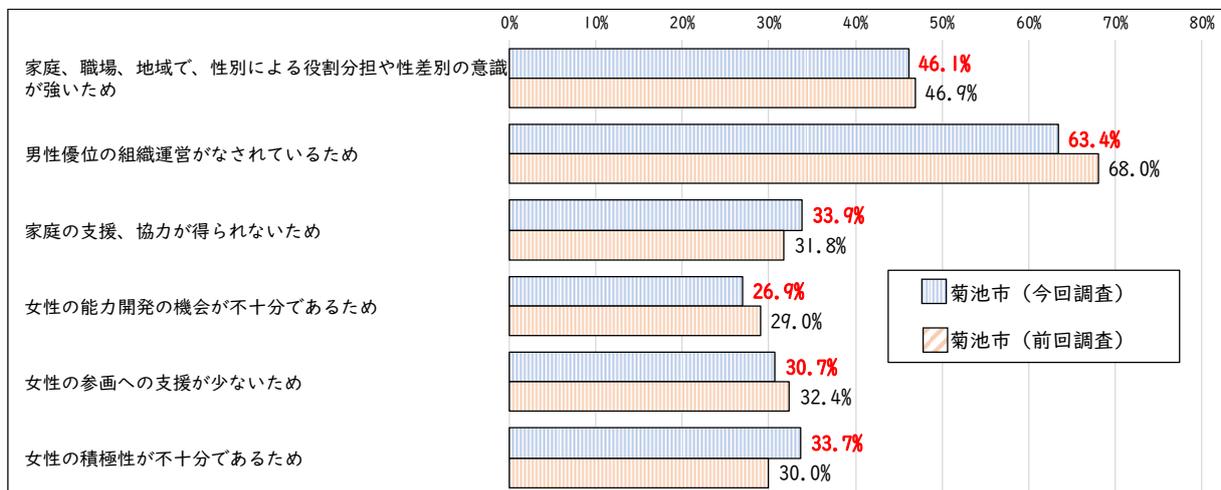
女性の参画が少ない原因としては「男性優位の組織運営がなされているため」の割合が最も高く、次いで「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」となっています。これは前回調査時と同じ傾向となっており、いまだに様々な場における性別による役割分担意識が強く存在することが課題として挙げられます。

また、「家庭の支援、協力が得られないため」及び「女性の積極性が不十分であるため」の回答については、前回調査時と比較して割合が微増しています。

【政策の方針決定の場で、女性の意見がもっと反映されることについて】

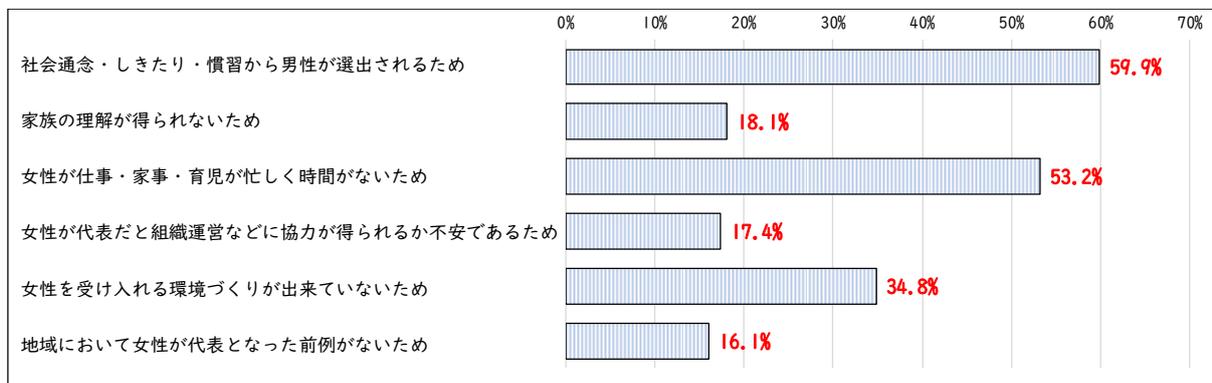


【企画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ないことの原因について】



地域の代表の団体に女性が少ない原因についても、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」、「女性が仕事・家事・育児が忙しく時間がないため」、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」の回答が多数挙がっており、性別による役割分担意識を解消するための取り組みや、ワーク・ライフ・バランスの更なる推進が今後も重要であると考えられます。

【自治会やPTAの会長など、地域の団体の代表に女性が少ない原因について】

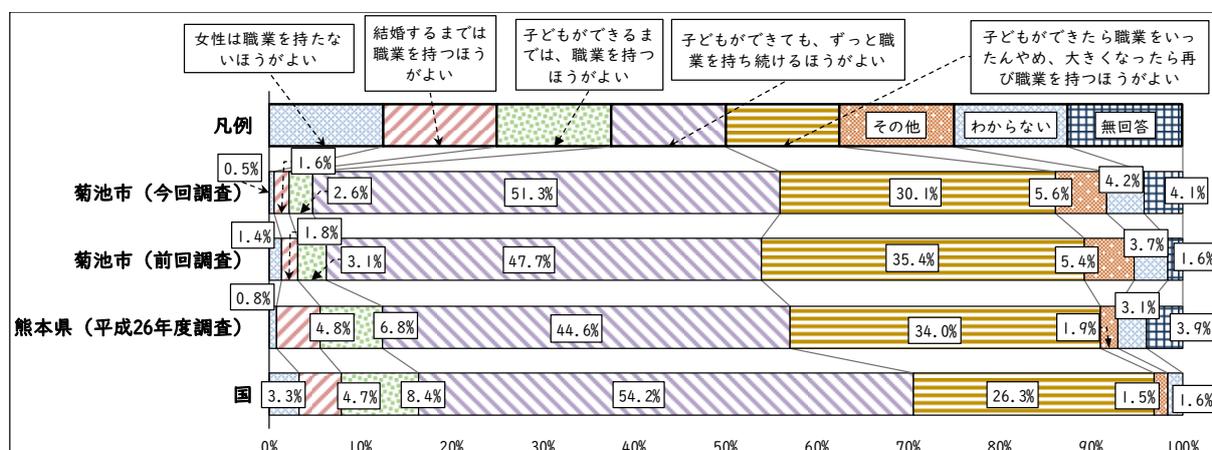


## 6 女性が職業を持つことについて

女性が職業を持つことについては、前回調査と同じく、子どもができて就業を継続する、もしくは中断後に再就職するという回答が8割を占めています。一方、結婚・出産を機に離職する方がいいという考え方は少数である上に前回調査よりも減少傾向にあり、女性の回答の割合では、男性と比較してさらに低くなっています。

また、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合は前回調査と比較して3.6ポイント上昇し、「子どもができたなら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合は前回調査と比較して5.3ポイント減少していることから、子育てをしながら就業を続けることが好ましいと考える市民が増加していることがうかがえます。

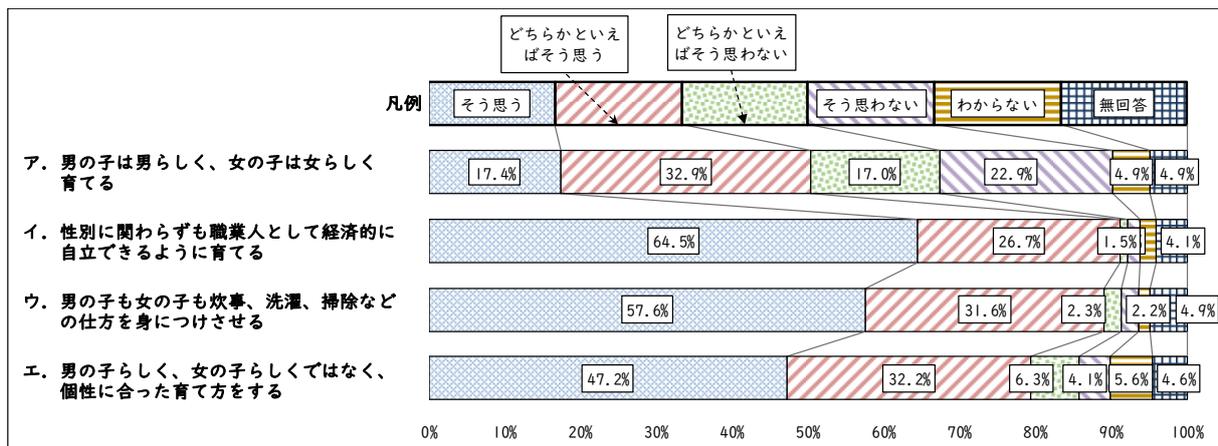
【女性が職業を持つことについて】



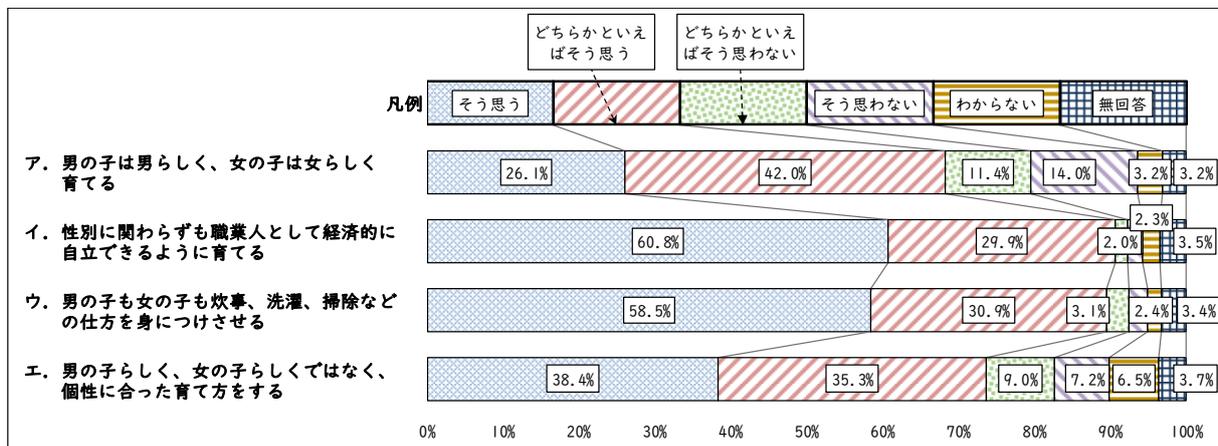
## 7 子育て、教育について

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という、固定観念的に男女を区別した方針については、“賛成派”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が前回調査では68.1%であったのに対し、今回調査では50.3%と大きく減少しています。その他の項目では賛成派は9割前後を占めており、性別に関係なく子ども自身の個性や、将来的に身に着けるべき生活力を重視した教育方針が主流となってきていることがうかがえます。

【子どもの育て方について（H30 調査結果）】



【子どもの育て方について（H26 調査結果）】



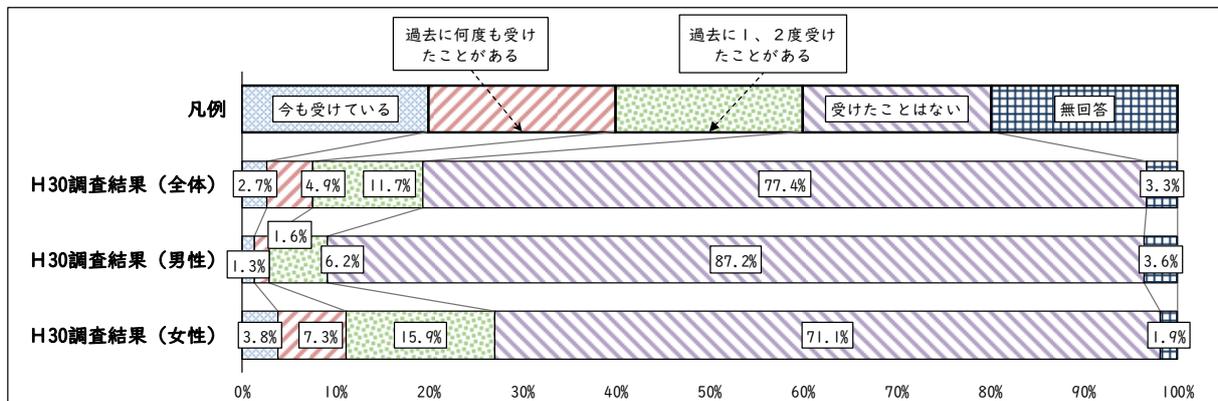
## 8 配偶者からの暴力(ドメスティックバイオレンス(通称:DV))について

これまでにDVを受けた経験については、“経験がある”(「今も受けている」と「過去に何度も受けたことがある」と「過去に1、2度受けたことがある」の合計)の割合は19.3%となっています。女性では“経験がある”の割合は27.0%となっており、およそ3人に1人がこれまでにDVの経験があるという結果となっています。

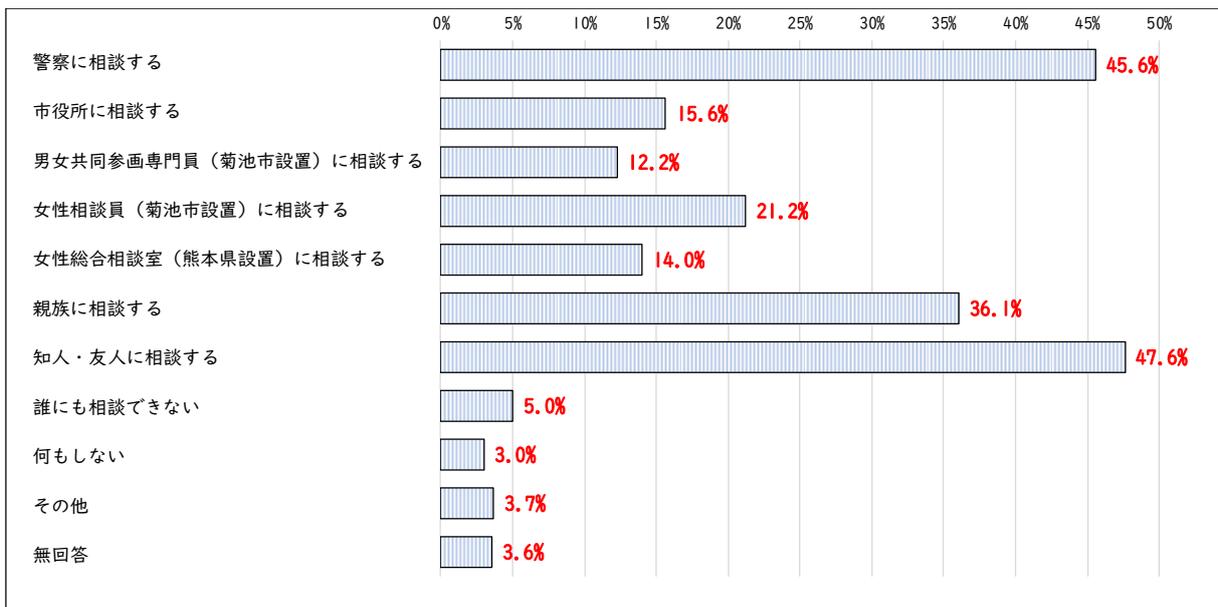
DVを受けた場合、もしくはDVの相談を受けた場合の対処としては、「知人・友人に相談する」(47.6%)、「警察に相談する」(45.6%)、「親族に相談する」(36.1%)が上位となっており、近い間柄の人への相談が主な対処となっていることがうかがえます。

身の回りに相談できる相手がいない場合の相談先として、公的な相談場所の役割は、今後更に重要となると考えられ、そのような場所の周知は大変重要です。

### 【恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けた経験について】



### 【あなた自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたり、あなたの知り合いから相談を受けた場合について】

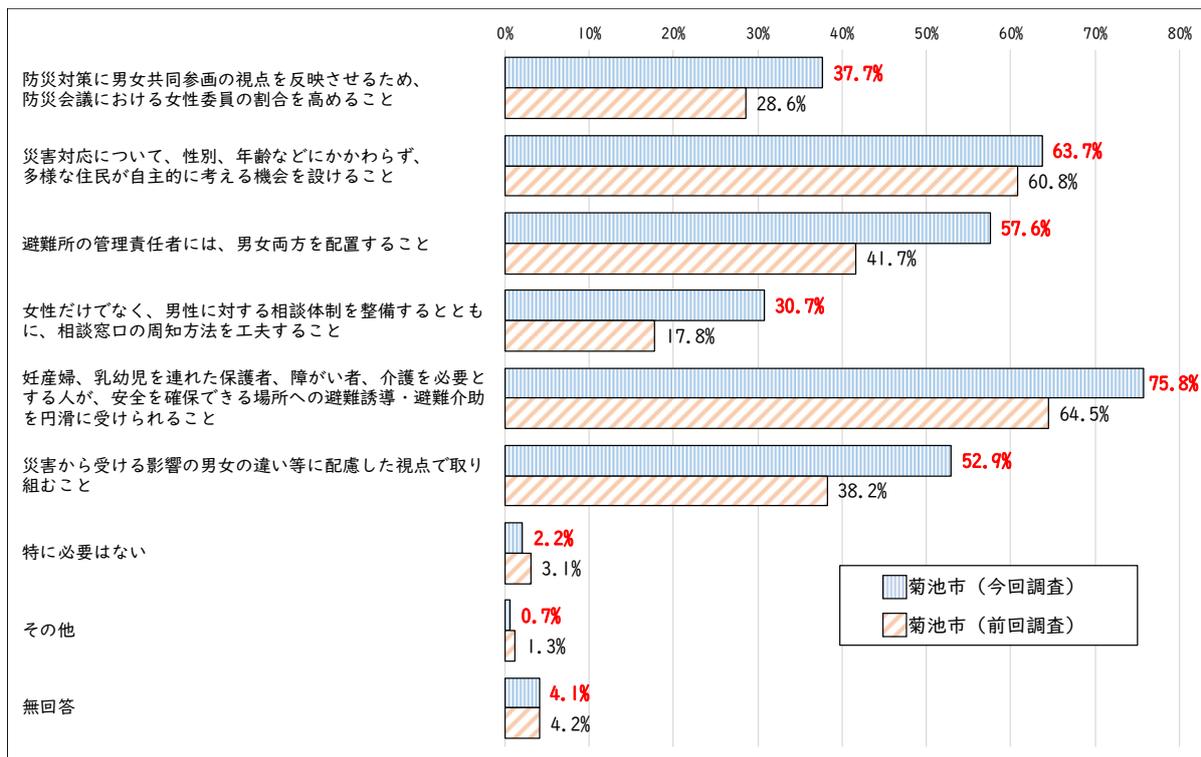


## 9 防災の分野における男女共同参画について

昨今、地震や水害といった自然災害による被害の発生により、多くの方が被害に遭われています。熊本県においても2年前の熊本地震により被災し、現在も苦しい生活を余儀なくされている方が大勢いらっしゃいます。

防災時における男女共同参画の推進について必要なこととしては、弱者への適切な支援や、男女の違いに配慮した避難体制の整備、防災に関する検討の場における女性の意見の反映等が挙げられており、今回の調査結果においても、それらに基づいた回答が上位に挙がる結果となっています。

### 【防災の分野における男女共同参画の推進について必要と考えられること】



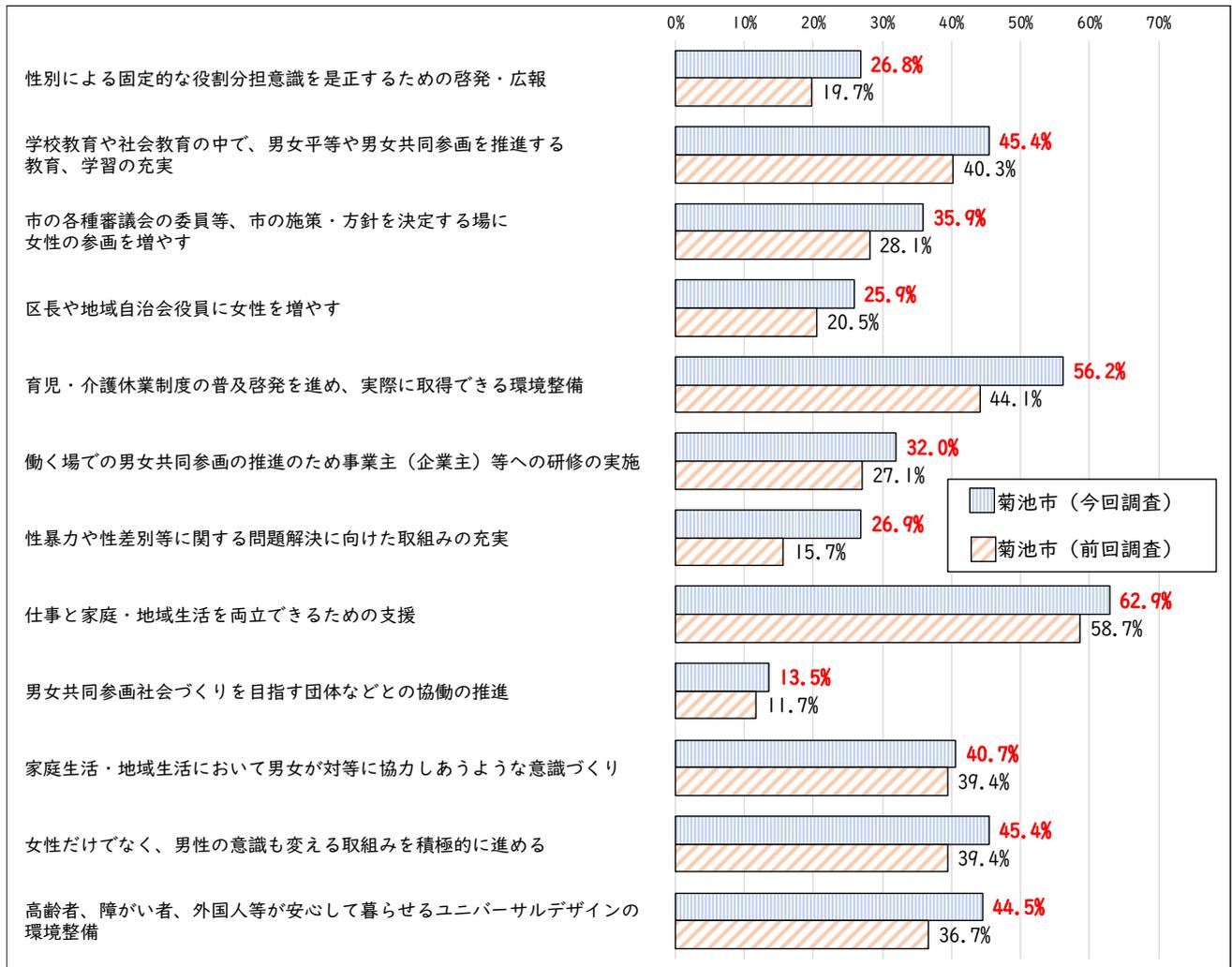
## 10 男女共同参画社会の推進について

全ての項目において、前回調査と比較して割合が上昇していることから、男女共同参画に関する市民の意識や関心の向上がうかがえます。

その中で、「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」(62.9%)、「育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備」(56.2%)については5割を超える回答が挙がっていることから、男女ともに人生において、あらゆる選択を自由に行うことができる社会を、多くの市民が希望していることが考えられます。

また、前回調査より割合が大きく上昇した項目としては、「育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備」(44.1%→56.2%、12.1%上昇)、「性暴力や性差別等に関する問題解決に向けた取組みの充実」(15.7%→26.9%、11.2%上昇)となっており、具体的な取組みの検討を進めることが必要であると考えられます。

### 【男女共同参画社会の実現のために、菊池市が今後力を入れていくべきことについて】

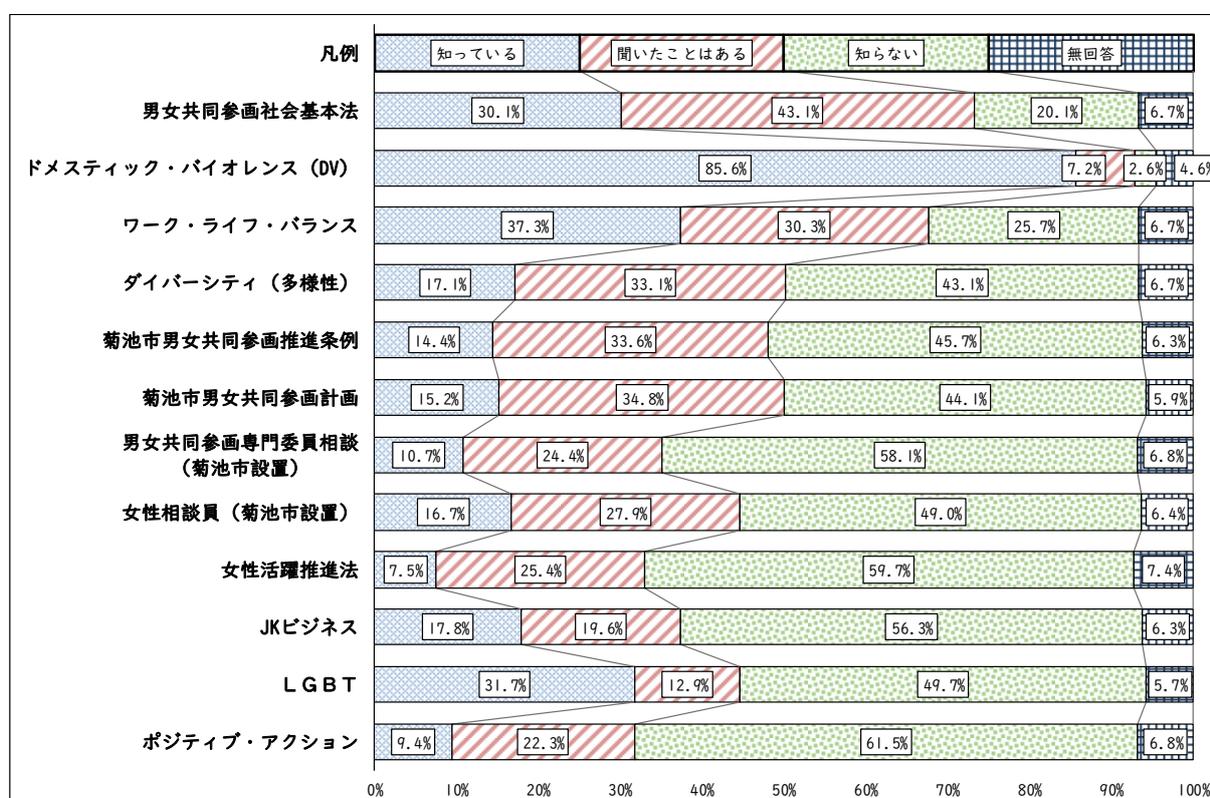


男女共同参画に関する用語の認知度では、「ドメスティック・バイオレンス」が“認知している”（「知っている」と「聞いたことはある」の合計）の割合が最も高くなっています。

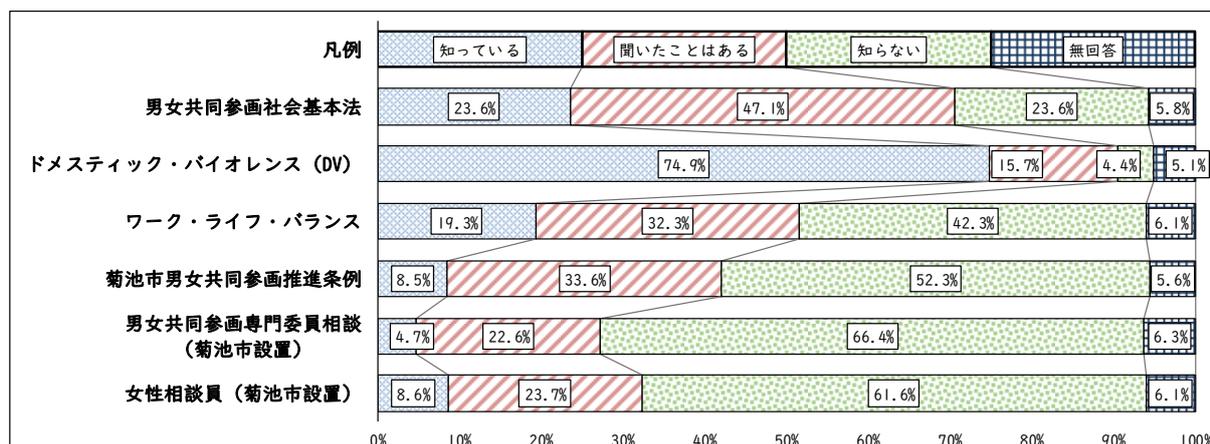
一方、「知らない」の割合では、「ポジティブ・アクション」（61.5%）、「女性活躍推進法」（59.7%）、「男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）」（58.1%）、「JKビジネス」（56.3%）が5割を超える結果となっており、更なる周知が必要と考えられます。とりわけ、「女性活躍推進法」については、女性が社会で活躍するための礎となっているものであることから、より一層の周知が求められていると考えられます。

また、前回調査の比較では、“認知している”の割合が大きく上昇した項目として、「ワーク・ライフ・バランス」（51.6%→67.6%、16.0%上昇）が挙げられ、市民への浸透が進んでいることがうかがえます。

【男女共同参画に関する用語の認知度について（H30 調査）】



【男女共同参画に関する用語の認知度について（H26 調査）】



### Ⅲ 調査結果

#### ■回答者の属性

##### ●性別

男性	女性	無回答
305	422	8
41.5%	57.4%	1.1%

##### ●年代

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
44	74	116	147	225	121	8
6.0%	10.1%	15.8%	20.0%	30.6%	16.5%	1.1%

##### ●職業

会社員・ 団体職員・ 公務員・教員	会社経営・ 自由業・自営業 ・家業	農林業	専業主婦・ 専業主夫	パート・ アルバイト	学生	無職	その他	無回答
250	88	54	89	115	8	107	17	7
34.0%	12.0%	7.3%	12.1%	15.6%	1.1%	14.6%	2.3%	1.0%

##### ●婚姻

結婚していない	結婚している・ 結婚していた (事実婚・離死 別含む)	無回答
107	621	7
14.6%	84.5%	1.0%

##### ●配偶者の就業状況

就業している	就業していない	無回答
381	189	165
51.8%	25.7%	22.4%

##### ●世帯の状況

単身世帯 (1人暮らし)	夫婦世帯 (夫婦のみ)	二世帯世帯 (親と子)	三世帯世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
51	182	335	130	29	8
6.9%	24.8%	45.6%	17.7%	3.9%	1.1%

##### ●居住地域

旧菊池市	旧七城町	旧旭志村	旧泗水町	無回答
373	74	58	223	7
50.7%	10.1%	7.9%	30.3%	1.0%

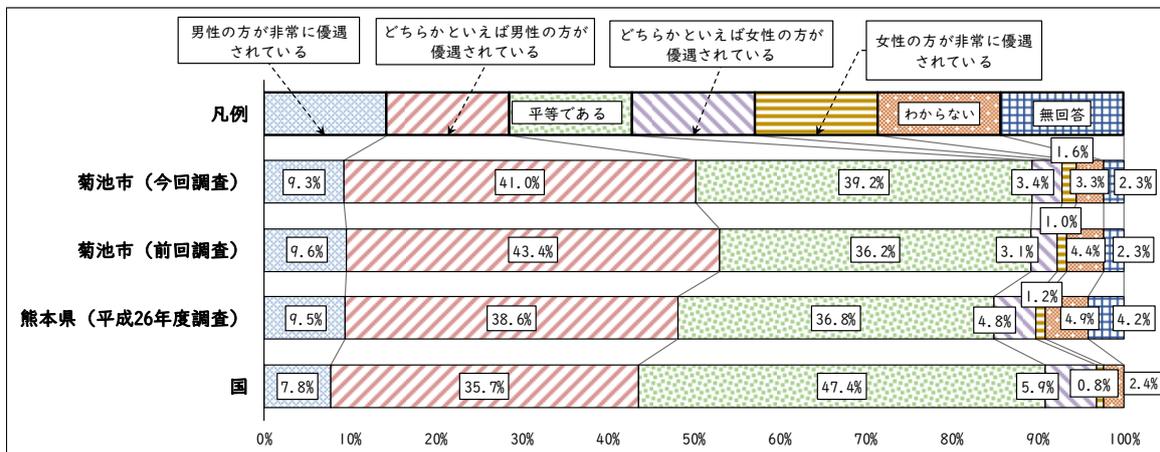
# 1 男女平等に関する考え方について

問1 社会のいろいろな面において、男女は平等になっていると思いますか。(単数回答)

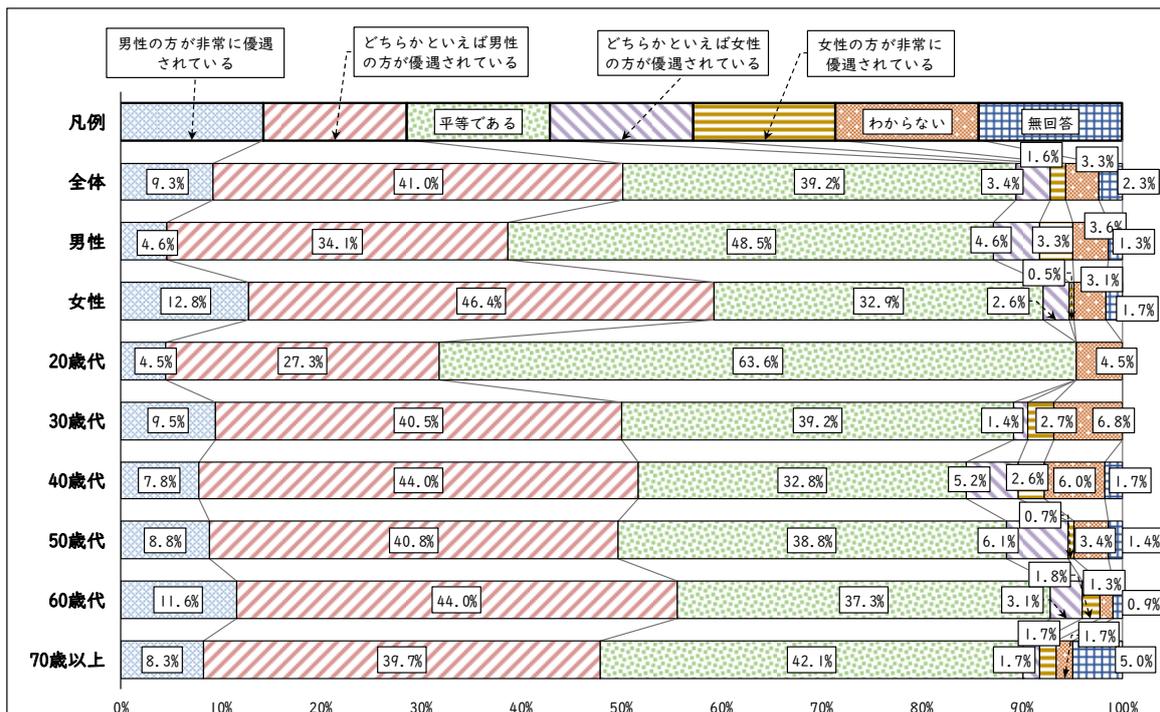
## ア. 家庭生活では

- 家庭生活では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(41.0%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(39.2%)、「男性の方が非常に優遇されている」(9.3%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合の合計)と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合では、男性が48.5%に対して、女性は32.9%となっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも8.2ポイント低くなっています。

【全体】



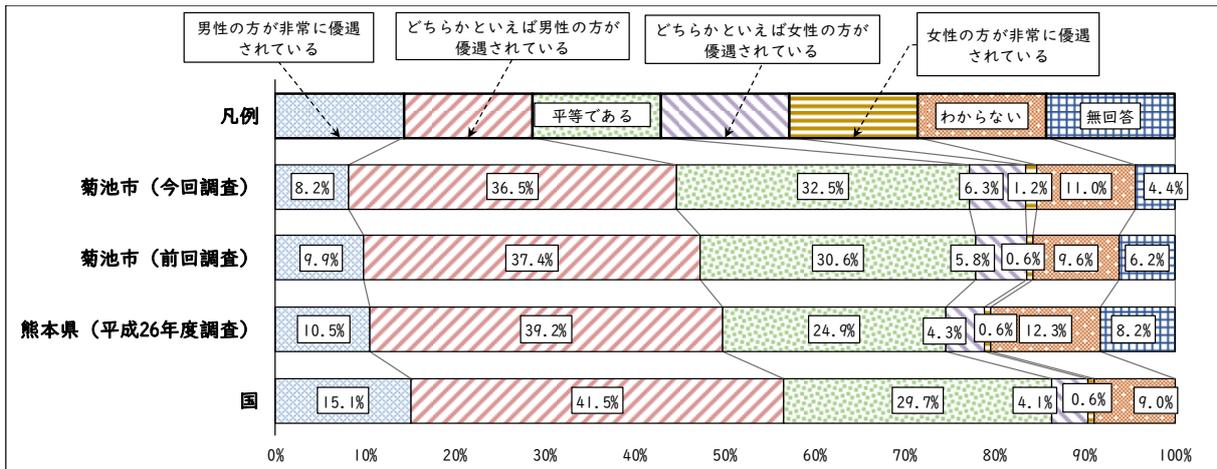
【性・年代別】



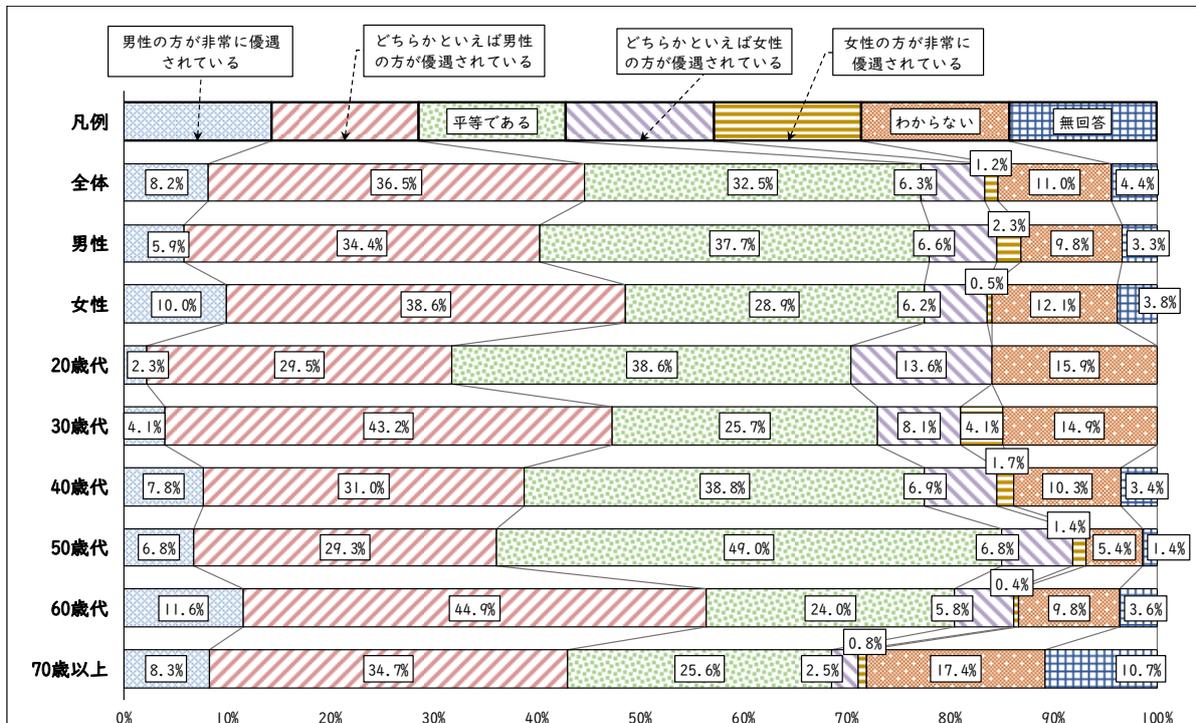
## イ. 職場では

- 職場では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(36.5%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(32.5%)、「わからない」(11.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合では、男性が37.7%に対して、女性は28.9%となっています。
- 年代別にみると、60歳代において、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。
- 他統計結果との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、全国よりも11.9ポイント低くなっています。

【全体】



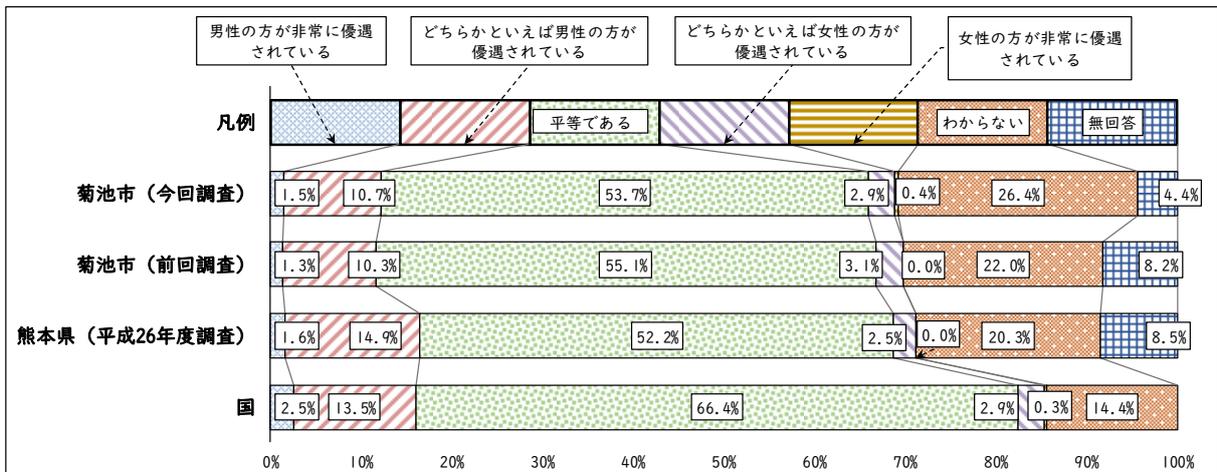
【性・年代別】



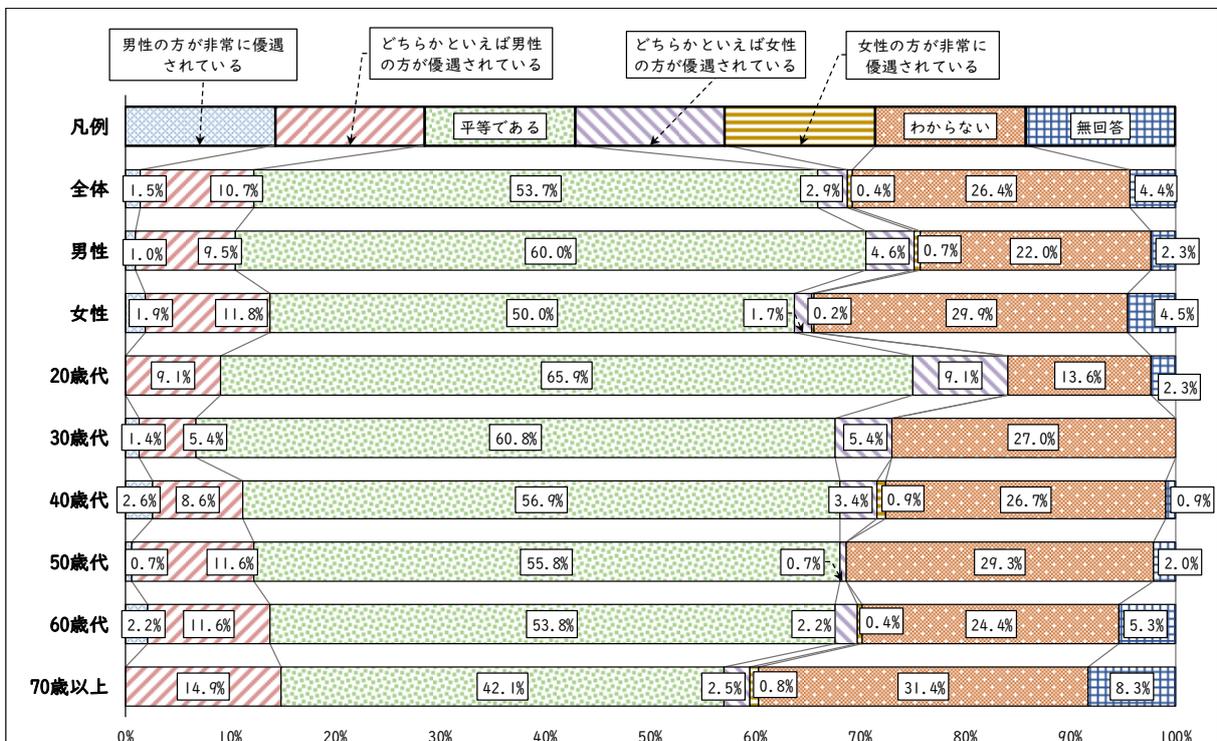
### ウ. 学校教育の場では

- 学校教育の場では、「平等である」(53.7%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(26.4%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(10.7%)となっています。
- 年代別、男女別にみても、「平等である」の割合が5割前後の回答となっており、どの世代、性別でも学校教育の場では平等と考える人が多いことが分かります。
- 年代別にみると、「平等である」の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも12.7%低く、熊本県よりも1.5%高くなっています。

【全体】



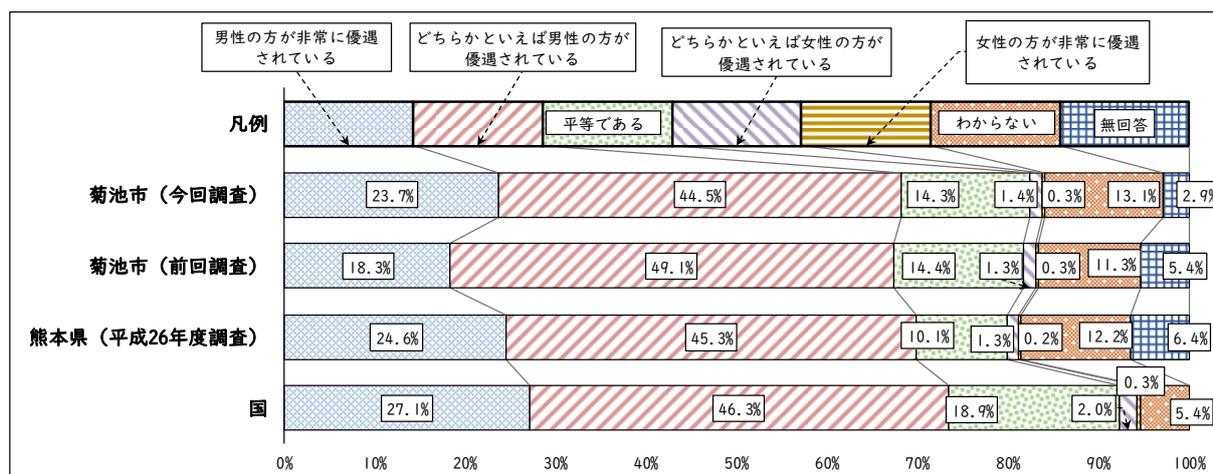
【性・年代別】



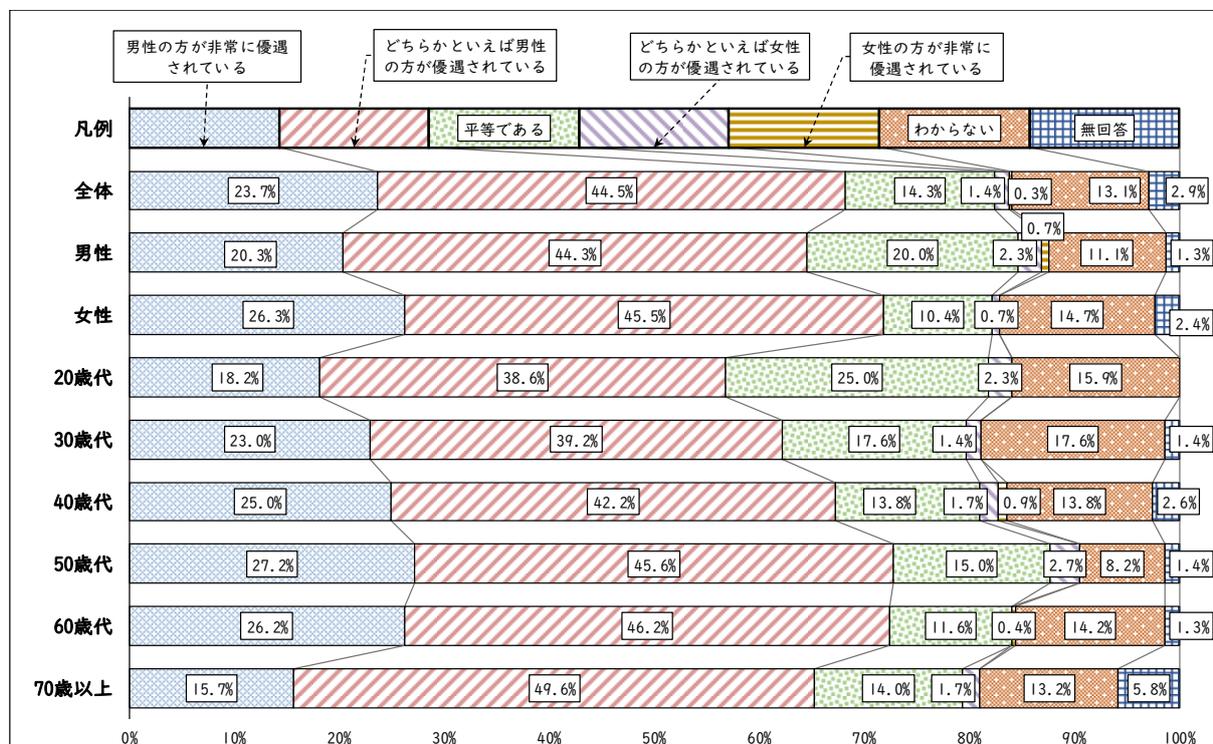
## エ. 政治・政策決定の場では

- 政治・政策決定の場では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(44.5%)の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(23.7%)、「平等である」(14.3%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも4.6%低くなっています。

【全体】



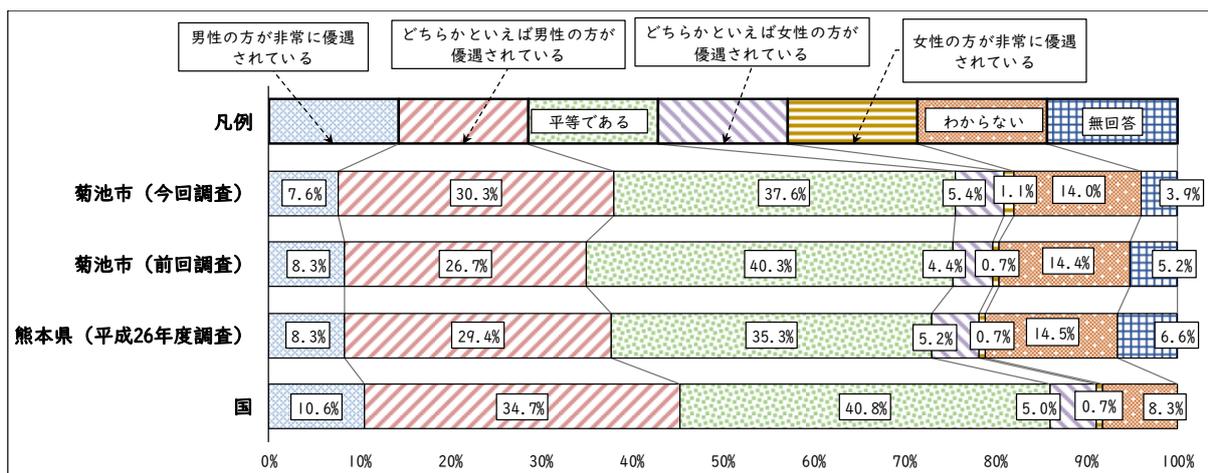
【性・年代別】



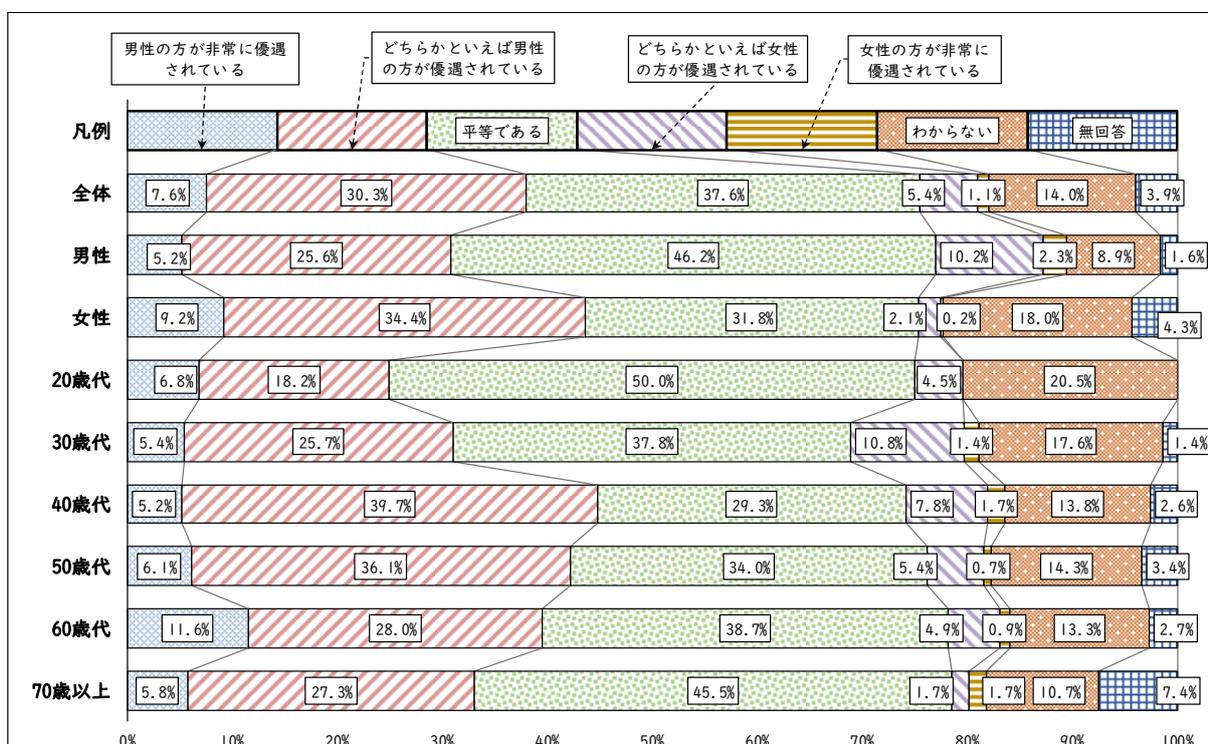
## オ. 法律や制度の上では

- 法律や制度の上では、「平等である」(37.6%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(30.3%)、「わからない」(14.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が46.2%に対して、女性は31.8%となっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも3.2%低く、熊本県よりも2.3%高くなっています。

【全体】



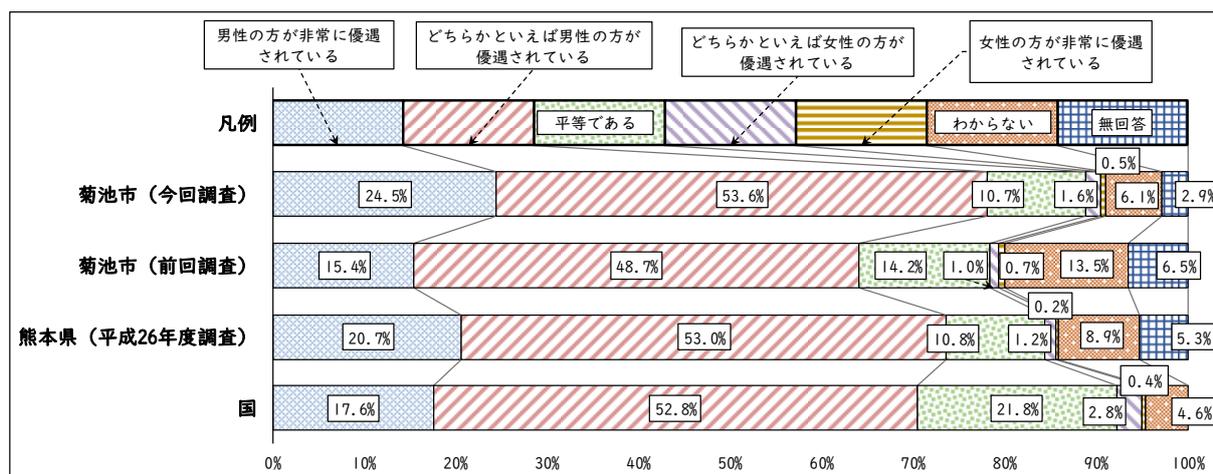
【性・年代別】



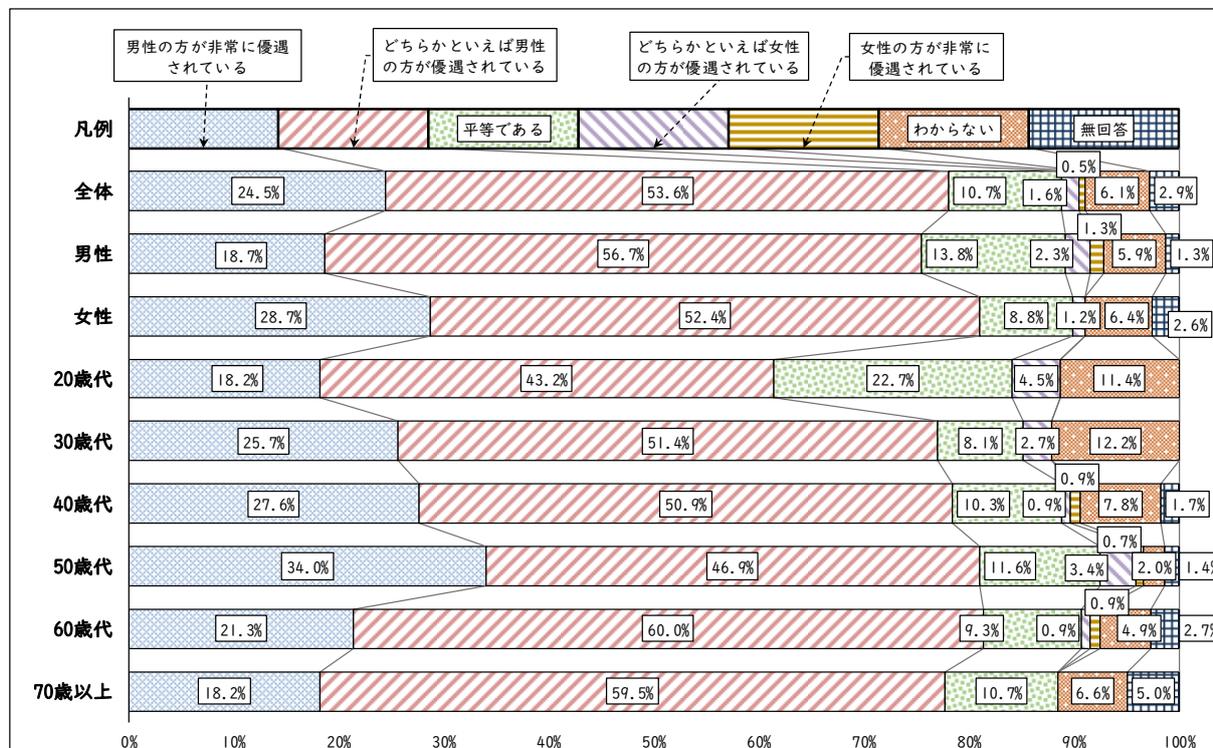
## カ. 社会通念・慣習・しきたり等では

- 社会通念・慣習・しきたり等では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(53.6%)の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(24.5%)、「平等である」(10.7%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が13.8%に対して、女性は8.8%となっています。
- 他統計結果との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、全国よりも7.7ポイント高く、熊本県よりも4.4ポイント高くなっています。

【全体】



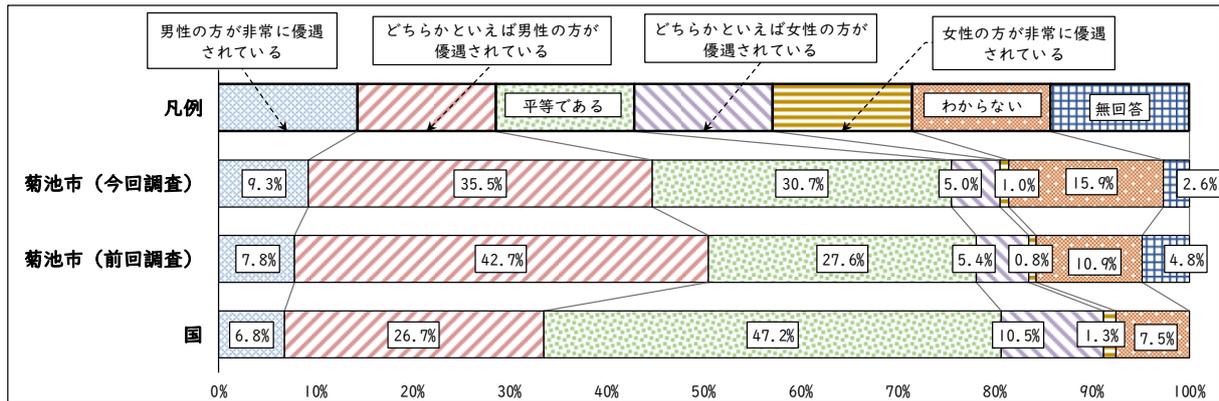
【性・年代別】



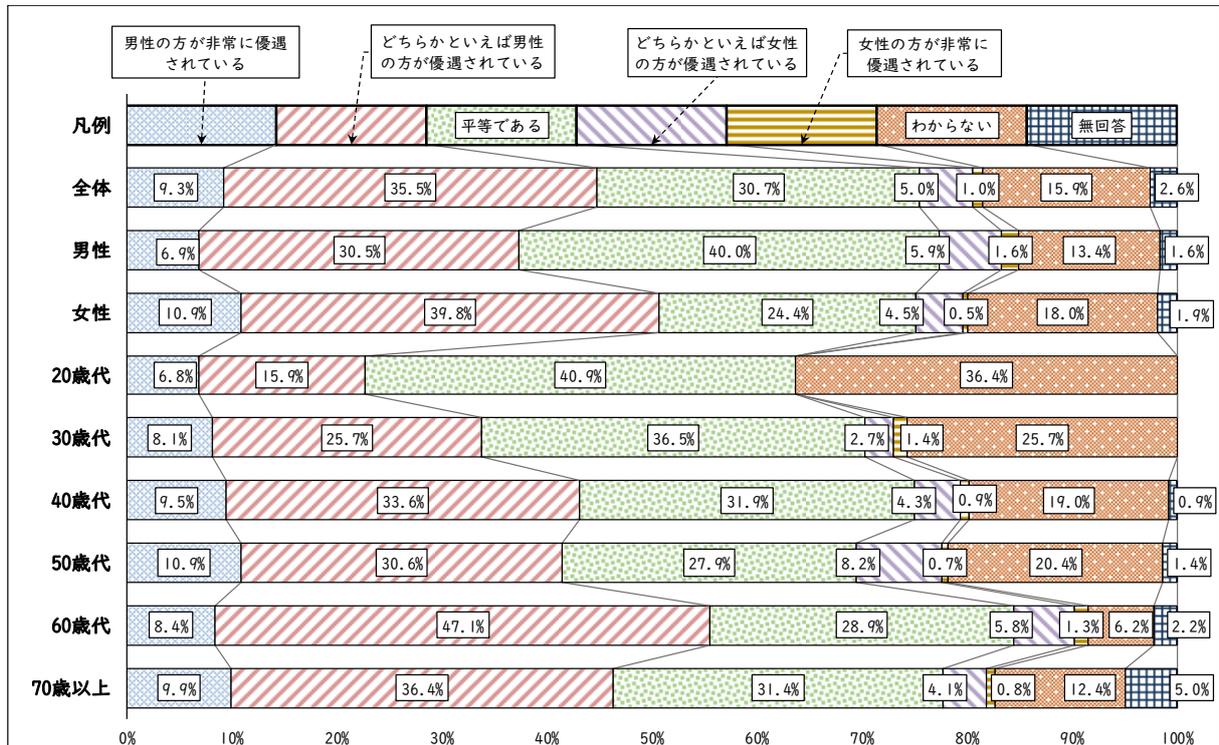
## キ. 自治会・PTA・地域活動の場では

- 自治会・PTA・地域活動の場では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(35.5%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(30.7%)、「わからない」(15.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が40.0%に対して、女性は24.4%となっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも16.5%低くなっています。

【全体】



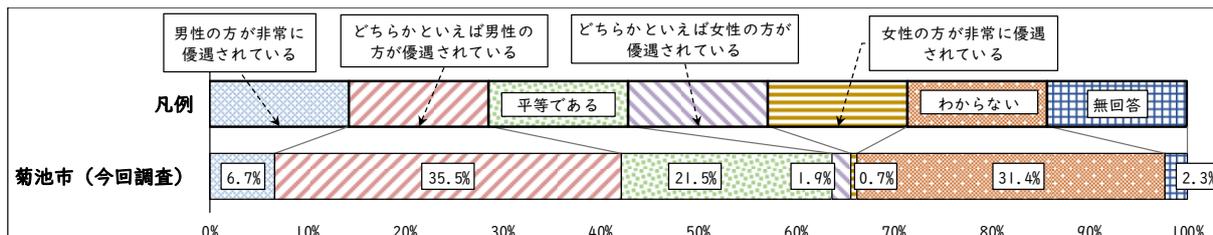
【性・年代別】



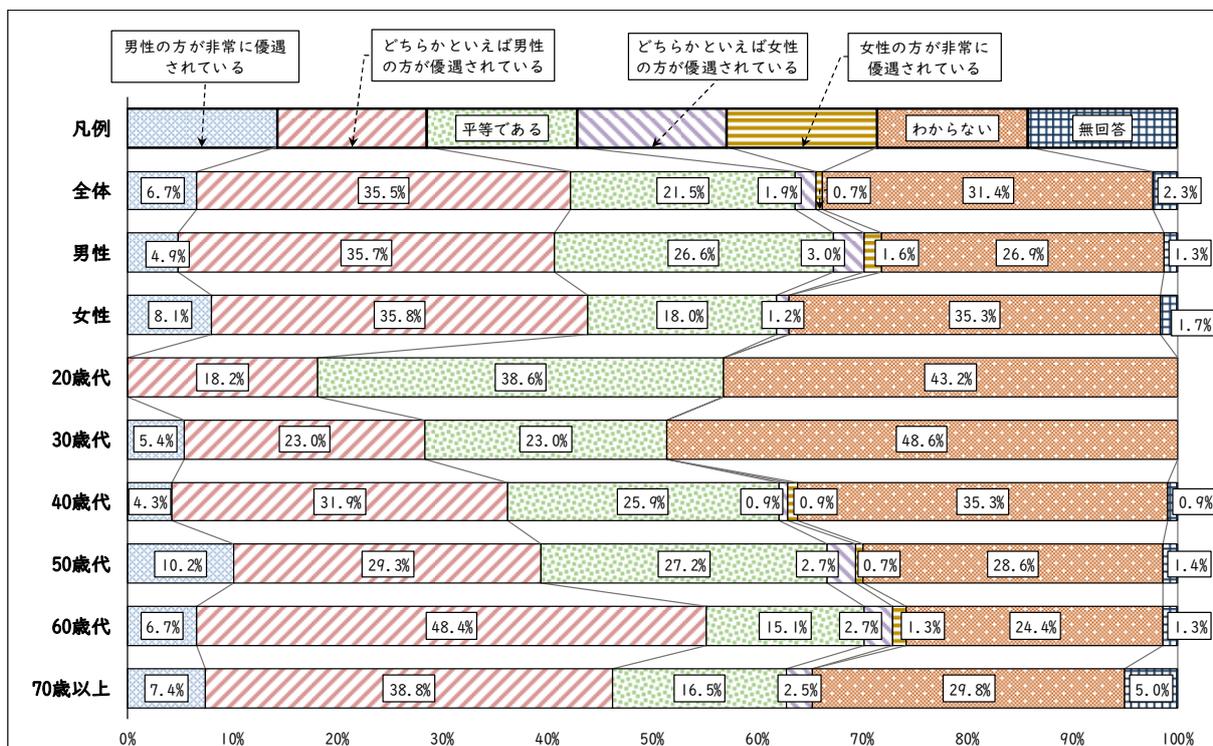
## ク. 菊池市全体では

- 菊池市全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(35.5%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(31.4%)、「平等である」(21.5%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が26.6%に対して、女性は18.0%となっています。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるに従って“男性優遇”と感じている人の割合が高くなる傾向にあります。

【全体】



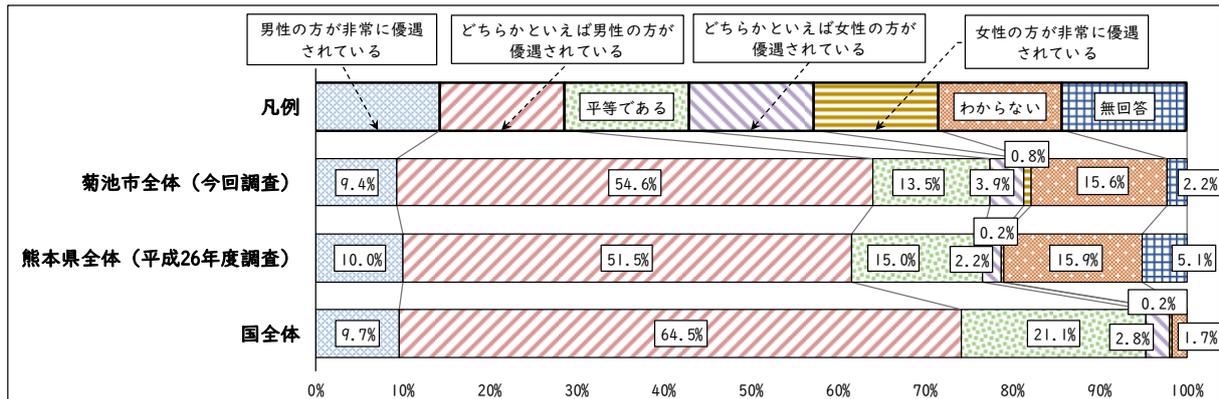
【性・年代別】



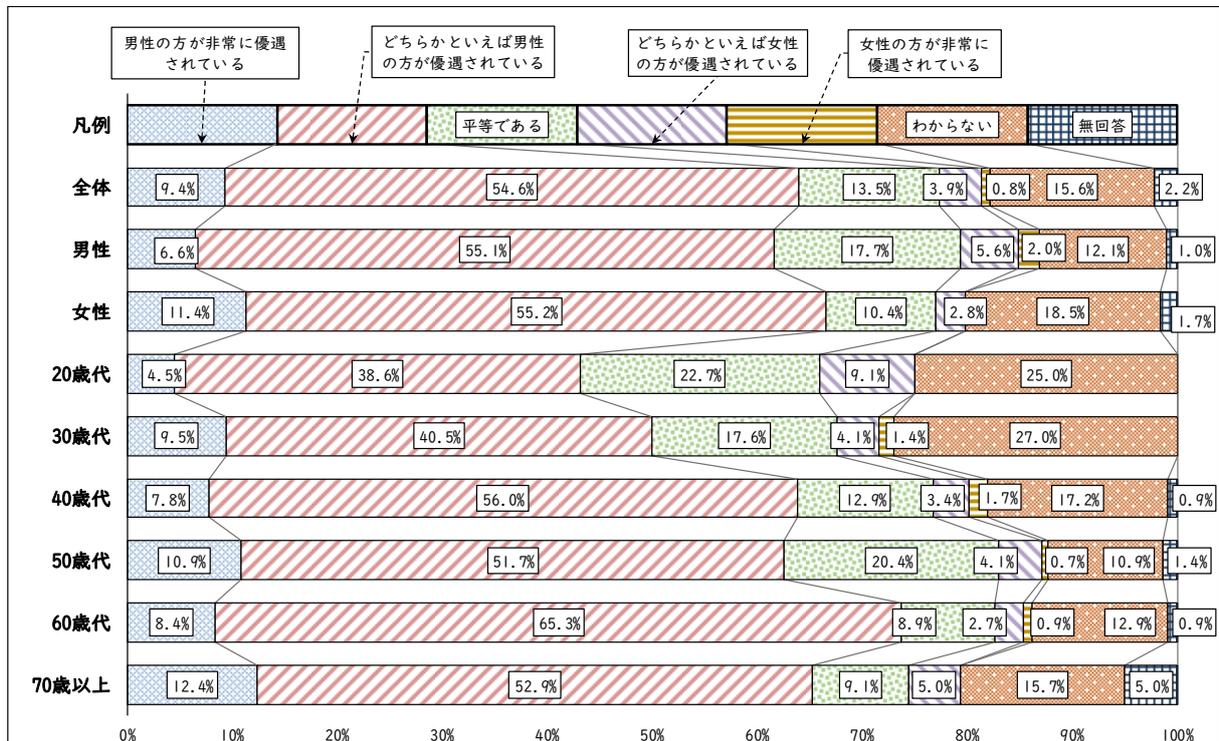
## ケ. 社会全体では

- 社会全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(54.6%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(15.6%)、「平等である」(13.5%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が、“男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が17.7%に対して、女性は10.4%となっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも7.6%低くなっています。

【全体】



【性・年代別】

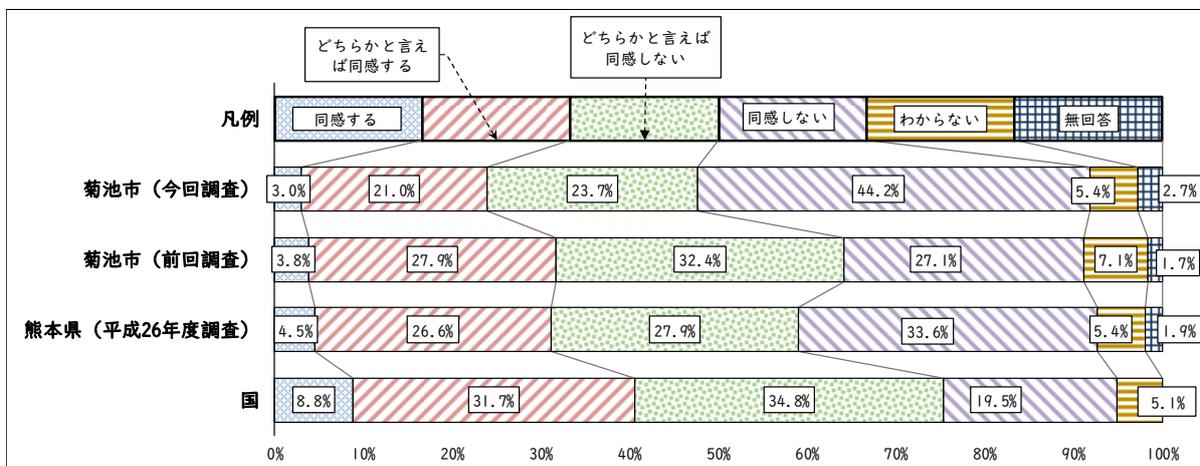


## 2 家庭生活の役割分担について

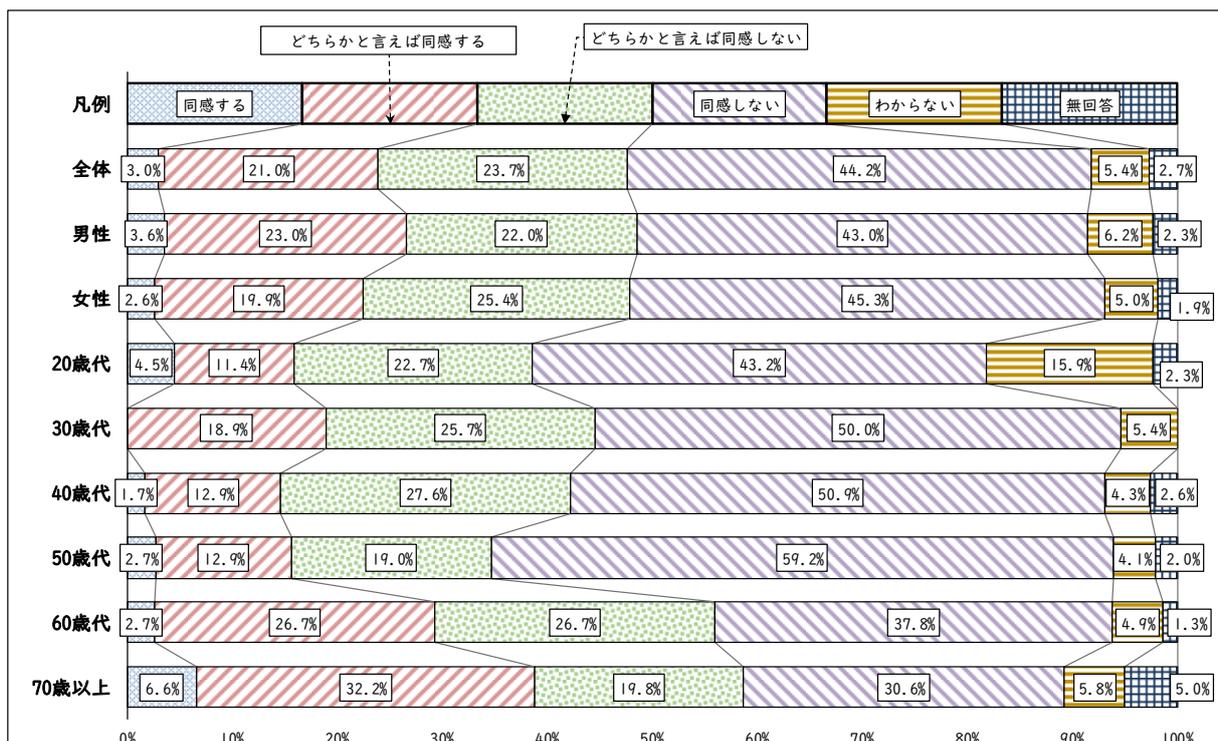
問2 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

- 性別で役割を固定する考え方については、「同感しない」(44.2%)の割合が最も高く、次いで「どちらかと言えば同感しない」(23.7%)、「どちらかと言えば同感する」(21.0%)となっています。
- 男女別にみると、「同感しない」「どちらかと言えば同感しない」と回答している人は、男性(65.0%)に比べて女性(70.7%)の割合が高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「同感しない」「どちらかと言えば同感しない」と回答している人の割合が、全国よりも13.6%高くなっています。

【全体】



【性・年代別】

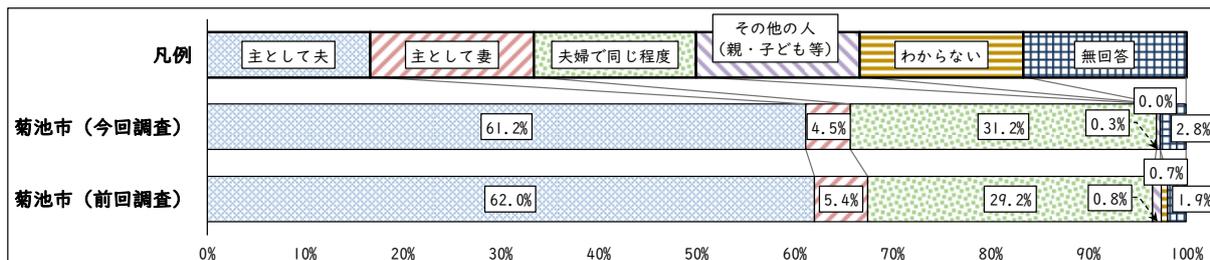


問3 「結婚している・していた（事実婚・離死別を含む）」方にお尋ねします。あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。（単数回答）

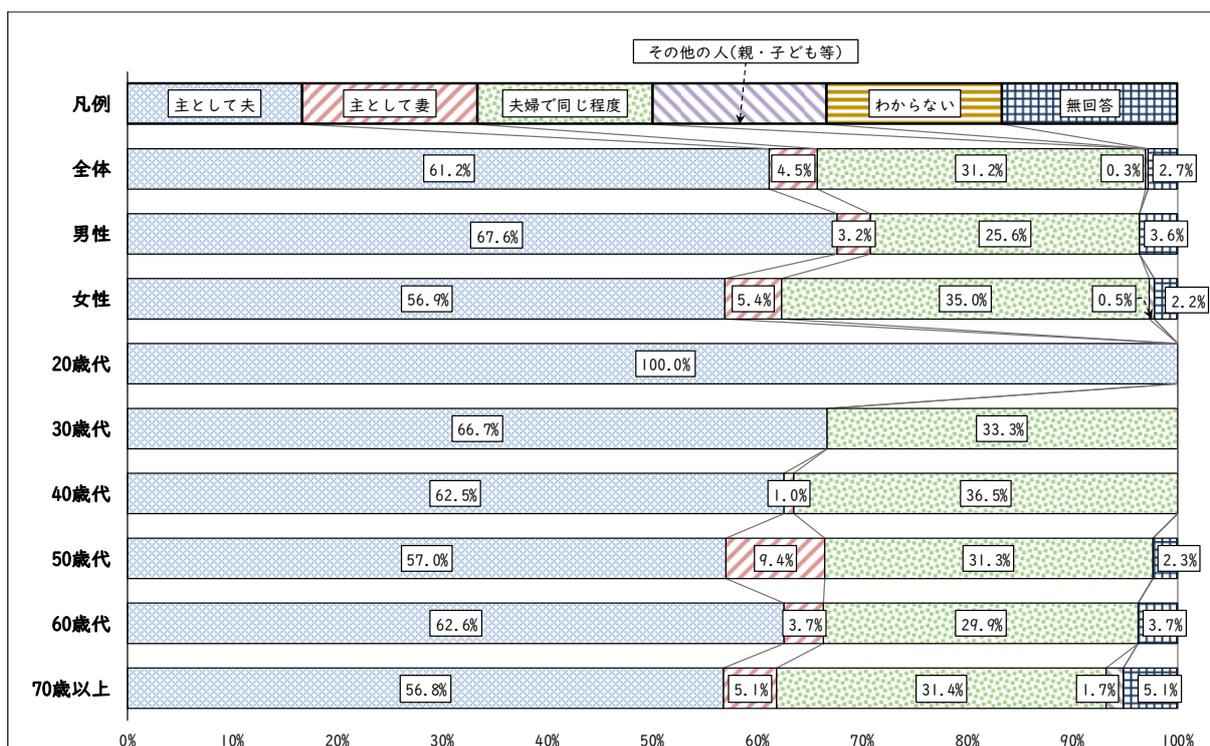
ア. 家計を支える（生活費を稼ぐ）

●家計を支える（生活費を稼ぐ）では、「主として夫」（61.2%）の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」（31.2%）、「主として妻」（4.5%）となっています。夫もしくは夫婦で家計を支えている家庭は、全体の92.4%となっています。

【全体】



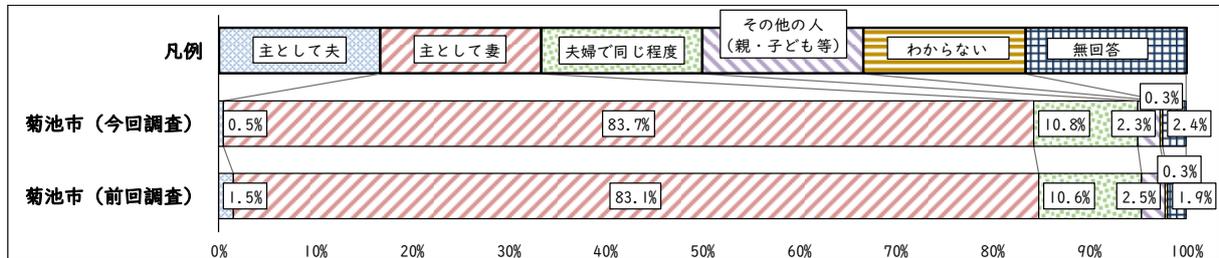
【性・年代別】



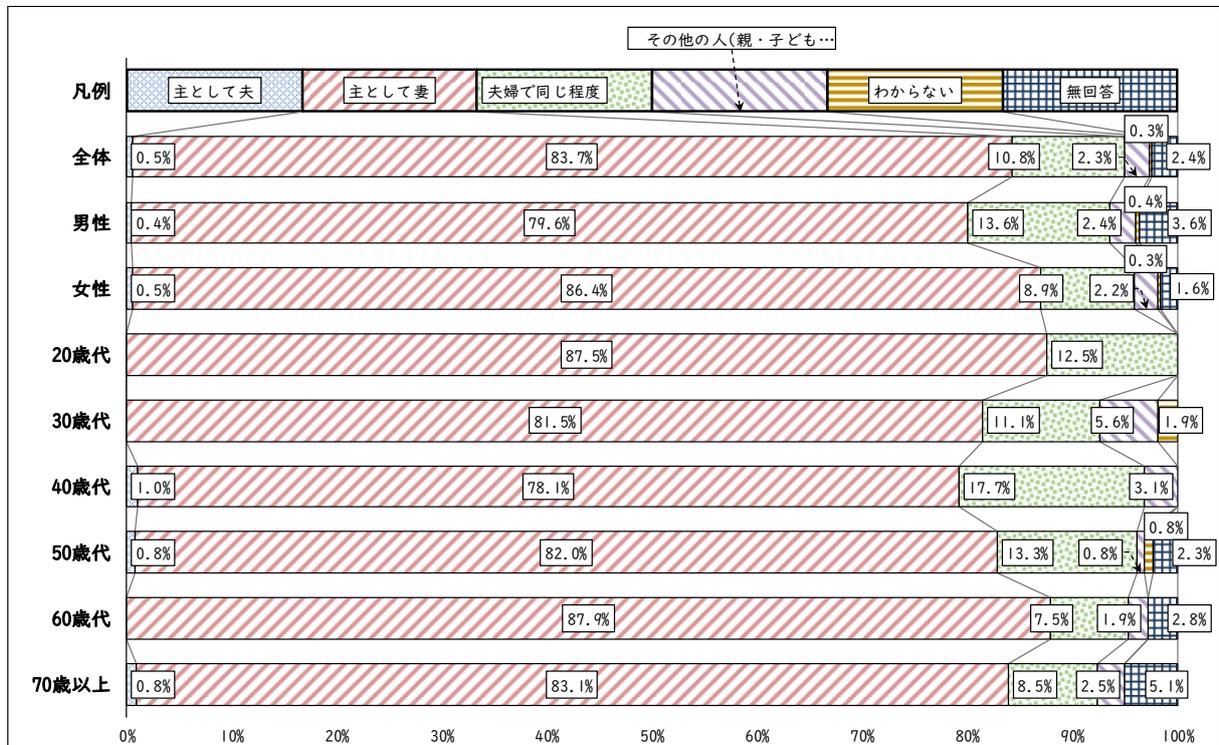
## イ. 炊事・掃除・洗濯などの家事

- 炊事・掃除・洗濯などの家事では、「主として妻」(83.7%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(10.8%)、「その他の人(親・子ども等)」(2.3%)となっています。

【全体】



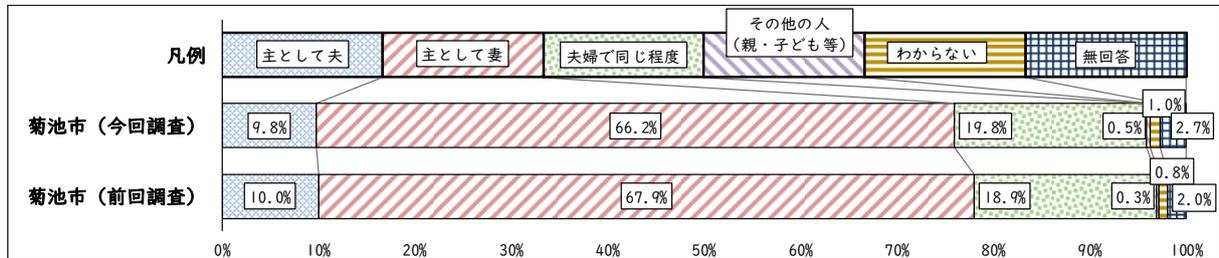
【性・年代別】



## ウ. 日々の家計の管理

- 日々の家計の管理では、「主として妻」(66.2%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(19.8%)、「主として夫」(9.8%)となっています。

【全体】



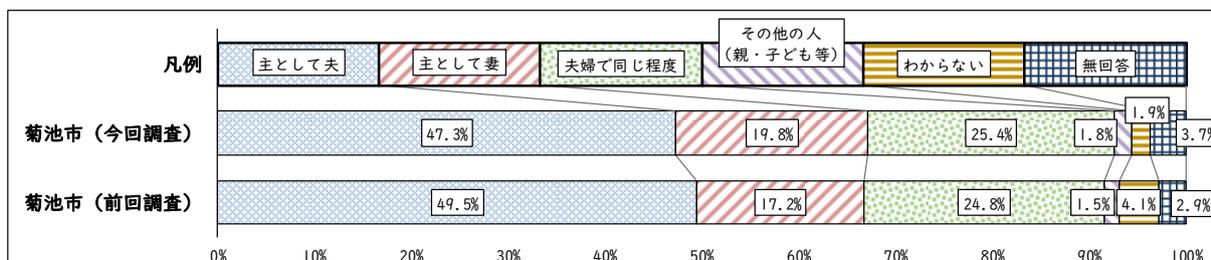
【性・年代別】



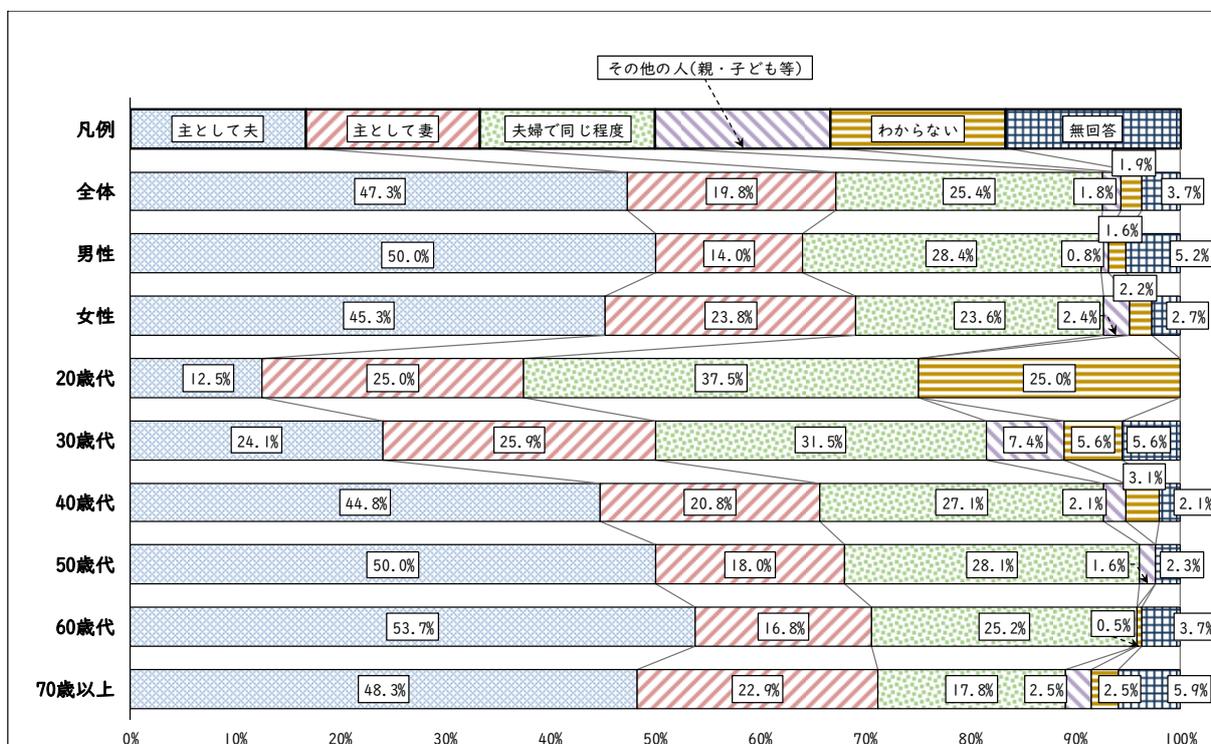
## エ. 自治会・町内会などの地域活動

- 自治会・町内会などの地域活動では、「主として夫」(47.3%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(25.4%)、「主として妻」(19.8%)となっています。
- 年代別にみると、年齢階層の高い年代において「主として夫」の割合が高くなっています。

【全体】



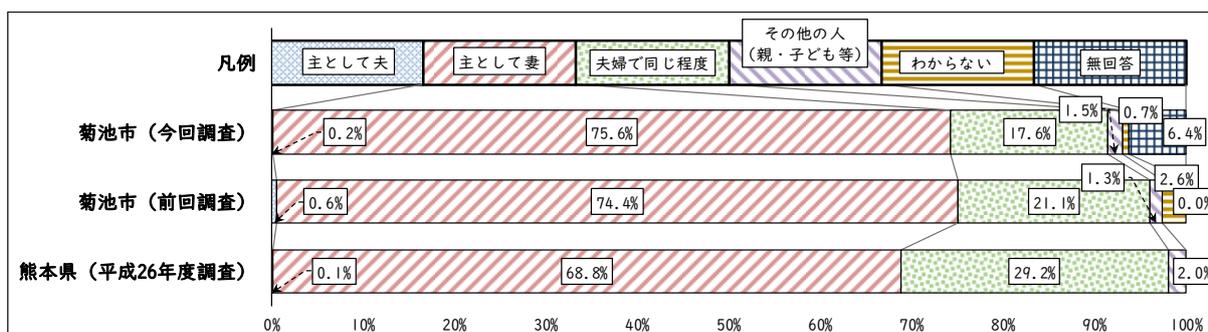
【性・年代別】



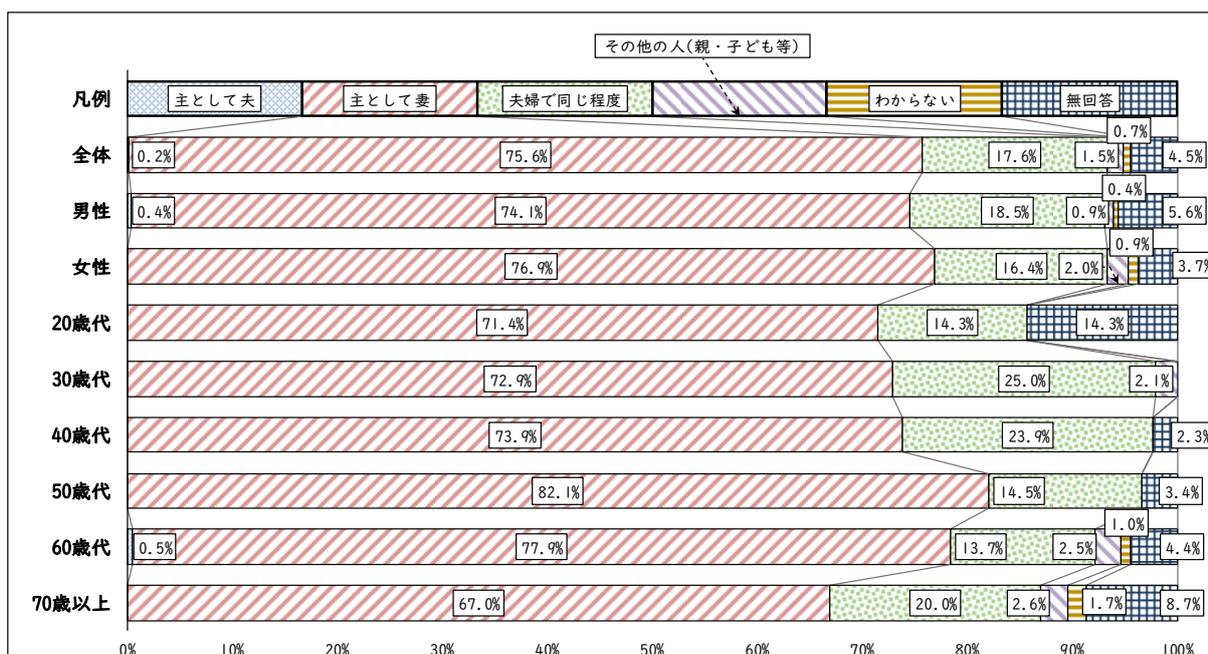
## オ. 育児（経験者のみ）

- 育児（経験者のみ）では、「主として妻」（75.6％）の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」（17.6％）、「その他の人（親・子ども等）」（1.5％）となっています。
- 多統計結果との比較では、「夫婦で同じ程度」と回答している割合が熊本県より 11.6 ポイント低くなっています。

【全体】



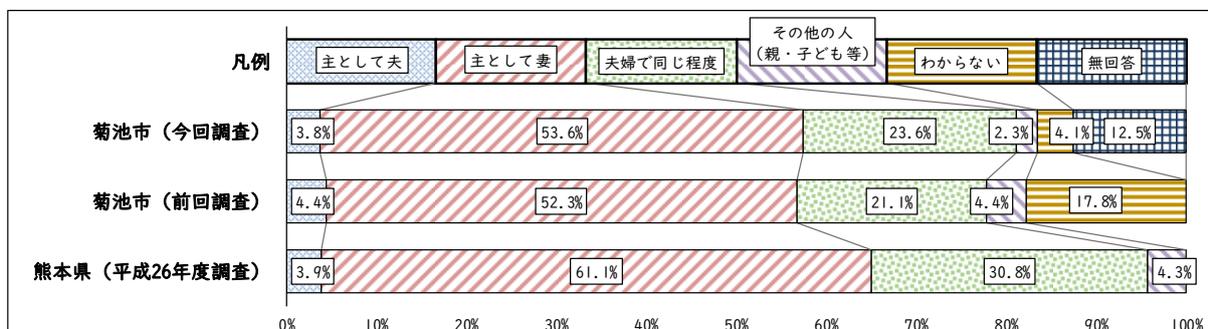
【性・年代別】



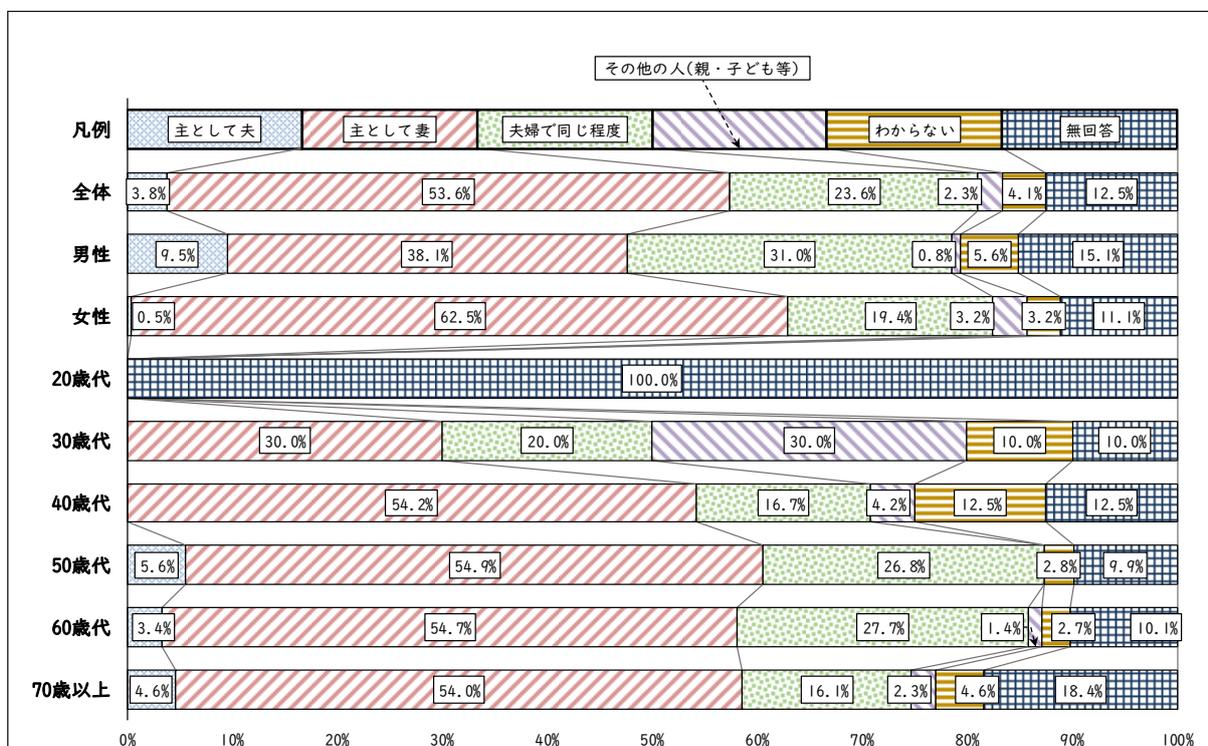
## カ. 介護（経験者のみ）

- 介護（経験者のみ）では、「主として妻」（53.6%）の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」（23.6%）、「わからない」（4.1%）となっています。

【全体】



【性・年代別】

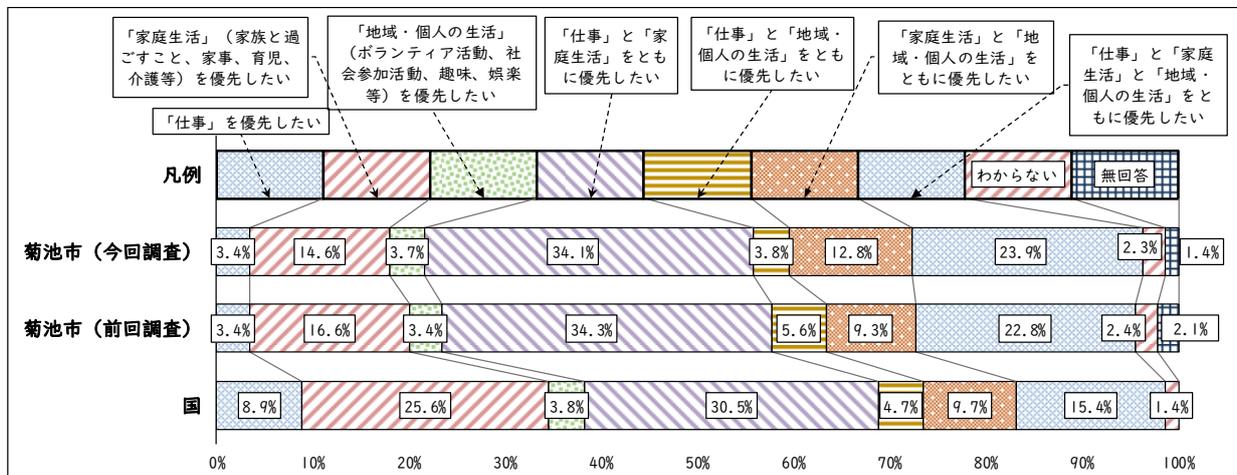


### 3 仕事と家庭・地域生活について

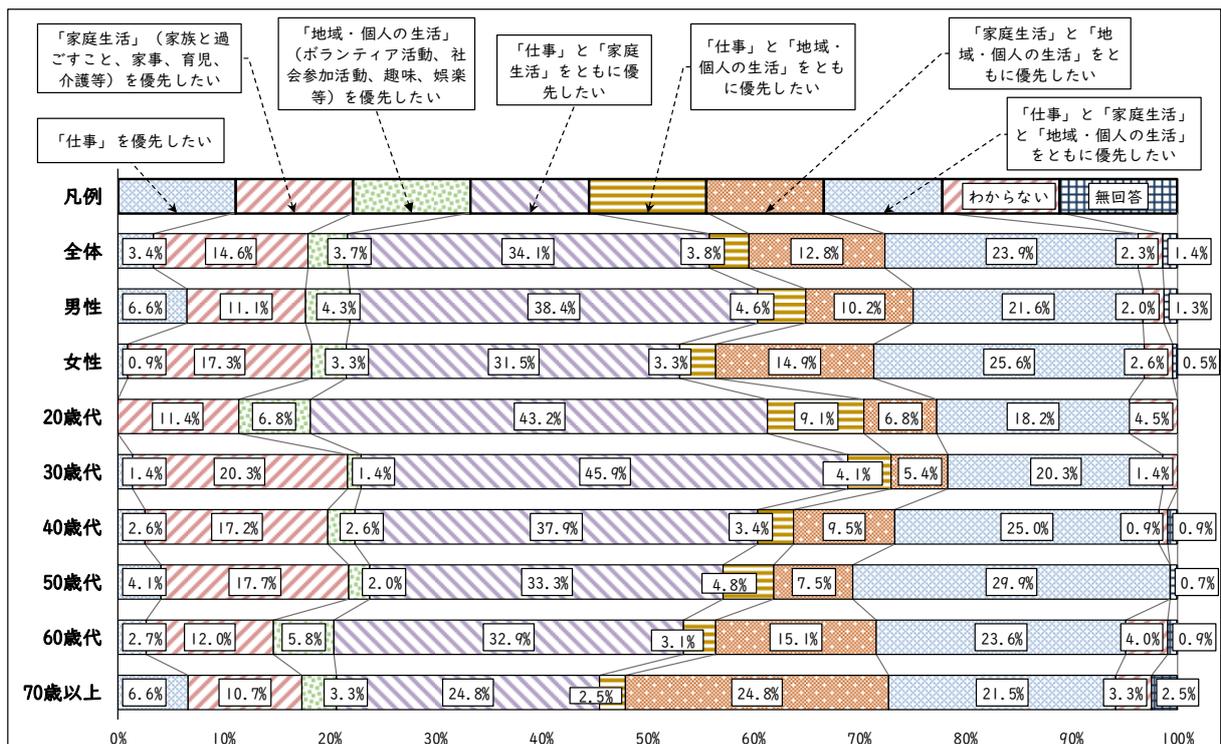
#### 問4 あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものをお答えください。(単数回答)

- 生活を送るうえでの希望の優先度について、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』(34.1%)の割合が最も高く、次いで、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』(23.9%)、『「家庭生活」(家族と過ごすこと、家事、育児、介護等)を優先したい』(14.6%)となっています。
- 他統計調査との比較では、全国より『「家庭生活」(家族と過ごすこと、家事、育児、介護等)を優先したい』の割合が11.0ポイント低く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』が8.5ポイント高くなっています。

【全体】



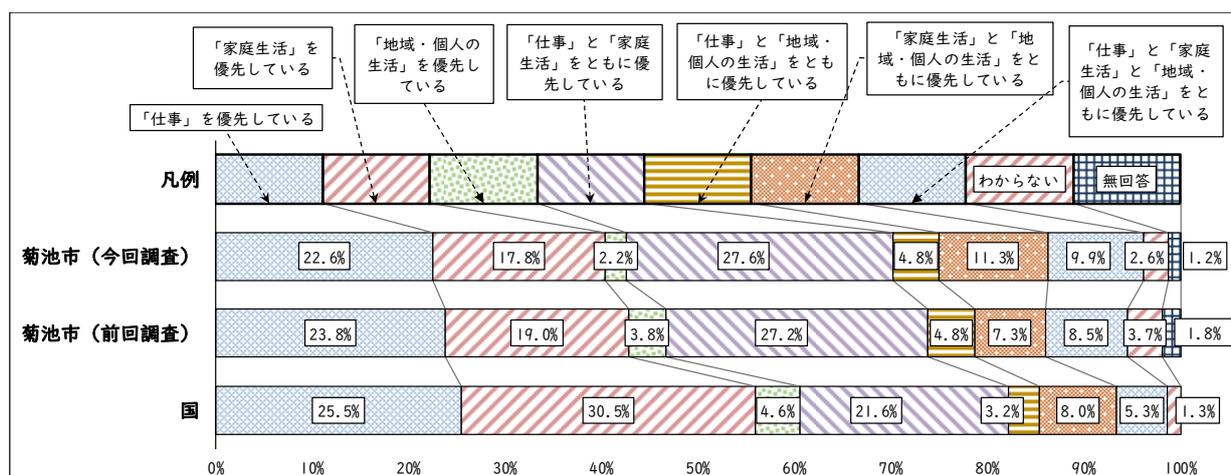
【性・年代別】



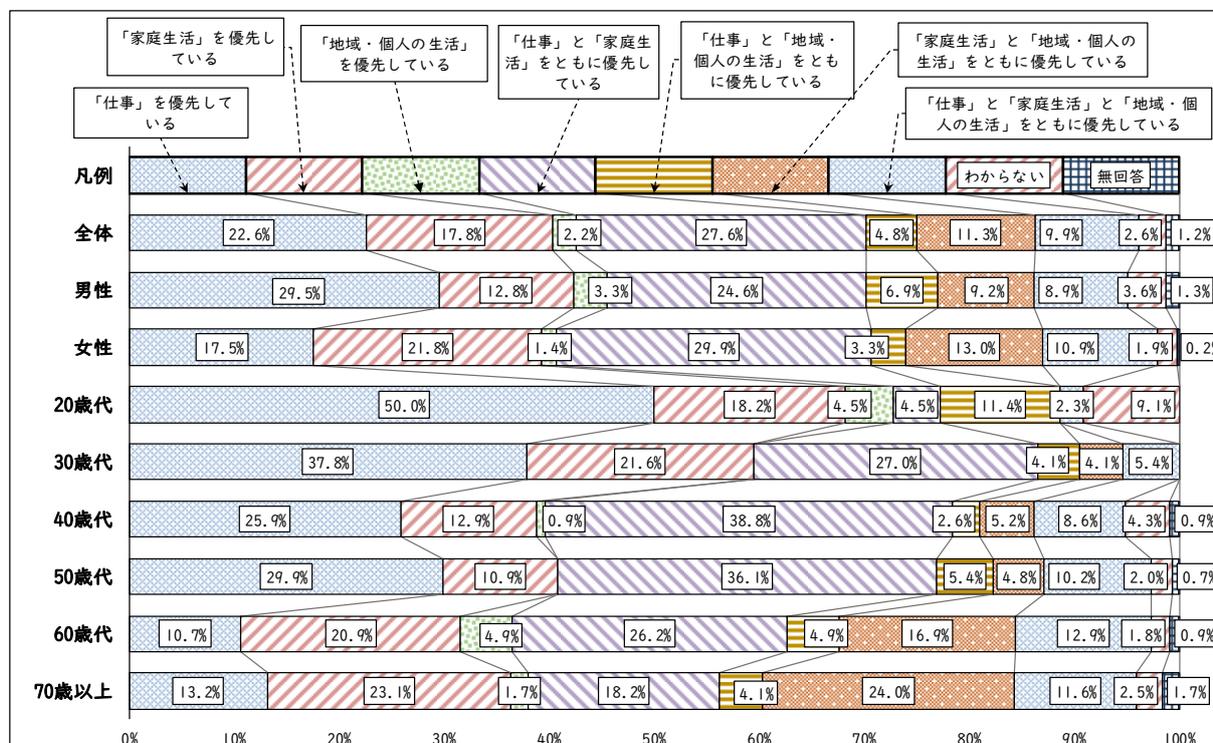
## 問5 あなたの現実（現状）に最も近いものをお答えください。（単数回答）

- 生活を送るうえでの現状の優先度について、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』(27.6%)の割合が最も高く、次いで、『「仕事」を優先している』(22.6%)、『「家庭生活」を優先している』(17.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性は『「仕事」を優先している』(29.5%)、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』(29.9%)が最も高い割合となっています。
- 他統計調査との比較では、全国より『「家庭生活」を優先している』の割合が12.7ポイント低くなっています。

【全体】



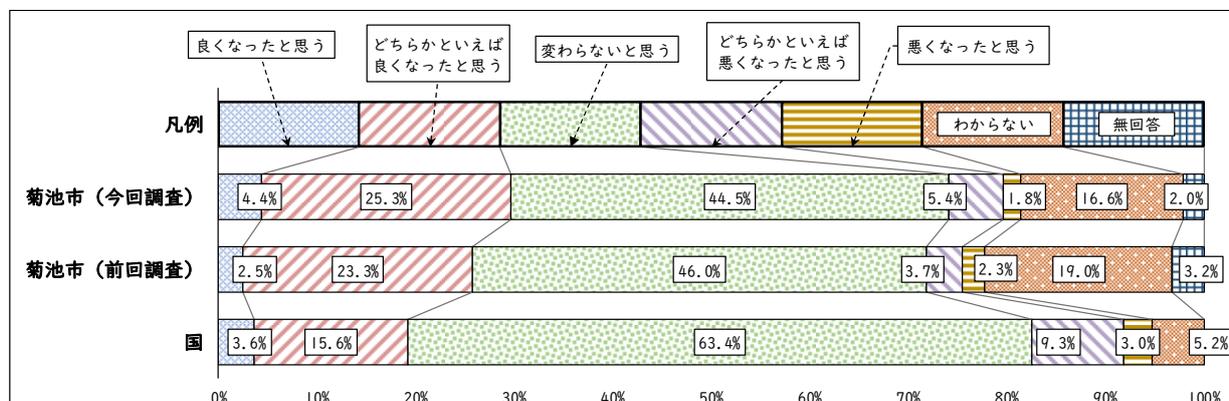
【性・年代別】



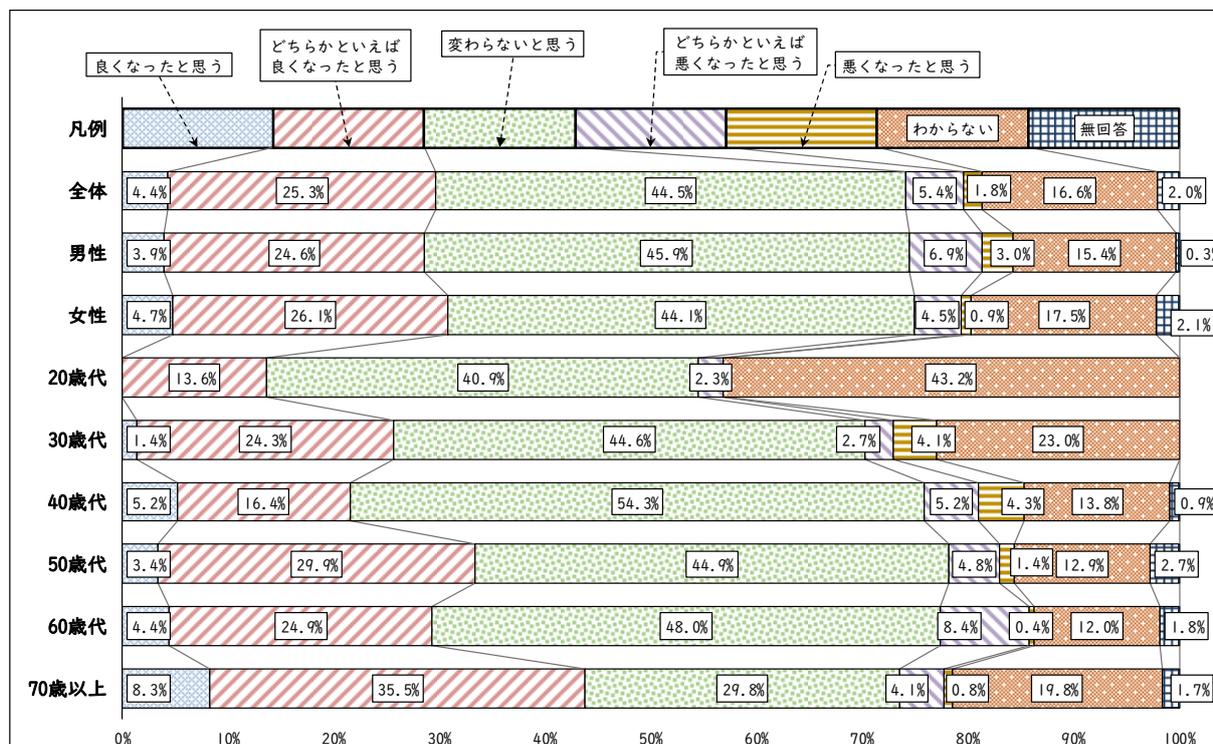
問6 国では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」のひとつに「多様な働き方・生き方が選択できる社会」をあげています。あなた自身やまわりで、以下のことが一年前と比較してどのように変化していると思いますか。（単数回答）

- 「多様な働き方・生き方が選択できる社会」が生活や身の周りの環境から判断し、一年前と比べてどのように変化しているかについて、「変わらないと思う」（44.5%）の割合が最も高く、次いで、「どちらかといえば良くなったと思う」（25.3%）、「わからない」（16.6%）となっています。
- 年代別にみると、「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」と回答している人が「20歳代」で13.6%と他の年齢階層と比べて最も低くなっています。
- 他統計調査との比較では、全国より「変わらないと思う」の割合が18.9ポイント低くなっています。

【全体】



【性・年代別】

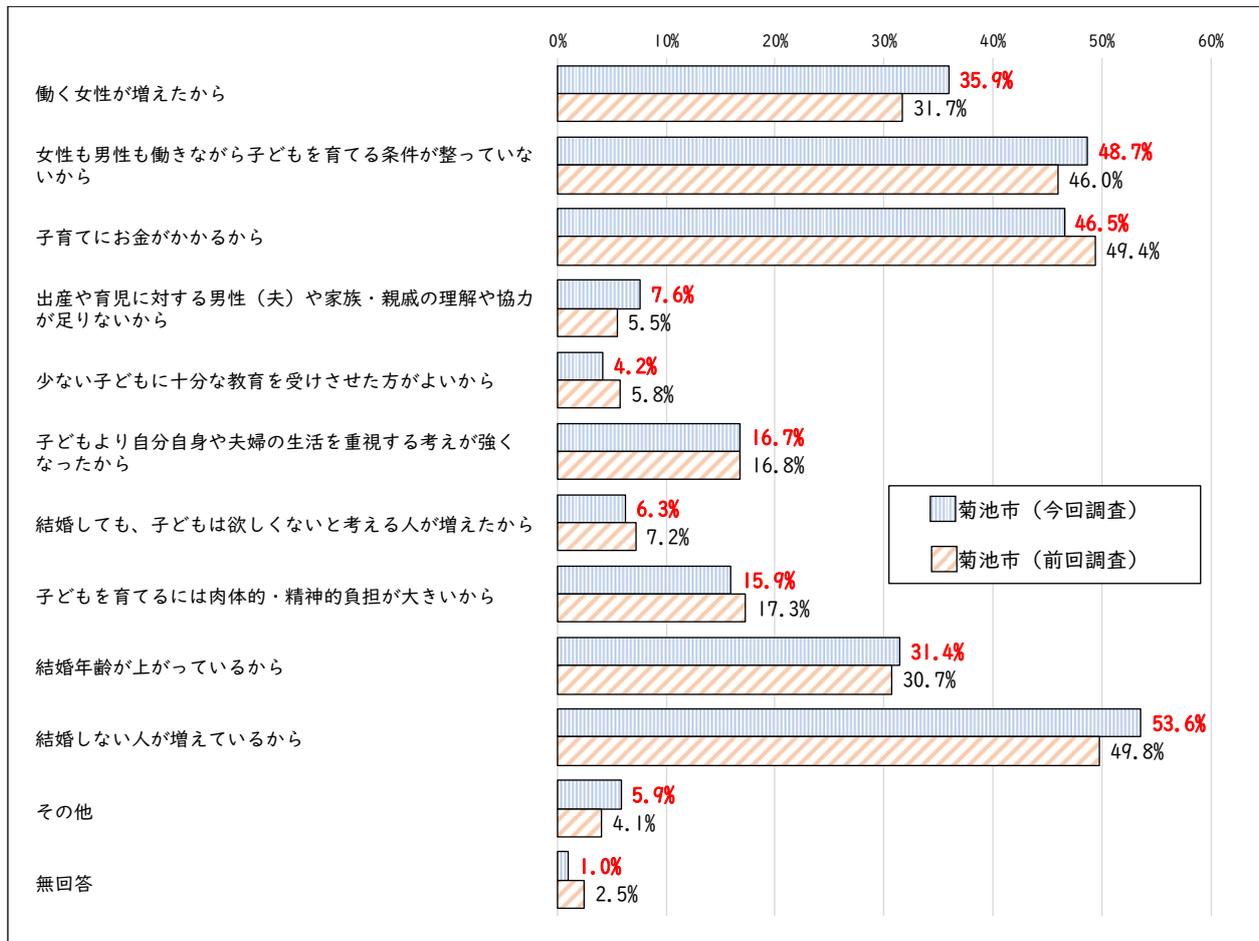


## 4 出生率低下について

問7 今、女性が一生において生む子どもの数が少なくなっていると言われていますが、その原因はどこにあると考えますか。(複数回答)

- 出生率の低下の要因について、「結婚しない人が増えているから」(53.6%)の割合が最も高く、次いで、「女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」(48.7%)、「子育てにお金がかかるから」(46.5%)となっています。

【全体】



【その他の回答(抜粋)】

- 1 出産すると今の仕事を休み、戻りづらくなる。辞めるとまた仕事を探すことになる。その回数は子供の数によるからなるべく少なく、となる。
- 2 収入の不安定をカバーするため共働きをせざるを得ない。また、女性が働くための子育て環境が整っていない。
- 3 若者に安定した収入がなく家庭が持てる環境にない。

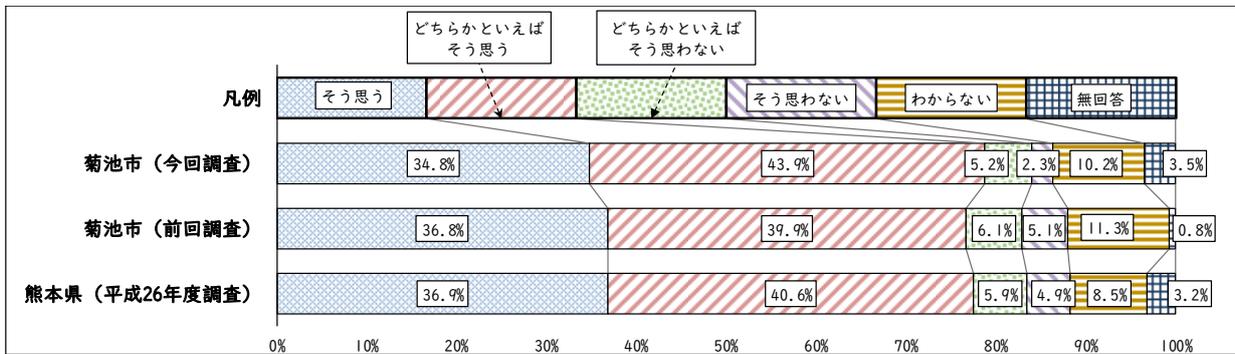
・・・等

## 5 女性の社会参画について

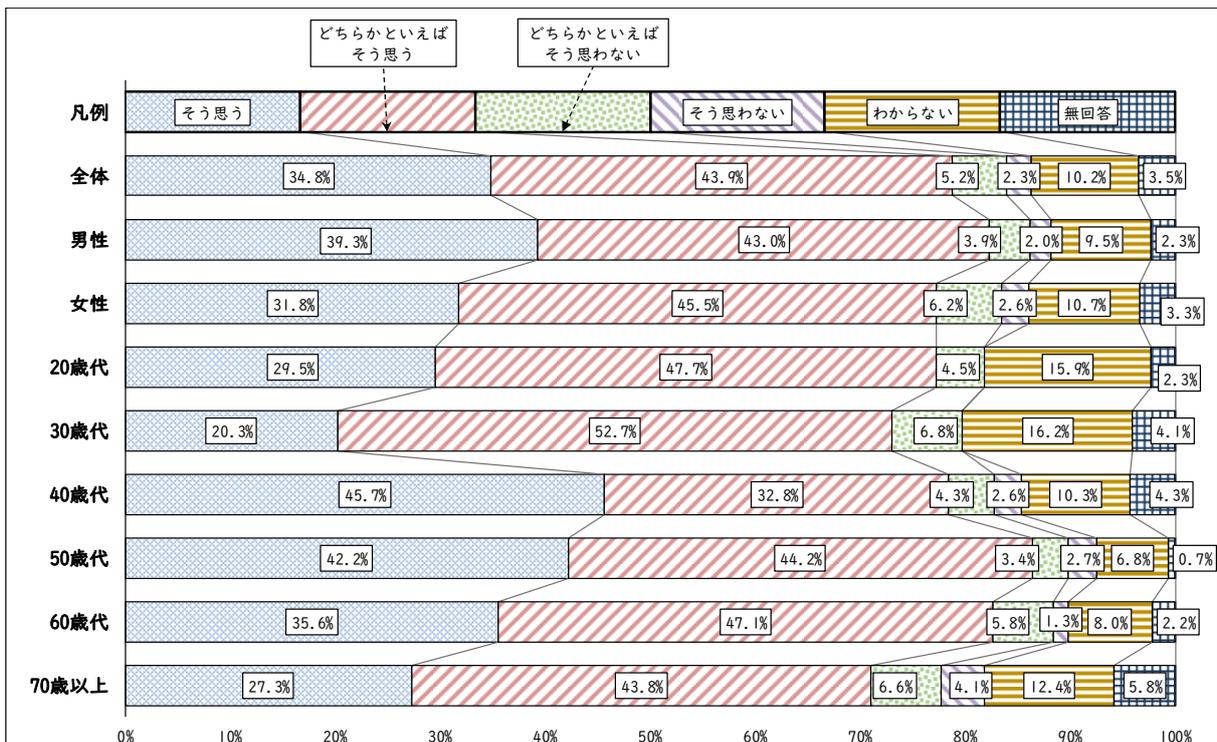
問8 あなたは、女性が自治体の首長（知事や市町村長）や議会議員、企業の管理職や農協の役員などになって、政策の企画立案や方針決定に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思いますか。（単数回答）

- 政策の企画立案や方針決定に女性の意見がもっと反映されるようになるべきかについて、「どちらかといえばそう思う」（43.9%）の割合が最も高く、次いで、「そう思う」（34.8%）、「わからない」（10.2%）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の78.7%となっており、女性の意見が反映されることについて”賛成派”が多数となっています。
- 年代別にみると、50歳代において「そう思う」「どちらかといえば」と回答している人の割合が最も高くなっています。

【全体】



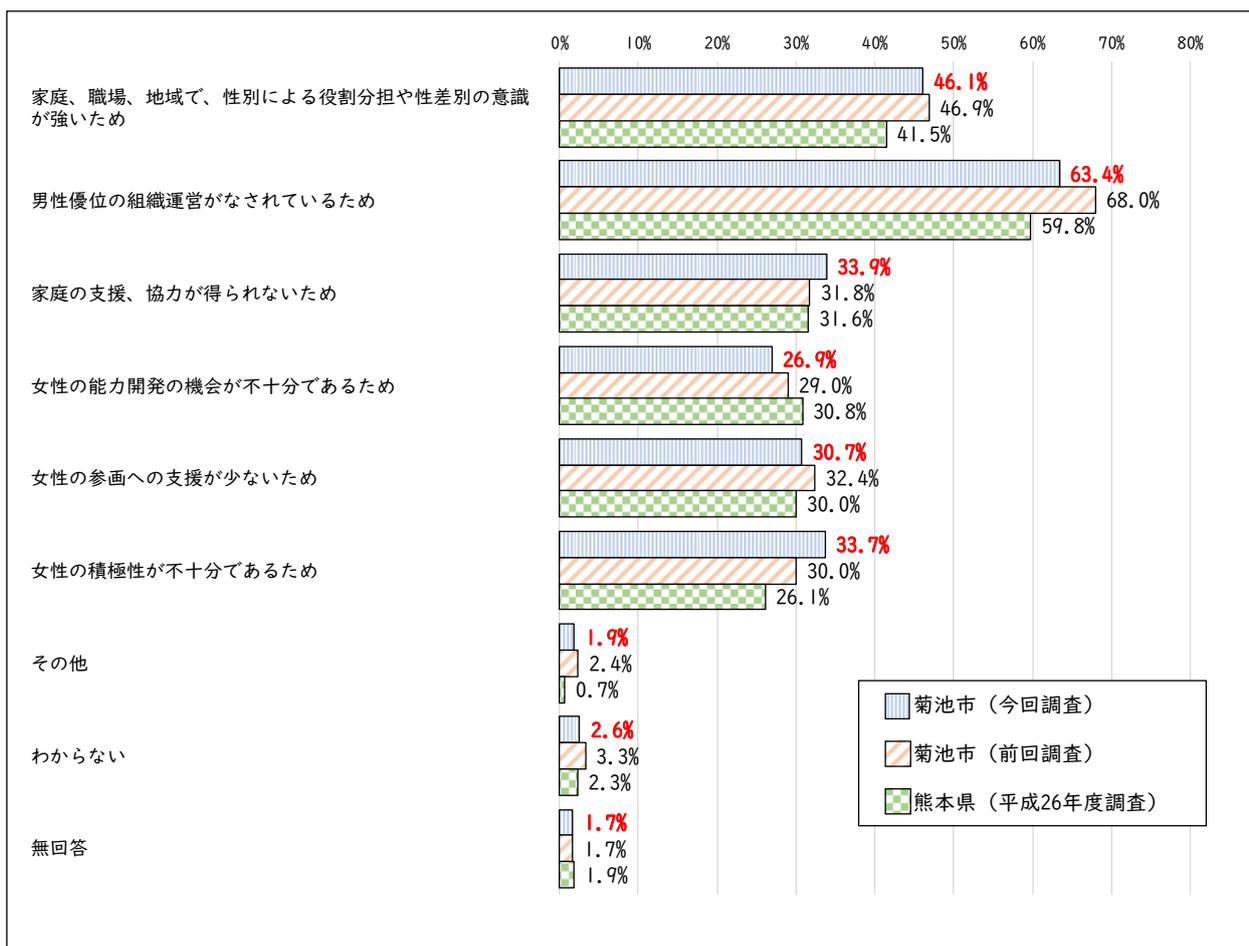
【性・年代別】



問9 【問8で、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方におたずねします。】「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ない」といわれていますが、その原因は何だと思えますか。(単数回答)

●政治や行政、職場などにおいて、企画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ないとされる原因について、「男性優位の組織運営がなされているため」(63.4%)の割合が最も高く、次いで、「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(46.1%)、「家庭の支援、協力が得られないため」(33.9%)となっています。

【全体】



【その他の回答 (抜粋)】

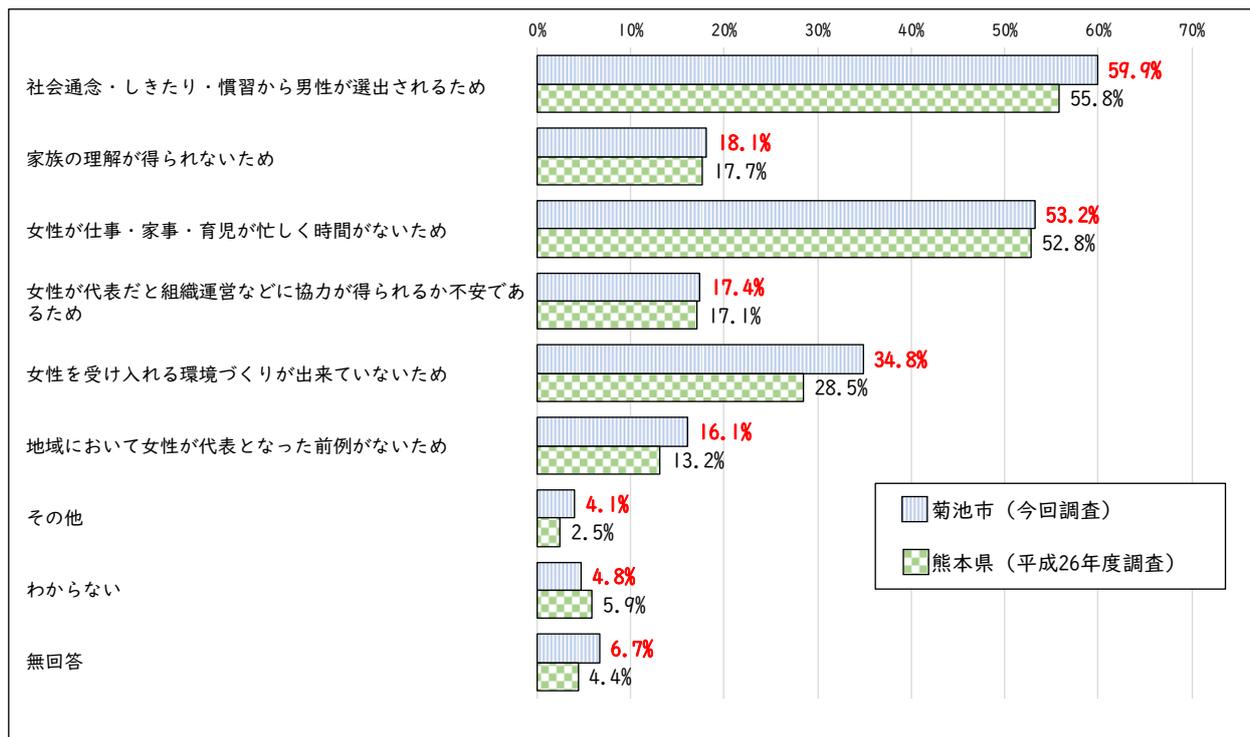
- 1 | 働きながら家庭の仕事はまだまだ女性の仕事のところが多いと思います。以前よりはお父さん達の参加も多くなっていることは違いありません。
- 2 | 変わる事を嫌い、保守的。
- 3 | 男性優位の無言の圧力を感じるため、意欲はあっても意見したり立候補したりできない。

・・・等

## 問10 自治会やPTAの会長など、地域の団体の代表に女性が少ない原因は何だと思いますか。(複数回答)

●自治会やPTAの会長など、地域の団体の代表に女性が少ない原因について、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(59.9%)の割合が最も高く、次いで、「女性が仕事・家事・育児が忙しく時間がないため」(53.2%)、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」(34.8%)となっています。

【全体】



【その他の回答 (抜粋)】

4	現状、代表者に女性が少ないとは思っていない。
6	いきなり「長」の役割をするのは負担だと考える。段階的に「副」またはその下の役割をやったりして「長」の勉強をしてからやるような土場作りが必要だと思う。
16	私は女性だからと身を引く。
21	女性自身が代表は男性が良いという思い込みがあるため。

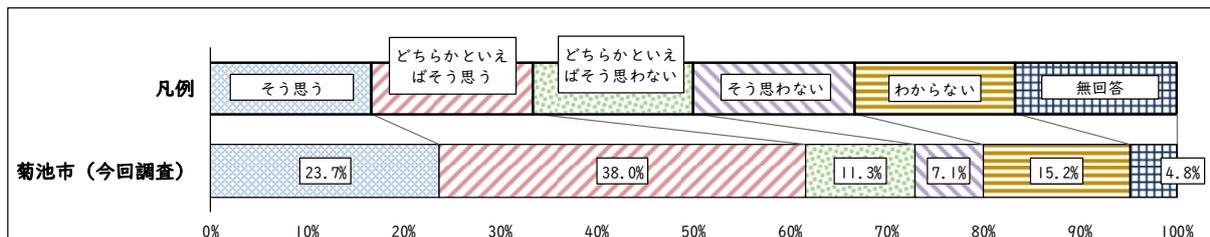
・・・等

問11 あなたは、次にあげる職業や役職等において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(単数回答)

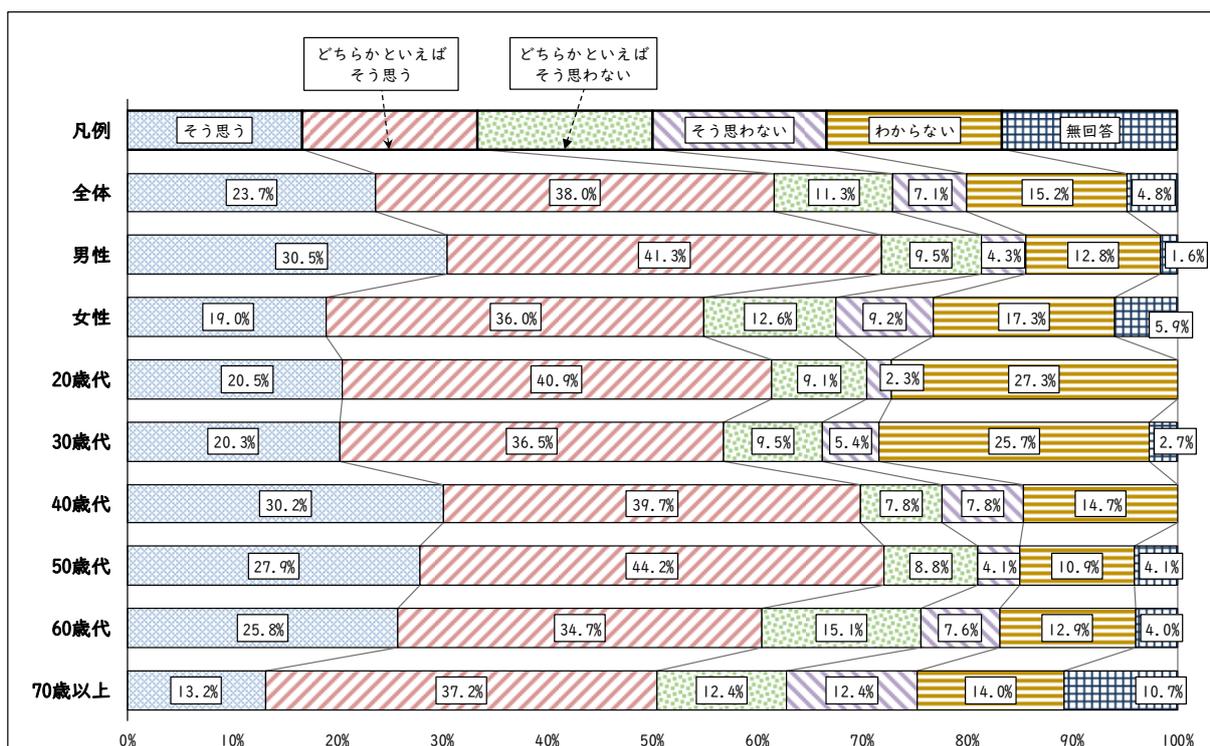
ア. 自治体の首長（知事や市町村長）

- 自治体の首長（知事や市町村長）では、「どちらかといえばそう思う」（38.0%）の割合が最も高く、次いで、「そう思う」（23.7%）、「わからない」（15.2%）となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性（71.8%）に比べて女性（55.0%）の割合が低くなっています。

【全体】



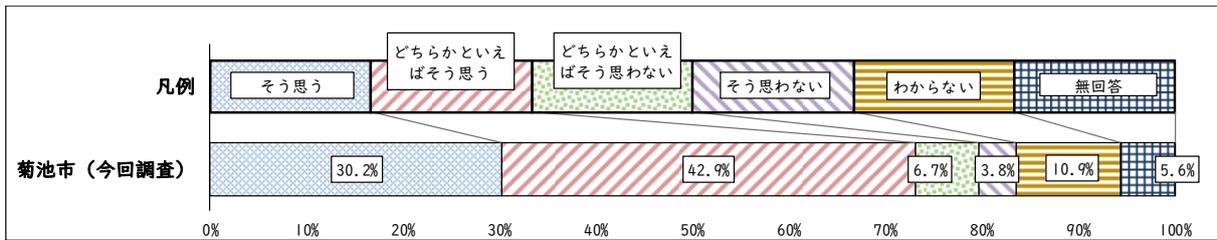
【性・年代別】



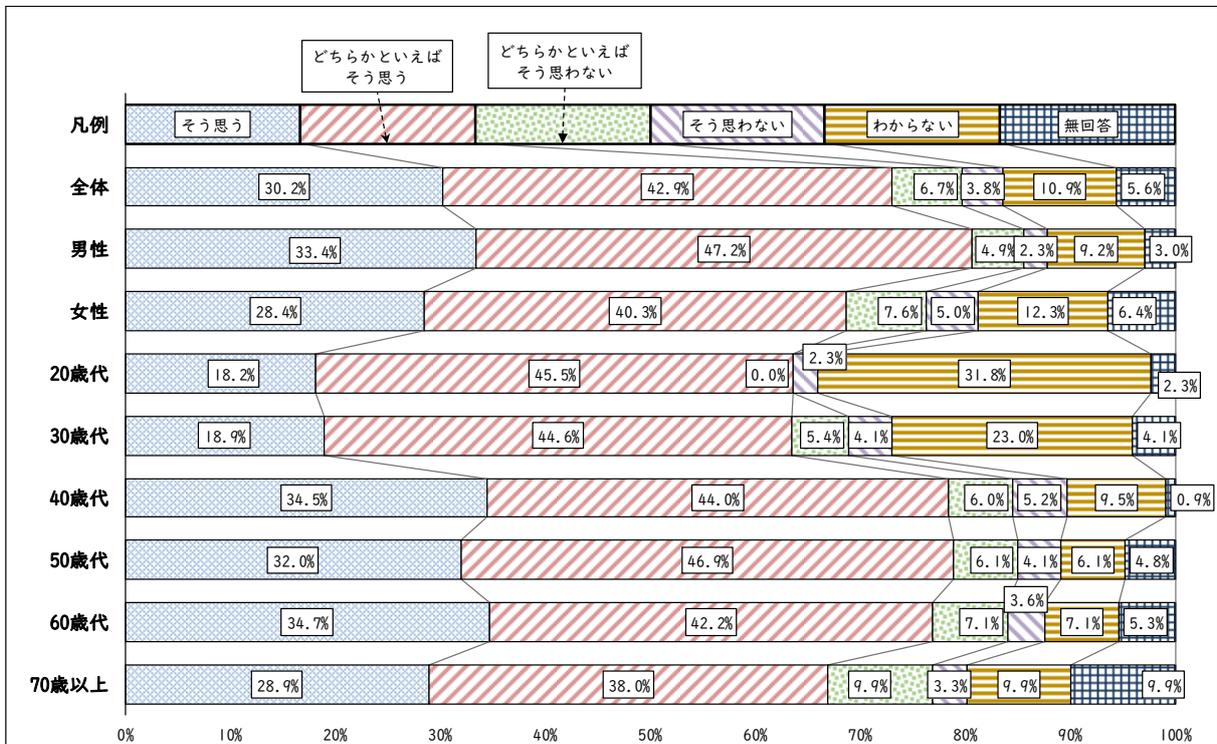
## イ. 議会議員

- 議会議員では、「どちらかといえばそう思う」(42.9%)の割合が最も高く、次いで、「そう思う」(30.2%)、「わからない」(10.9%)となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性(80.6%)に比べて女性(68.7%)の割合が低くなっています。

【全体】



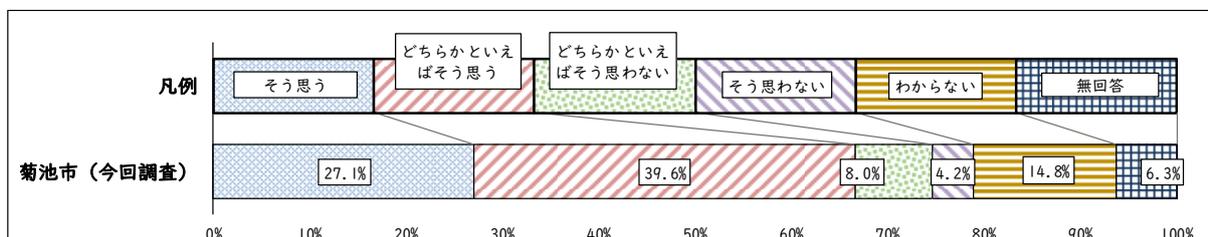
【性・年代別】



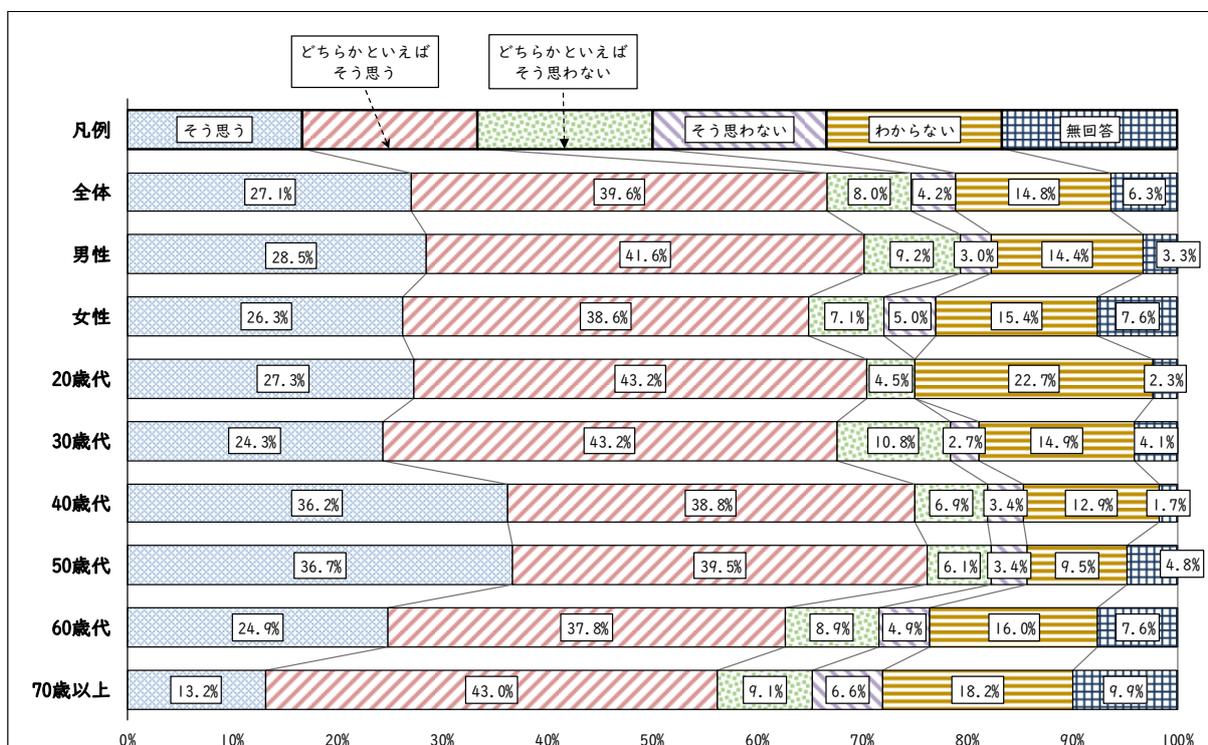
## ウ. 企業の経営者

- 企業の経営者では、「どちらかといえばそう思う」(39.6%)の割合が最も高く、次いで、「そう思う」(27.1%)、「わからない」(14.8%)となっています。

【全体】



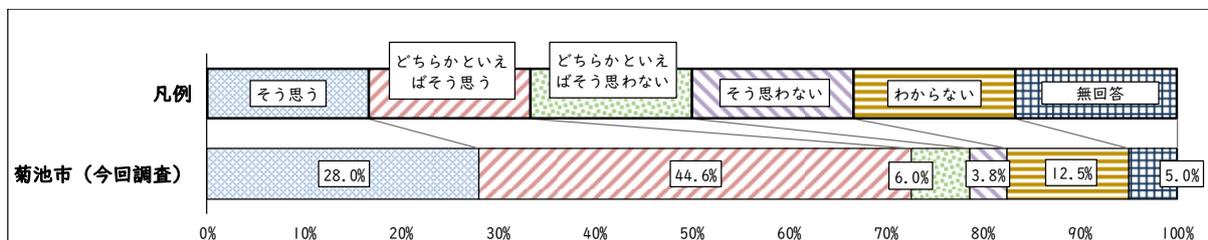
【性・年代別】



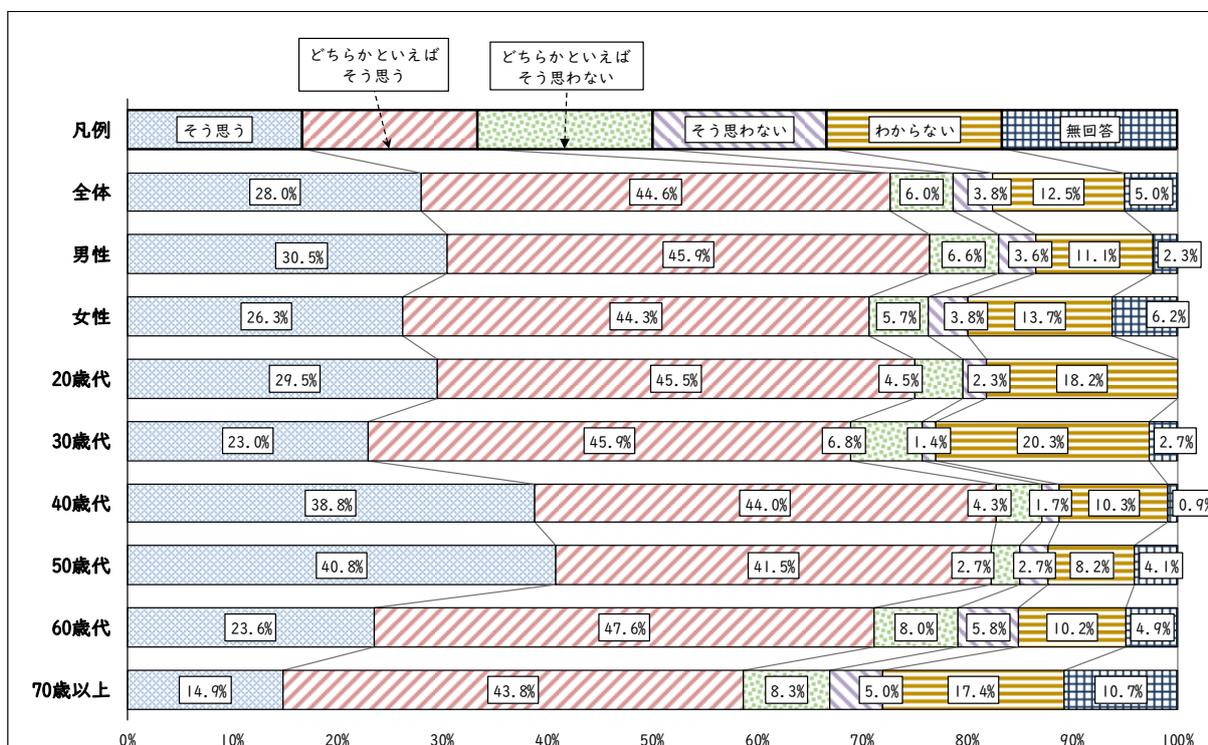
## エ. 企業等の管理職

- 企業等の管理職では、「どちらかといえばそう思う」(44.6%)の割合が最も高く、次いで、「そう思う」(28.0%)、「わからない」(12.5%)となっています。

【全体】

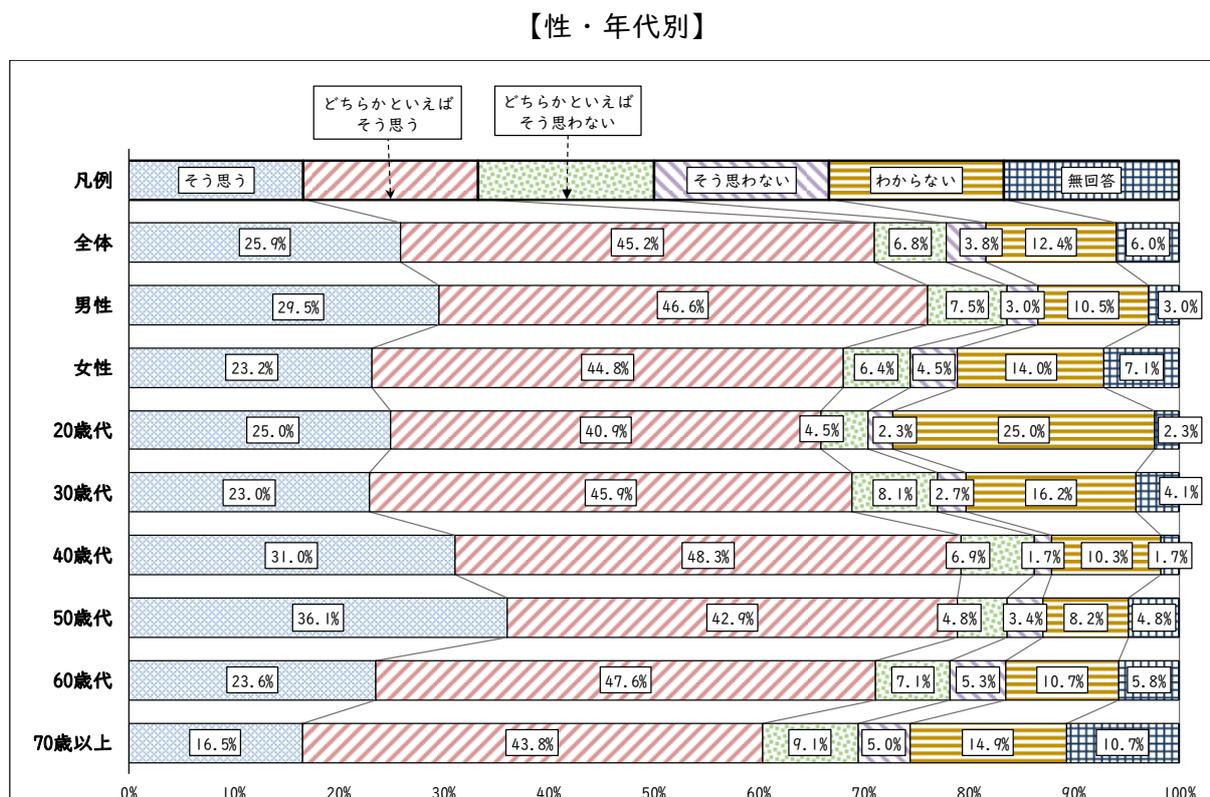
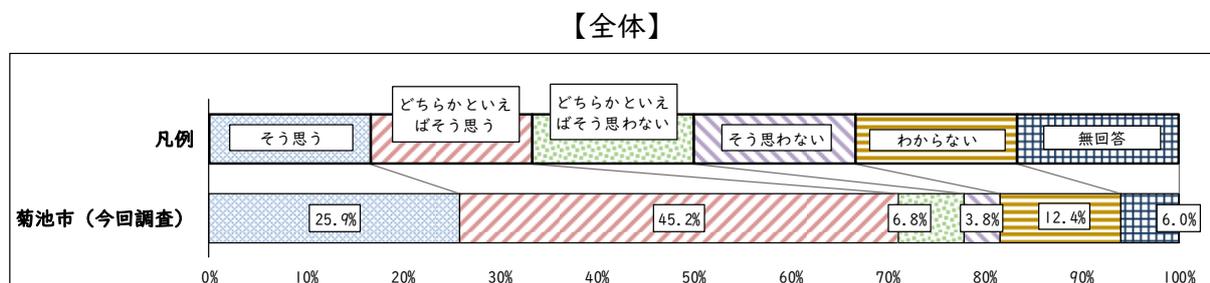


【性・年代別】



## オ. 公務員等の管理職

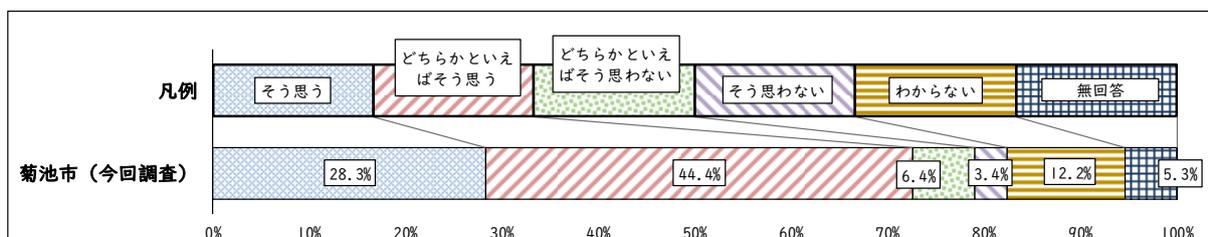
- 公務員等の管理職では、「どちらかといえばそう思う」(45.2%)の割合が最も高く、次いで、「そう思う」(25.9%)、「わからない」(12.4%)となっています。



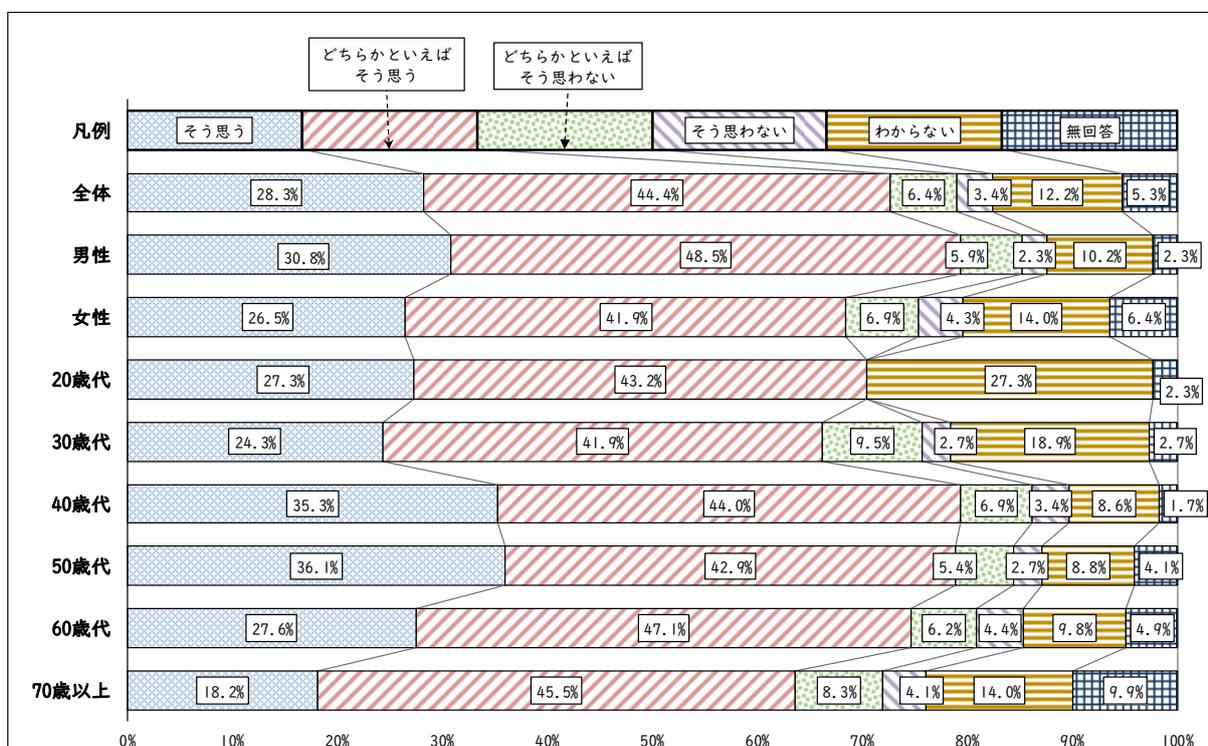
## カ. 教育機関の管理職（学校長等）

- 教育機関の管理職（学校長等）では、「どちらかといえばそう思う」（44.4％）の割合が最も高く、次いで、「そう思う」（28.3％）、「わからない」（12.2％）となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性（79.3％）に比べて女性（68.4％）の割合が低くなっています。

【全体】



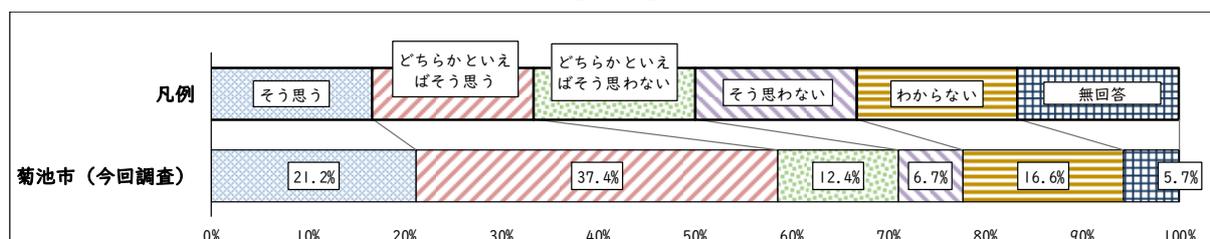
【性・年代別】



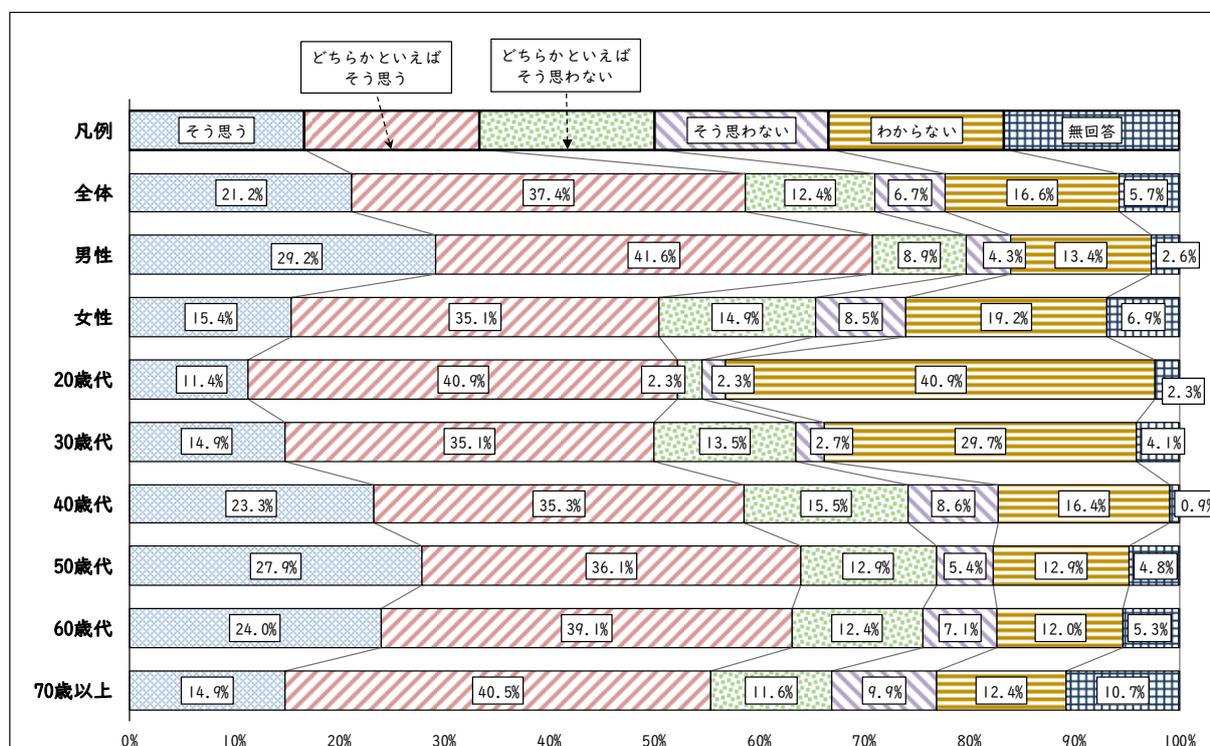
## キ. 区長等の自治会役員

- 区長等の自治会役員では、「どちらかといえばそう思う」(37.4%)の割合が最も高く、次いで、「そう思う」(21.2%)、「わからない」(16.6%)となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性(70.8%)に比べて女性(50.5%)の割合が低くなっています。

【全体】



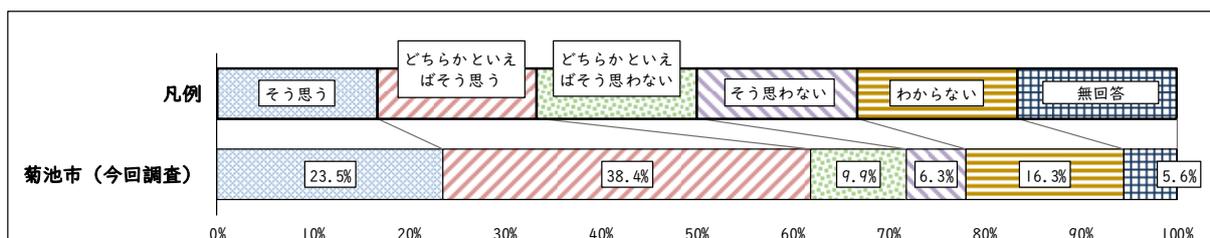
【性・年代別】



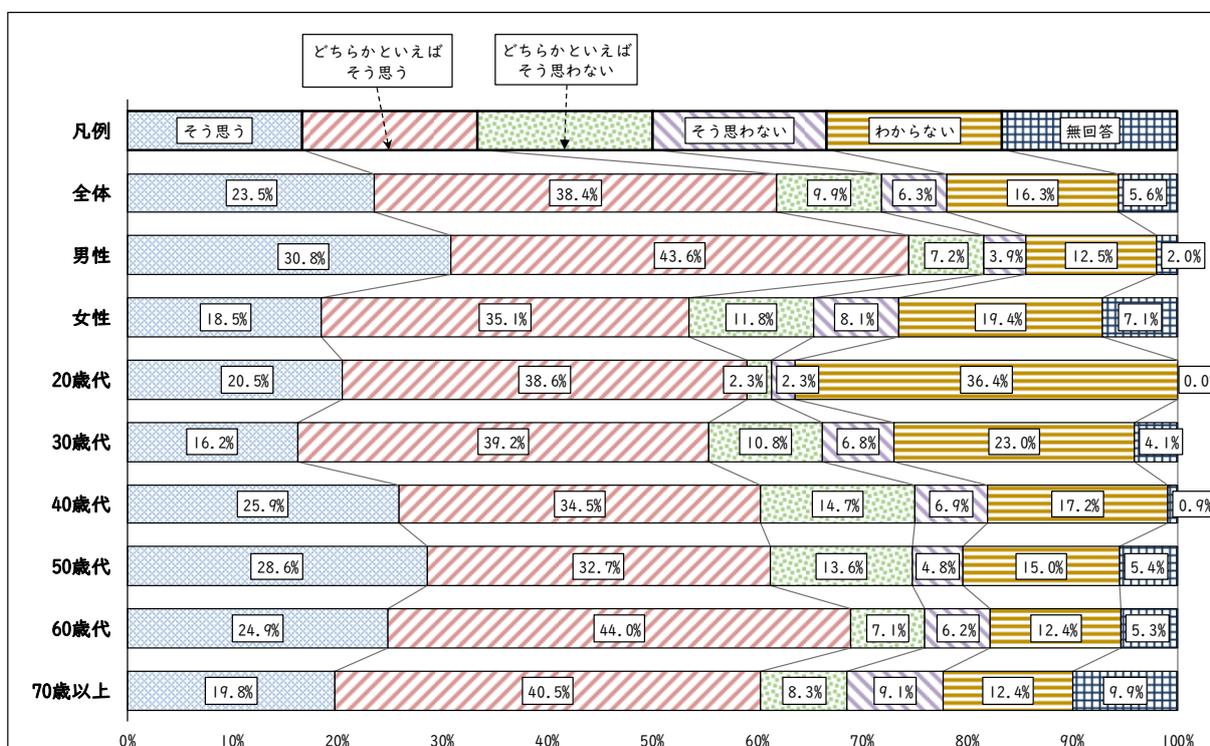
## ク. PTA 会長等の学校役員

- PTA 会長等の学校役員では、「どちらかといえばそう思う」(38.4%)の割合が最も高く、次いで、「そう思う」(23.5%)、「わからない」(16.3%)となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性(74.4%)に比べて女性(53.6%)の割合が低くなっています。

【全体】



【性・年代別】

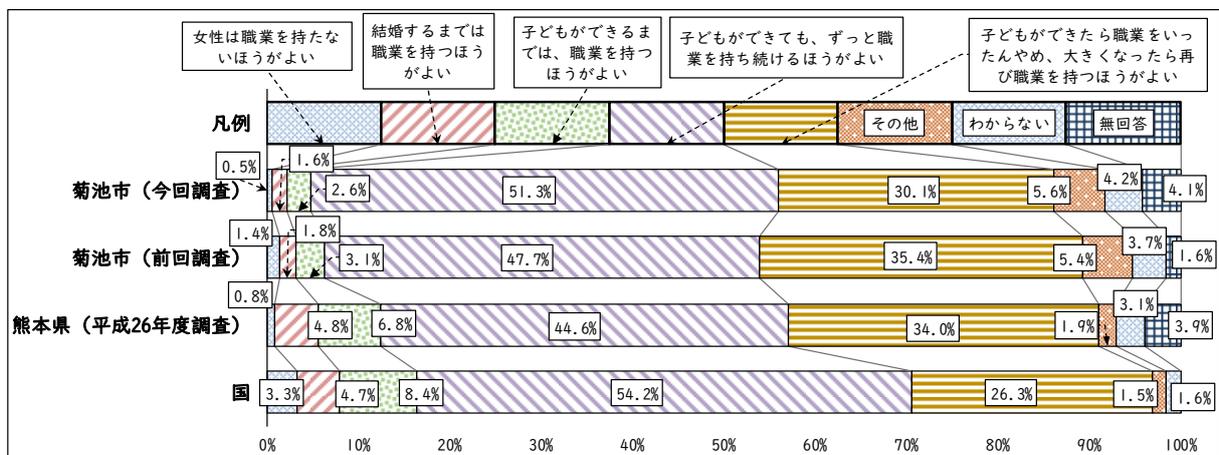


## 6 女性が職業を持つことについて

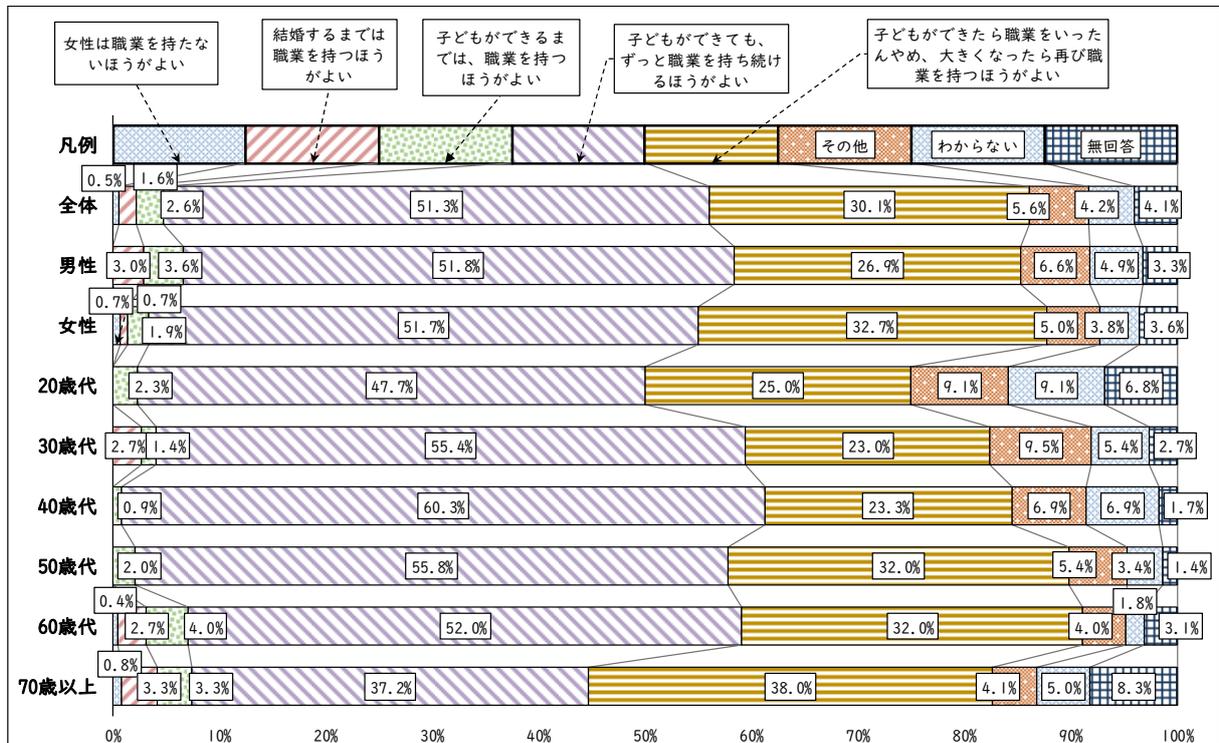
問12 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)

- 女性が職業を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(51.3%)の割合が最も高く、次いで、「子どもができたなら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(30.1%)、「その他」(5.6%)となっています。
- 年代別にみると、20～60歳代において「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が約半数の割合を占めています。

【全体】



【性・年代別】

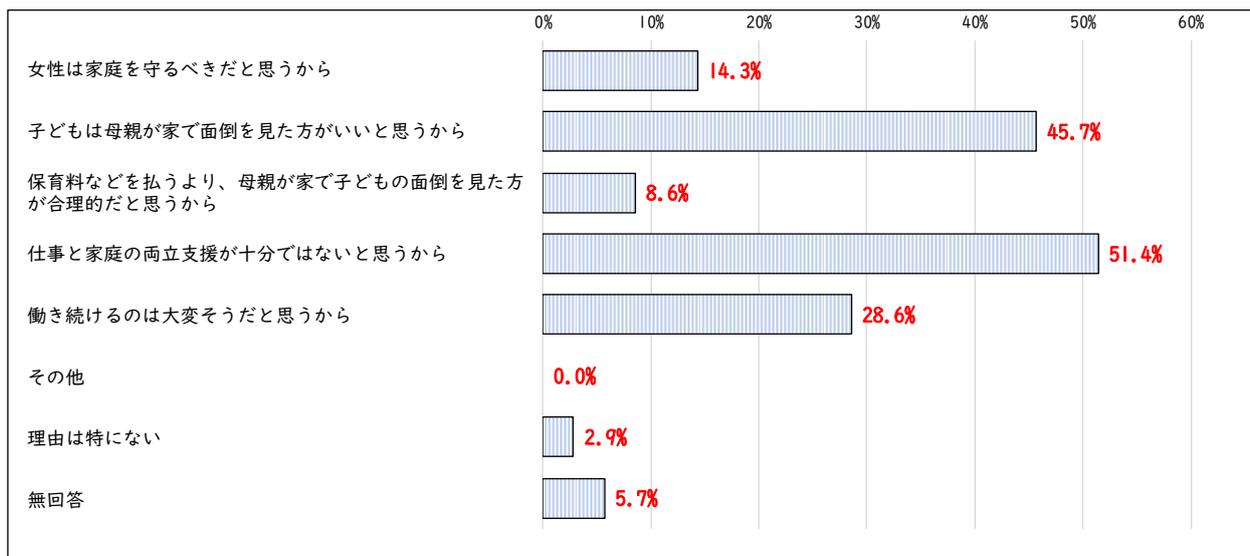


その他では、「職業を持つか否かは本人の意思によるべき」等の回答がありました。

**問13 【問12で「1.女性は職業をもたない方がよい」、「2.結婚するまでは、職業をもつ方がよい」、「3.子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた方にお尋ねします。】 その理由は何ですか。(複数回答)**

●女性が職業をもたない方がよい理由について、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」(51.4%)の割合が最も高く、次いで、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」(45.7%)、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(28.6%)となっています。

**【全体】**



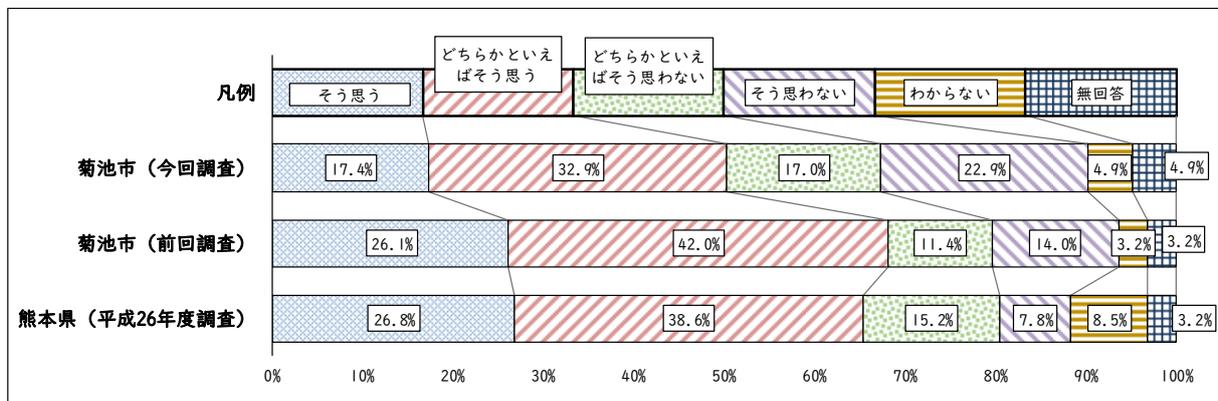
## 7 子育て、教育について

### 問14 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。(単数回答)

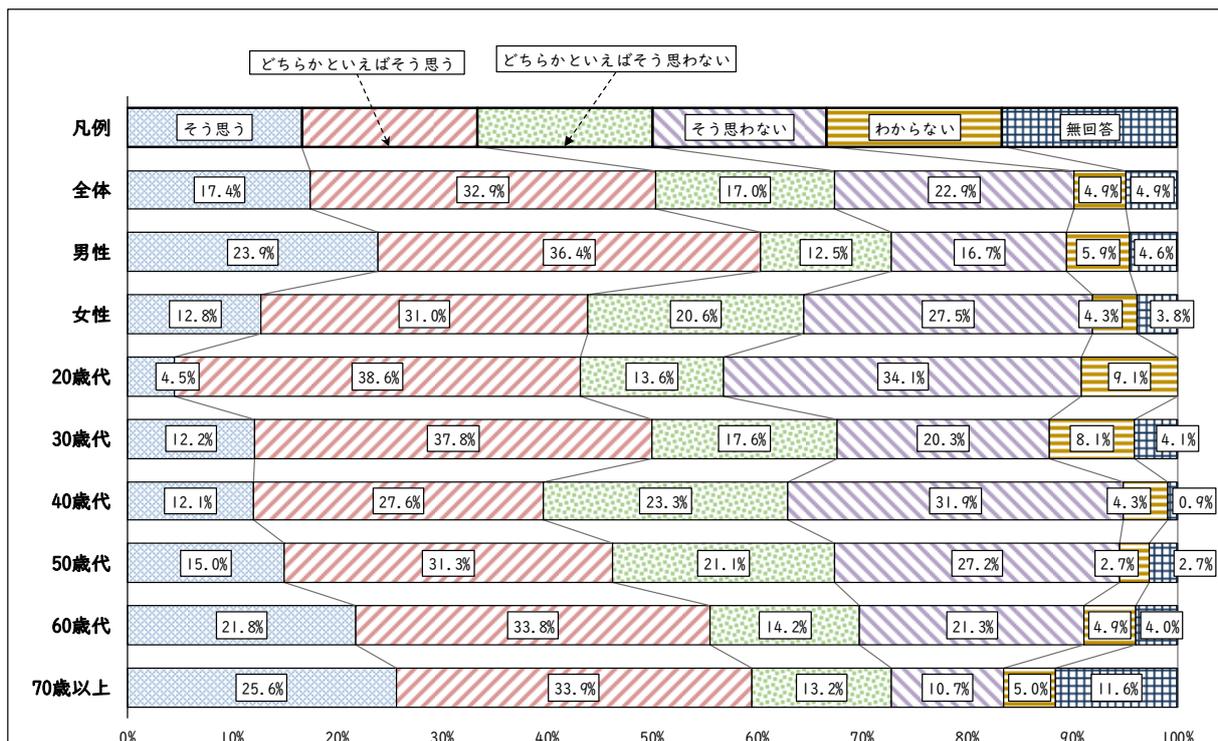
#### ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるでは、「どちらかといえばそう思う」(32.9%)の割合が最も高く、次いで、「そう思わない」(22.9%)、「そう思う」(17.4%)となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、女性(43.8%)に比べ男性(60.3%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、年齢階層が高くなるに従って、「そう思う」の割合が高くなっています。

【全体】



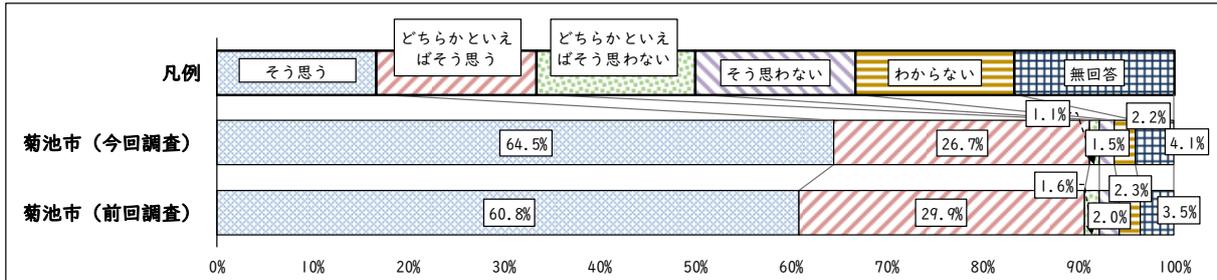
【性・年代別】



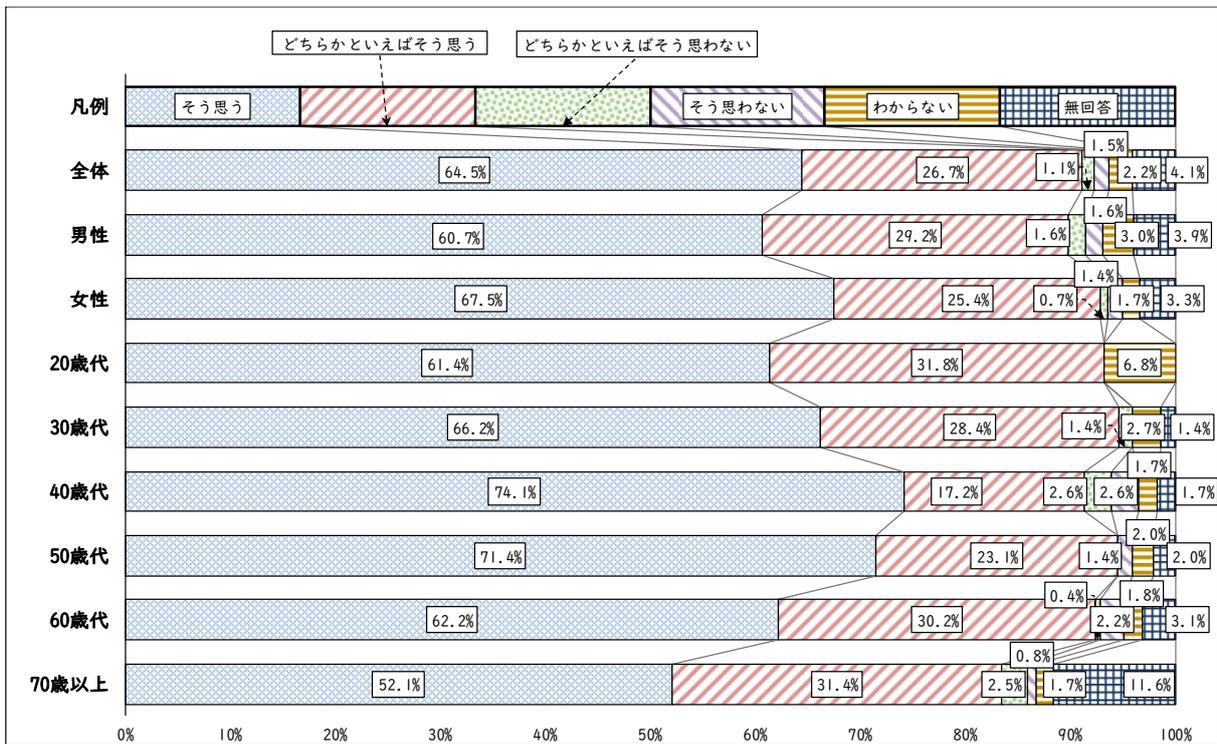
## イ. 性別に関わらずも職業人として経済的に自立できるように育てる

- 性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てるでは、「そう思う」(64.5%)の割合が最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(26.7%)、「わからない」(2.2%)となっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人が「40歳代」で74.1%と他の年齢階層と比べて最も高くなっています。

【全体】



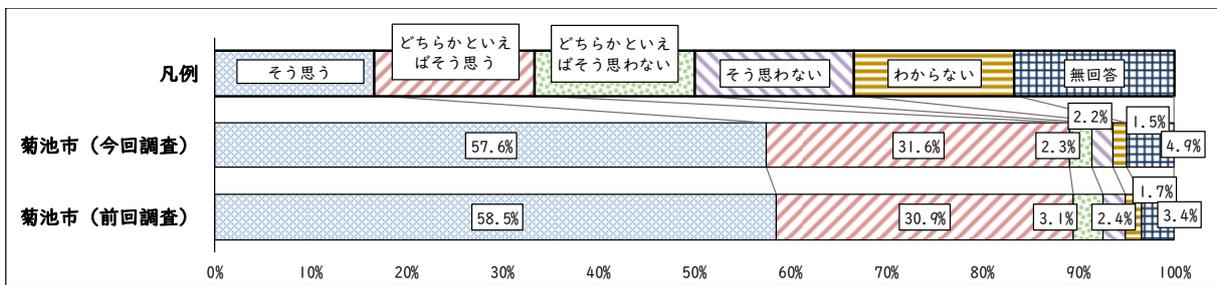
【性・年代別】



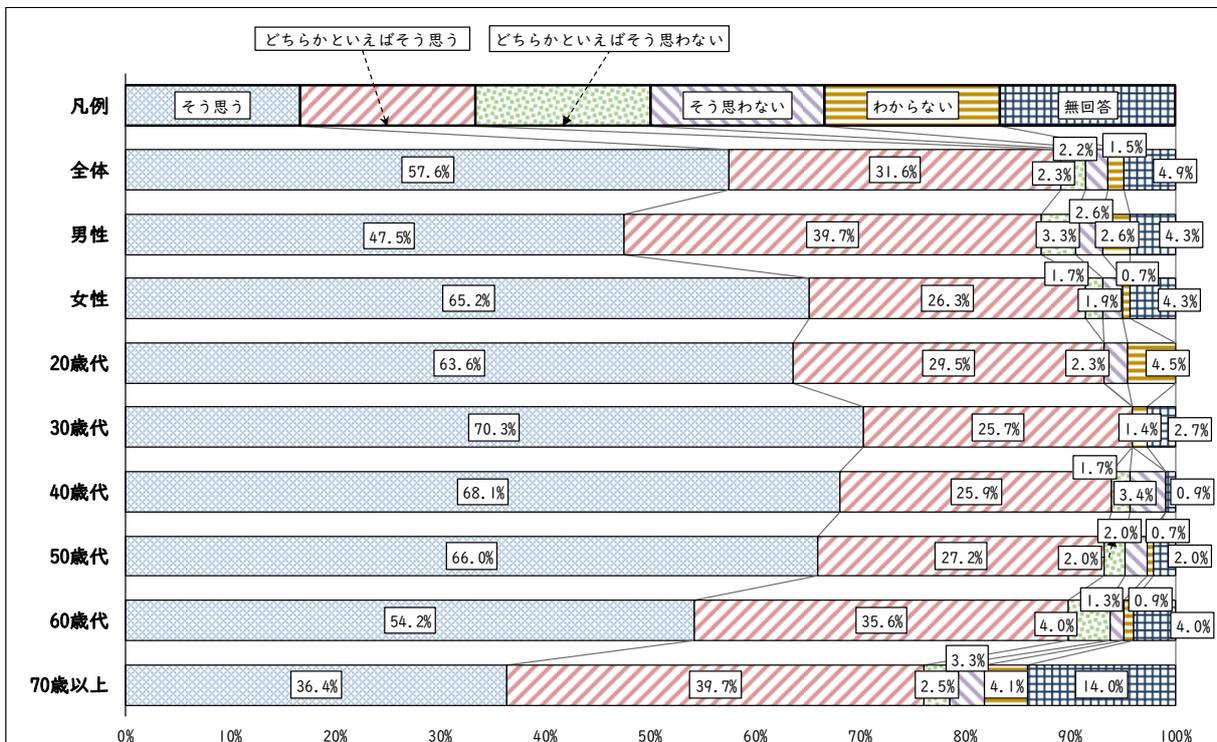
### ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる

- 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるでは、「そう思う」(57.6%)の割合が最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(31.6%)、「どちらかといえばどう思わない」(2.3%)となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、全体の89.2%となっており、男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるという考え方に肯定的となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」と回答している人は、男性(47.5%)に比べて女性(65.2%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人が「70歳以上」で36.4%と他の年齢階層と比べて最も低くなっています。

【全体】



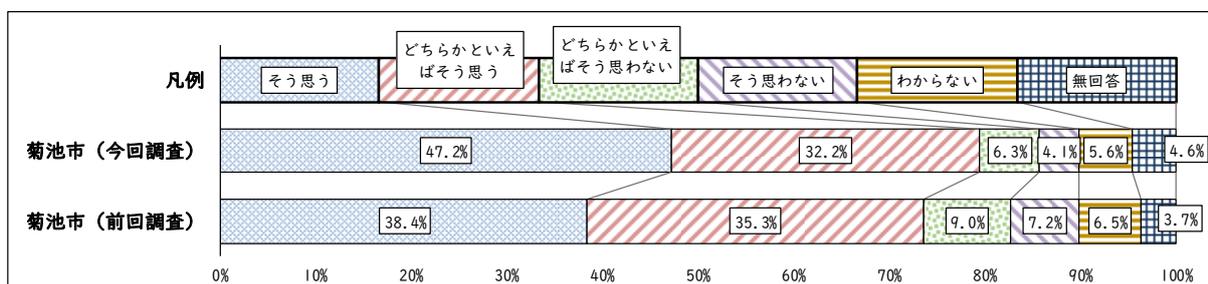
【性・年代別】



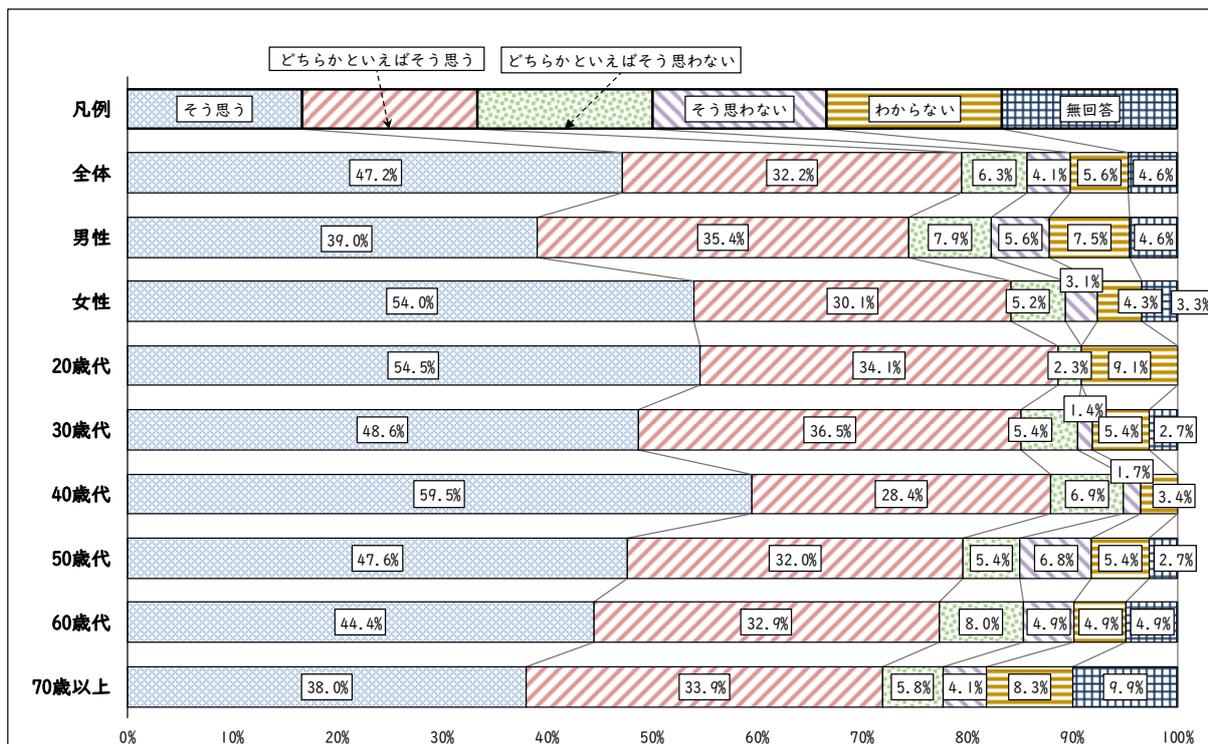
## エ. 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする

- 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をするでは、「そう思う」(47.2%)の割合が最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(32.2%)、「どちらかといえばどう思わない」(6.3%)となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、全体の79.4%となっており、個性に合った育て方をするという考え方に肯定的となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」と回答している人は、男性(39.0%)に比べて女性(54.0%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人が「40歳代」で59.5%と他の年齢階層と比べて最も高く、「70歳以上」においては38.0%と最も低くなっています。

【全体】



【性・年代別】

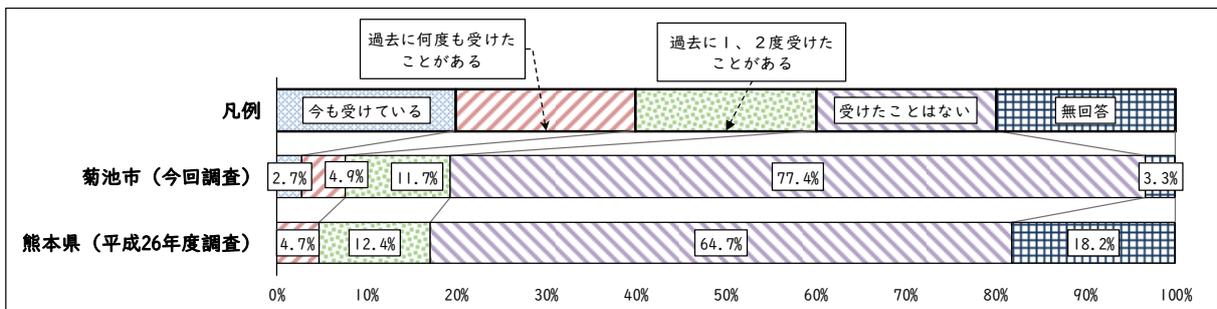


## 8 配偶者からの暴力(ドメスティックバイオレンス(通称:DV))について

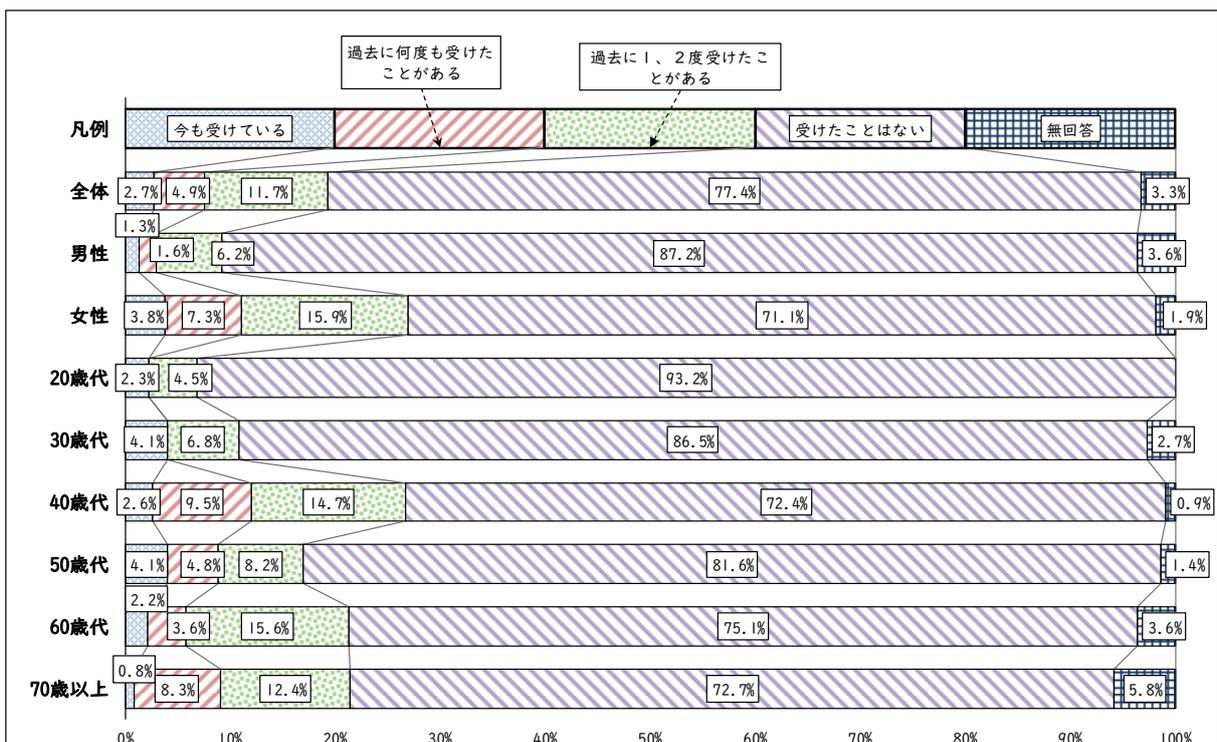
問15 あなたは、あなた自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたことがありますか。(単数回答)

- 自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたことがあるかについて、「受けたことはない」(77.4%)の割合が最も高く、次いで、「過去に1、2度受けたことがある」(11.7%)、「過去に何度も受けたことがある」(4.9%)となっています。
- 男女別にみると、「今も受けている」「過去に1、2度受けたことがある」「過去に何度も受けたことがある」と回答している人は、男性(9.1%)に比べて女性(27.0%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、「今も受けている」「過去に1、2度受けたことがある」「過去に何度も受けたことがある」と回答している人が「40歳代」で26.8%と他の年齢階層と比べて最も高くなっています。

【全体】



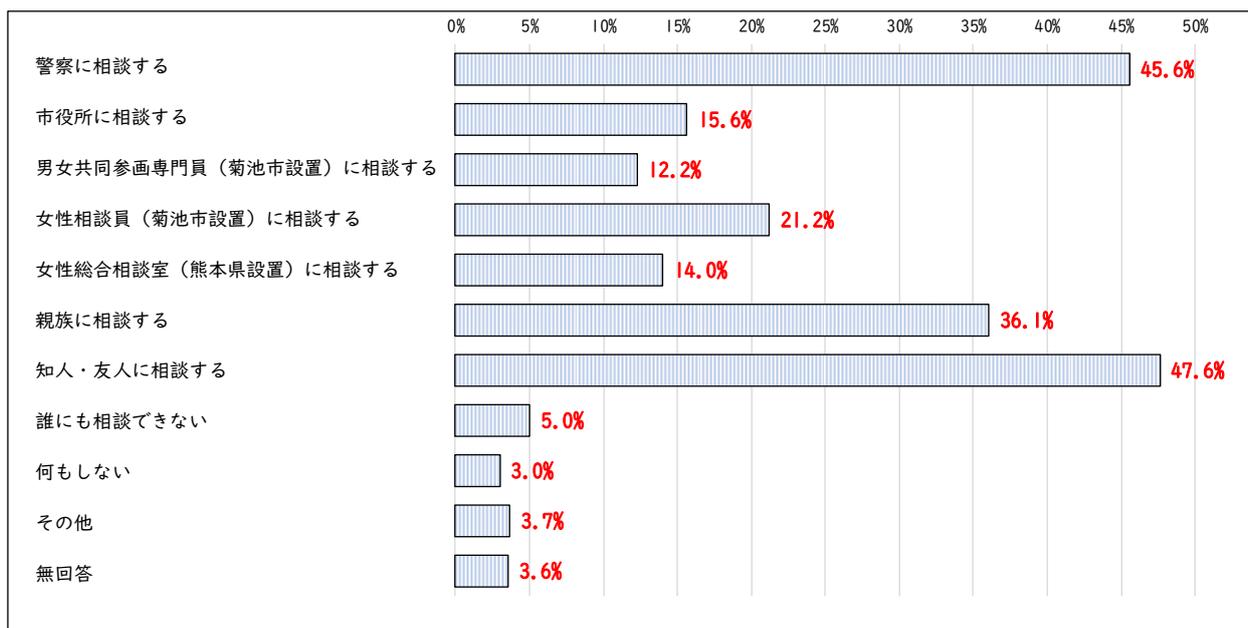
【性・年代別】



**問16 あなたは、あなた自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたり、あなたの知り合いから相談を受けた場合、どのように行動すると思いますか。  
(複数回答)**

●自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたり、あなたの知り合いから相談を受けた場合、どのように行動するかについて、「知人・友人に相談する」(47.6%)の割合が最も高く、次いで、「警察に相談する」(45.6%)、「親族に相談する」(36.1%)となっています。

**【全体】**



**【その他の回答（抜粋）】**

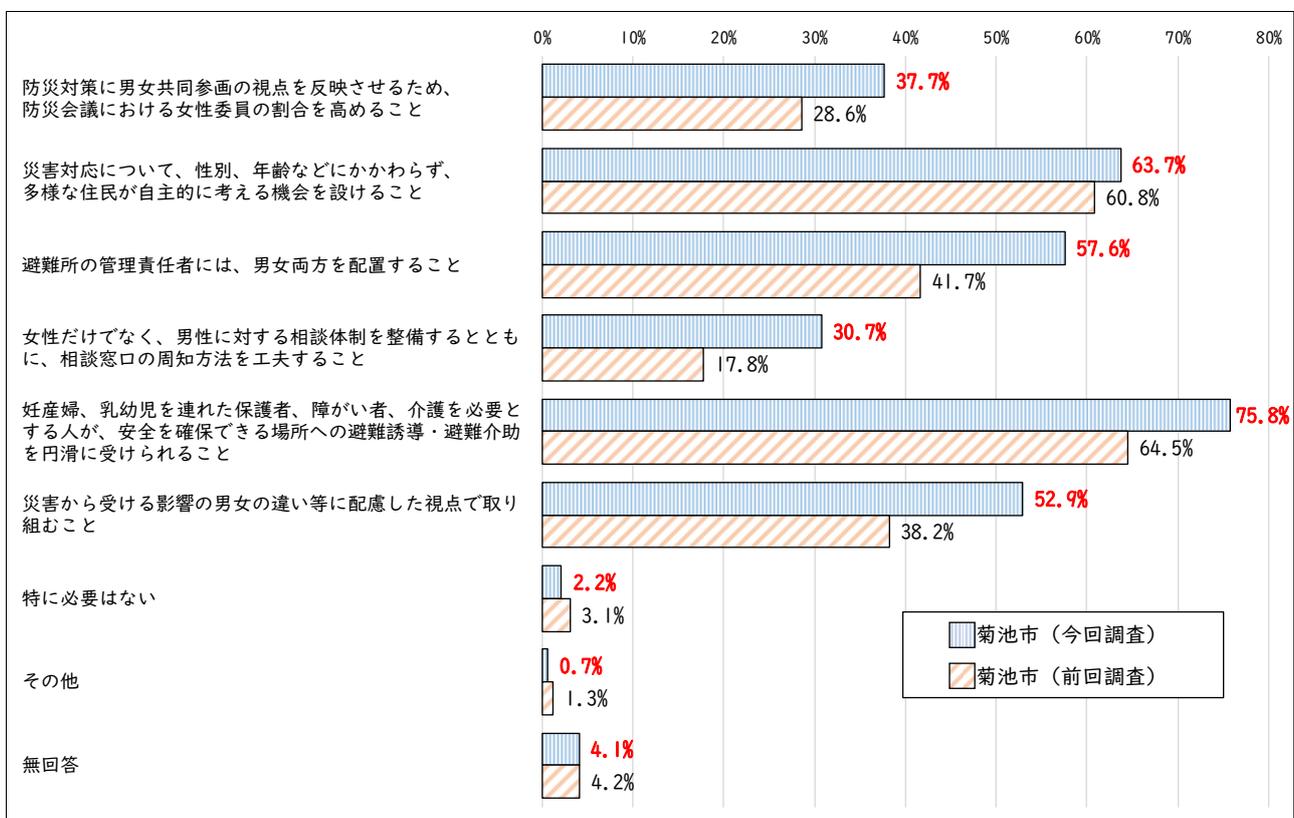
- 1 | その立場になってみないと想像できない。
- 2 | ネットで気軽に相談できる場所をまずは探す。

## 9 防災の分野における男女共同参画について

### 問17 国の第4次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、防災の分野における男女共同参画の推進がありますが、どのようなことが必要と考えられますか。(複数回答)

- 防災の分野における男女共同参画で必要なことについて、「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、介護を必要とする人が、安全を確保できる場所への避難指導・避難介助を円滑に受けられること」(75.8%)の割合が最も高く、次いで、「災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること」(63.7%)、「避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること」(57.6%)となっています。

#### 【全体】

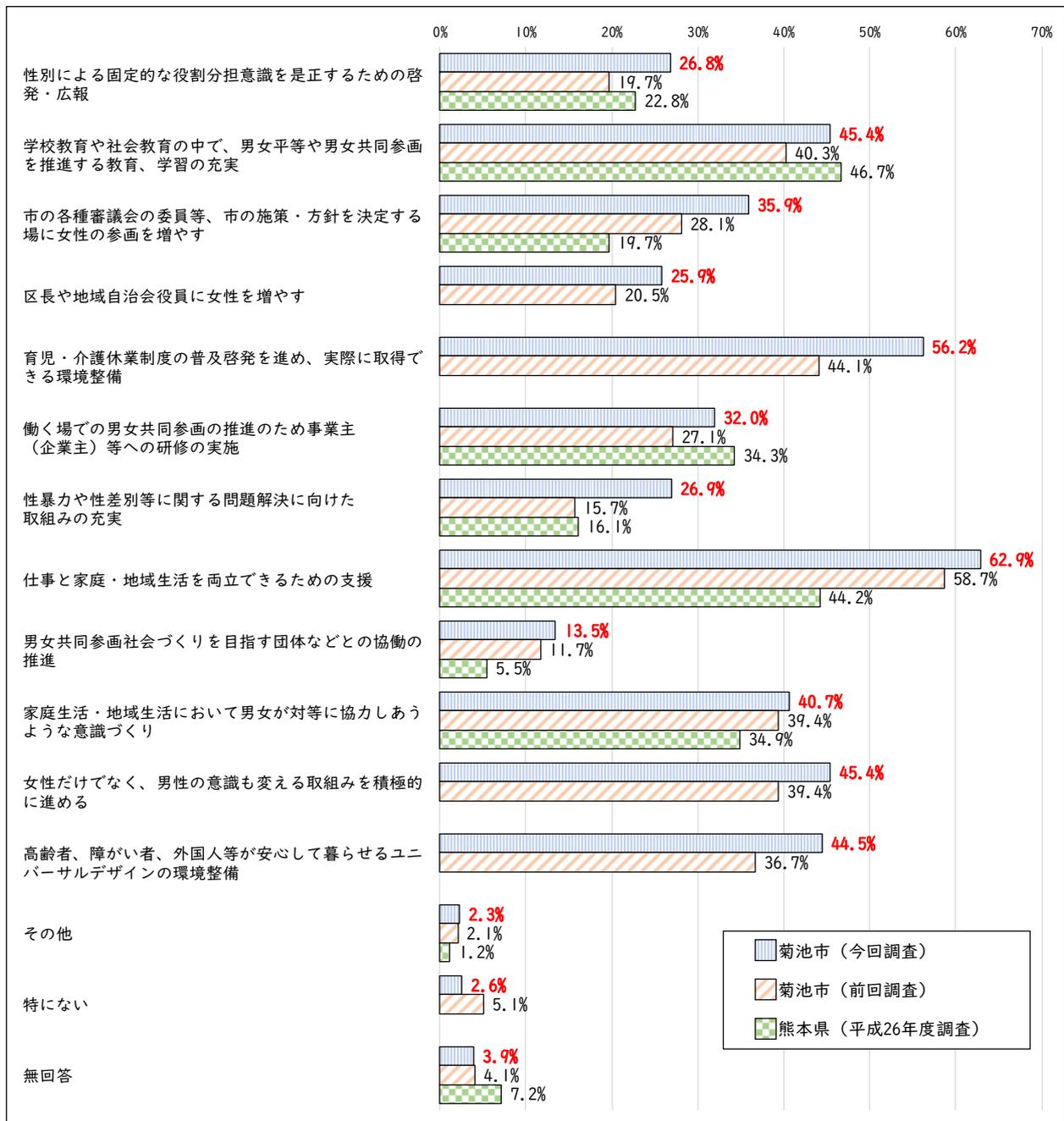


## 10 男女共同参画社会の推進について

### 問18 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

- 男女共同参画社会の実現のために菊池市が力を入れるべきことについて、「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」(62.9%)の割合が最も高く、次いで、「育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備」(56.2%)、「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画を推進する教育、学習の充実」(45.4%)、「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画を推進する教育、学習の充実」「女性だけでなく、男性の意識も変える取組みを積極的に進める」(45.4%)となっています。

【全体】

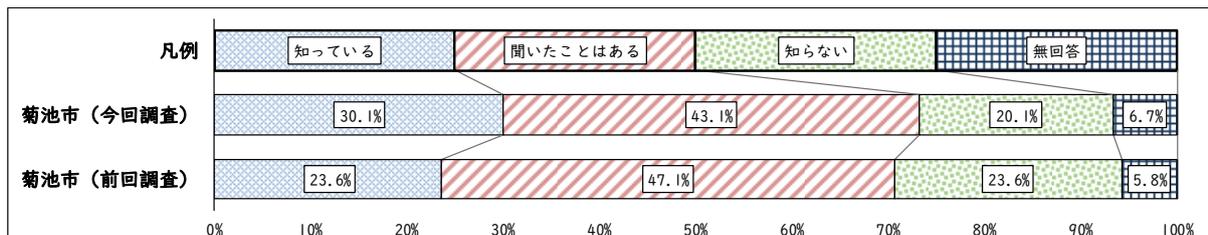


問19 あなたは、以下の言葉についてご存知ですか。

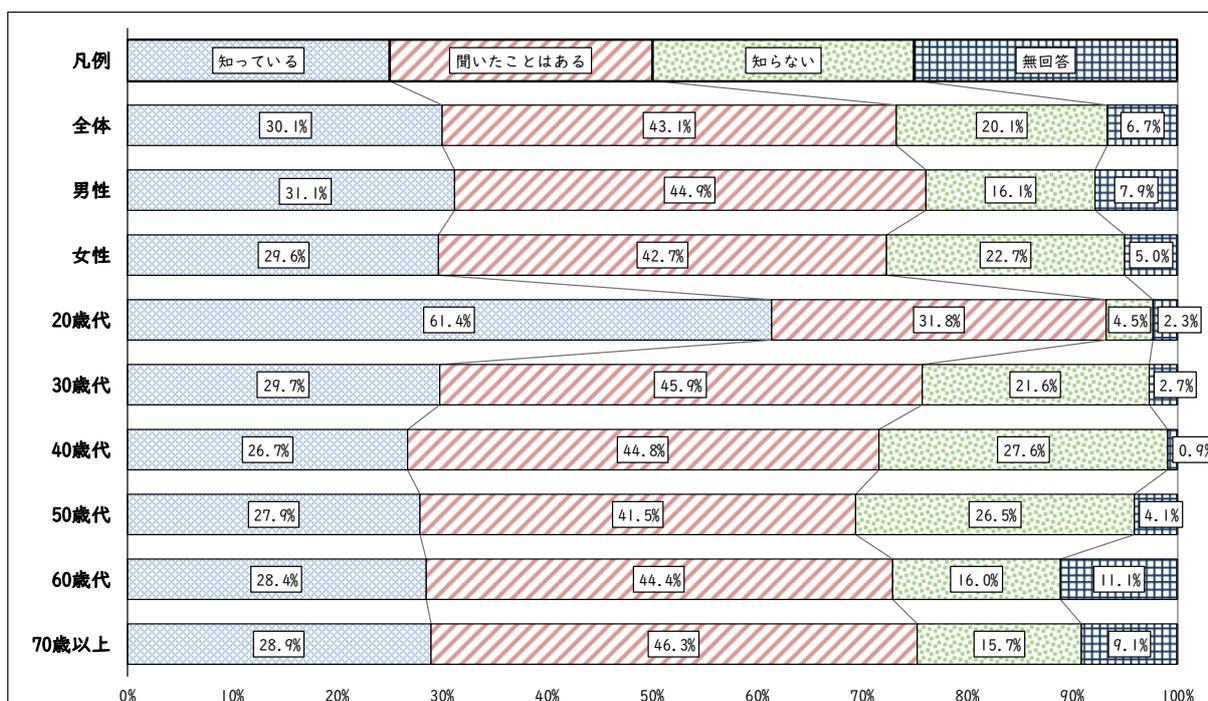
ア. 男女共同参画社会基本法

- 男女共同参画社会基本法では、「聞いたことはある」(43.1%)の割合が最も高く、次いで「知っている」(30.1%)となっており、言葉の認知度は高くなっています。
- 年代別にみると、他の年齢階層と比べて「20歳代」の認知度が高くなっています。

【全体】



【性・年代別】

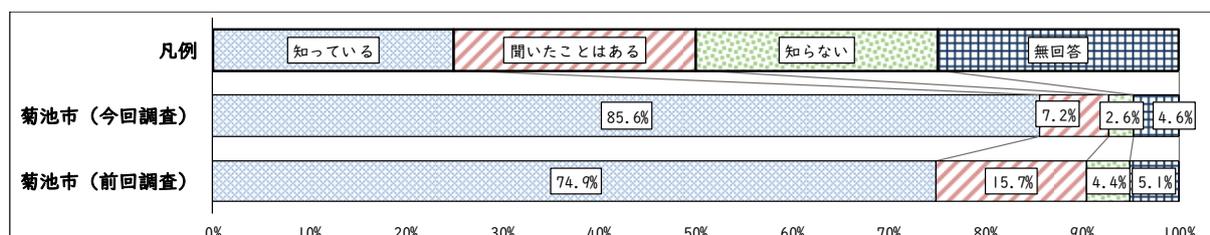


## イ. ドメスティック・バイオレンス (DV)

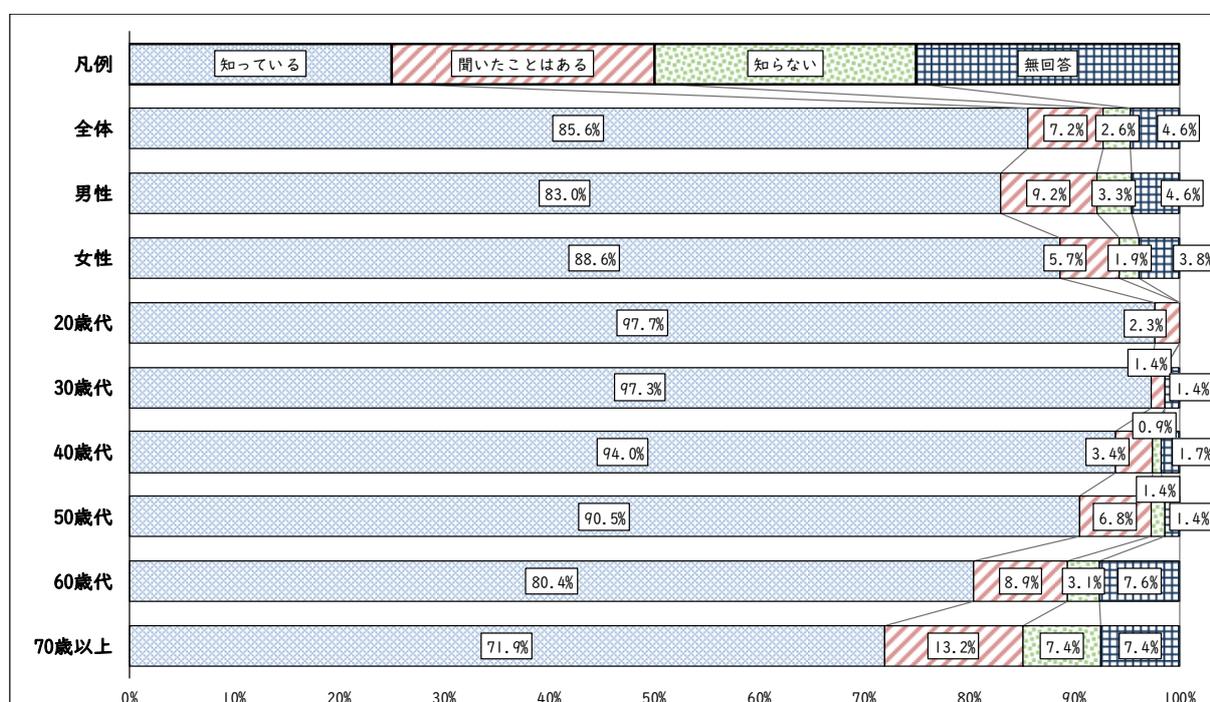
●ドメスティック・バイオレンス (DV) では、「知っている」(85.6%) の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(7.2%) となっており、言葉の意味も含めて認知度は全体の 92.8% となっています。

●年代別にみると、50 歳代より若い年齢階層では知っている人の割合が 9 割を超えています。

【全体】



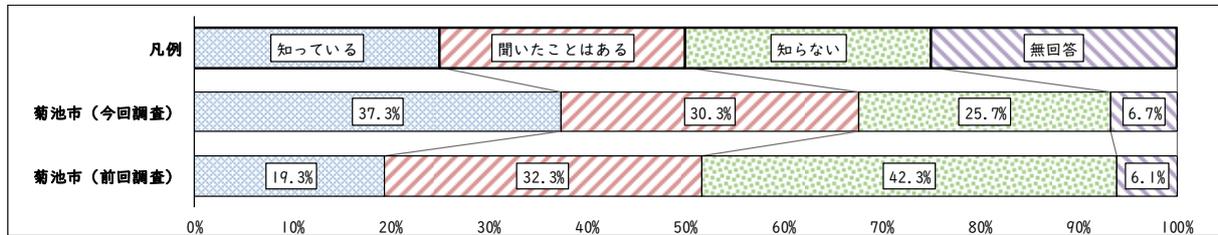
【性・年代別】



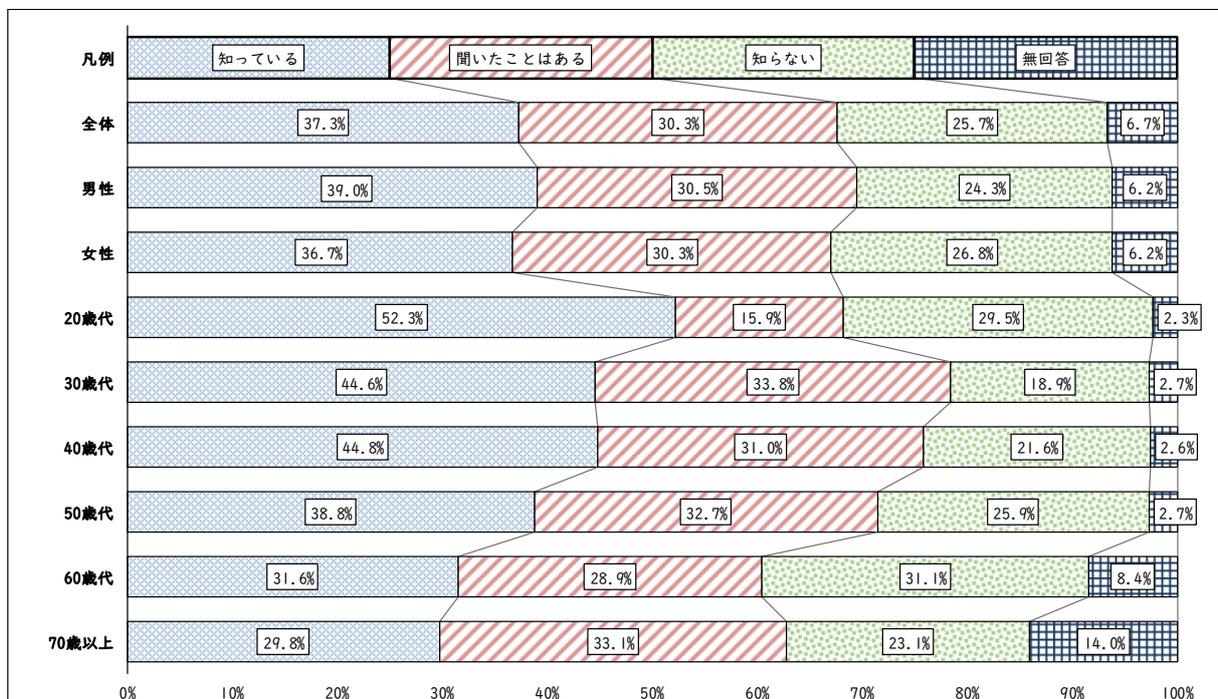
## ウ. ワーク・ライフ・バランス

- ワーク・ライフ・バランスでは、「知っている」(37.3%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(30.3%)、「知らない」(25.7%)となっています。
- 年代別にみると、年齢階層が若くなるに従って「知っている」の割合が高い傾向にあります。

【全体】



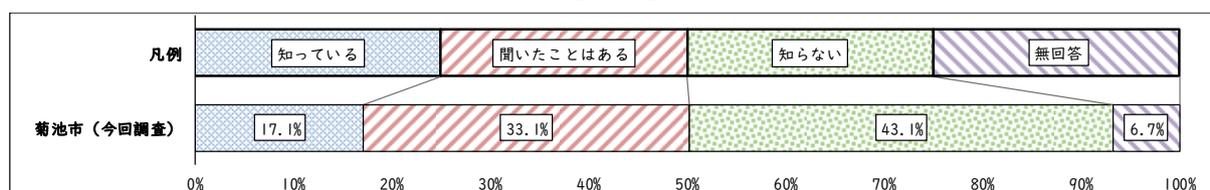
【性・年代別】



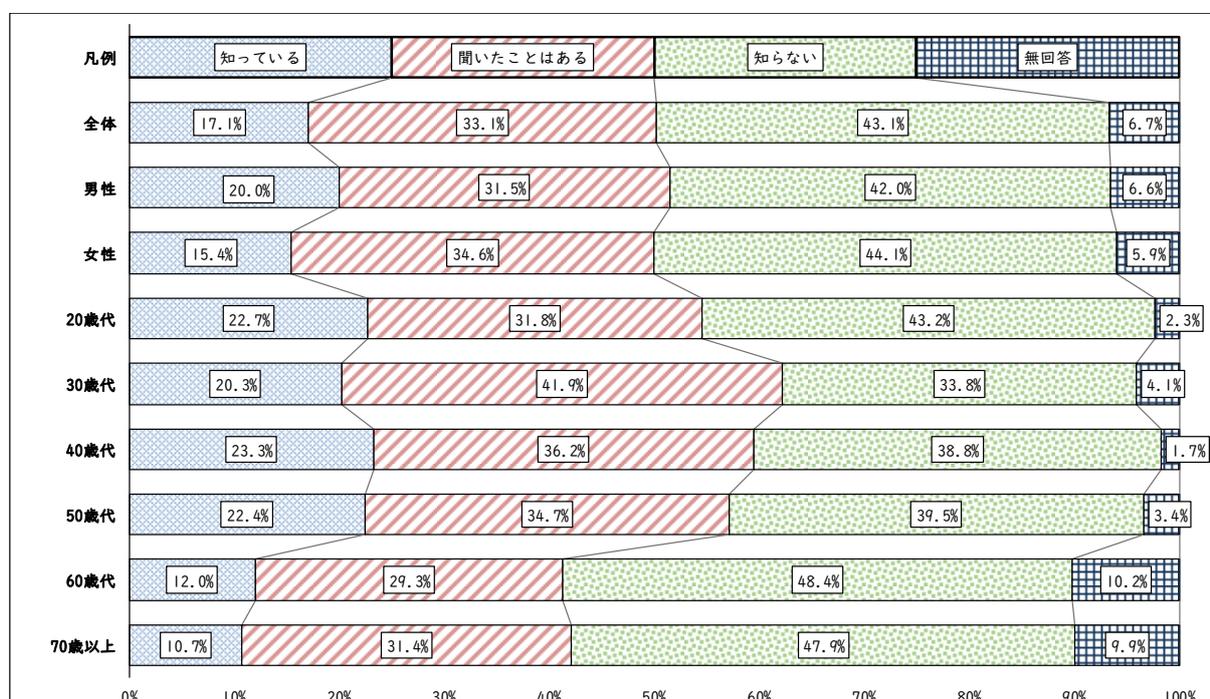
## エ. ダイバーシティ（多様性）

- ダイバーシティ（多様性）では、「知らない」（43.1％）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（33.1％）、「知っている」（17.1％）となっています。
- 男女別にみると、「知っている」と回答している人は、男性（20.0％）に比べ女性（15.4％）の割合が低くなっています。

【全体】



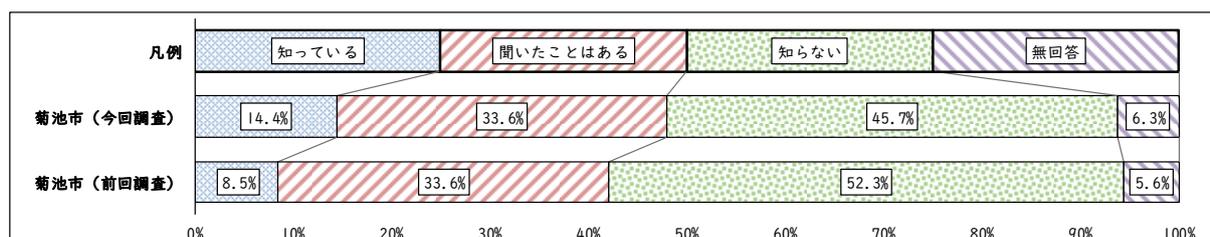
【性・年代別】



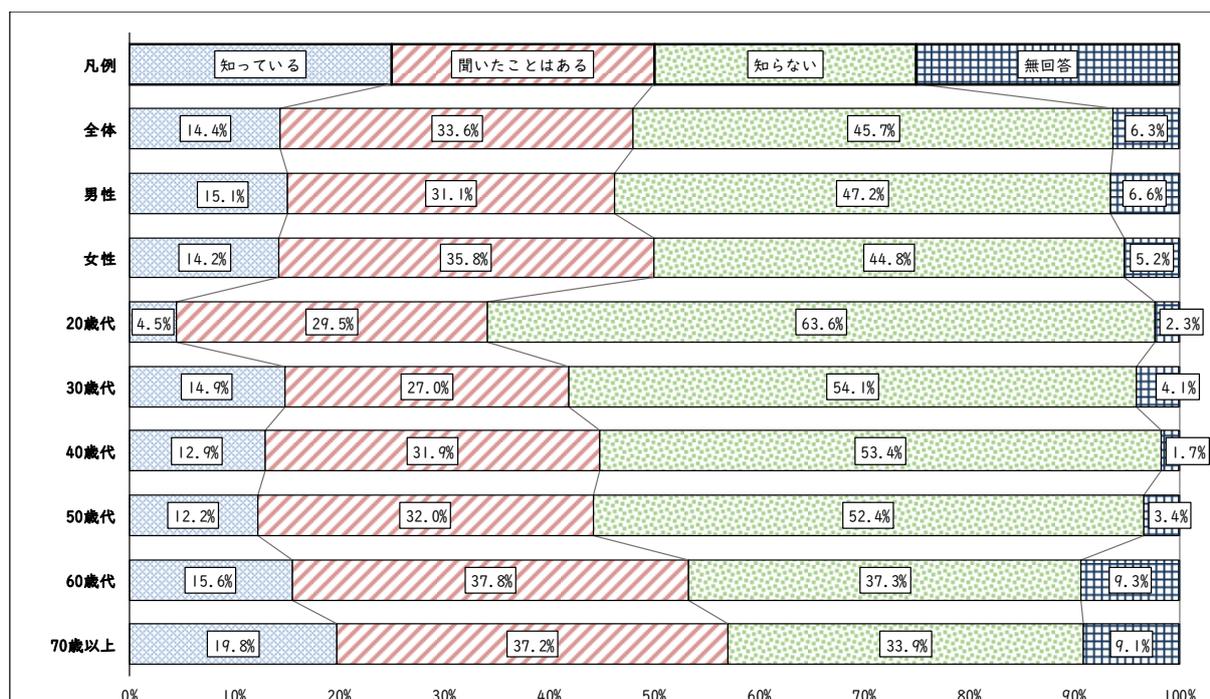
## オ. 菊池市男女共同参画推進条例

- 菊池市男女共同参画推進条例では、「知らない」(45.7%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(33.6%)、「知っている」(14.4%)となっています。
- 年代別にみると、「知っている」と回答している人が「20歳代」で4.5%と他の年齢階層と比べて最も低くなっています。
- 前回調査と比較すると、今回調査で「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は全体の48.0%となっており、前回調査よりも認知度が5.9ポイント高くなっています。

【全体】



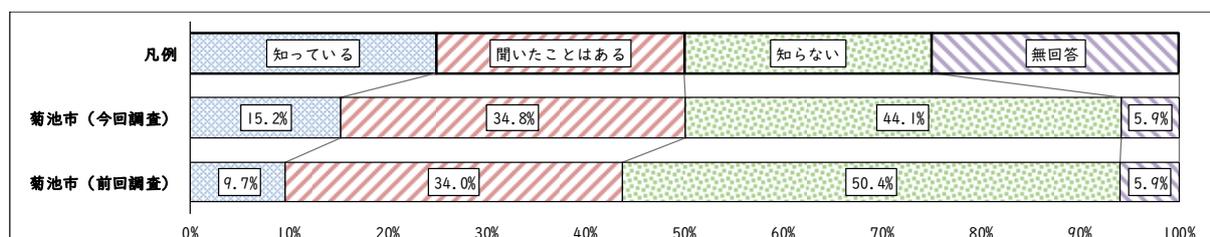
【性・年代別】



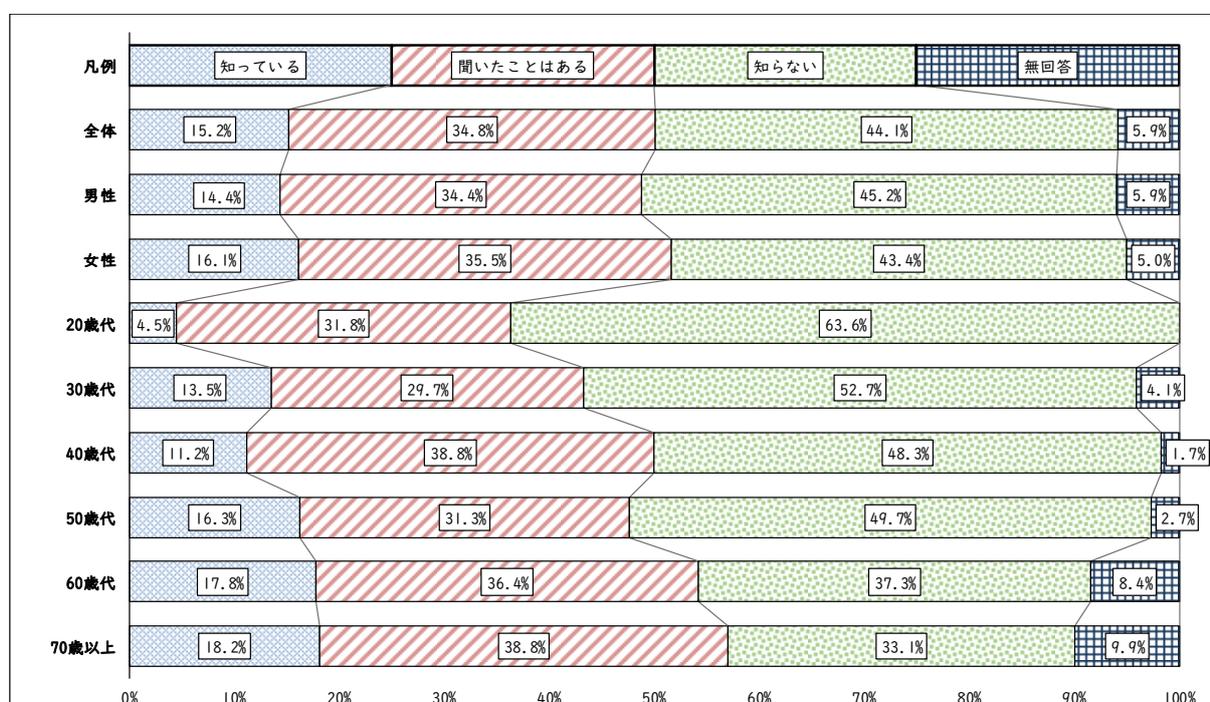
## カ. 菊池市男女共同参画計画

- 菊池市男女共同参画計画では、「知らない」(44.1%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(34.8%)、「知っている」(15.2%)となっています。
- 前回調査と比較すると、今回調査で「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は全体の50.0%となっており、前回調査よりも認知度が6.3ポイント高くなっています。

【全体】



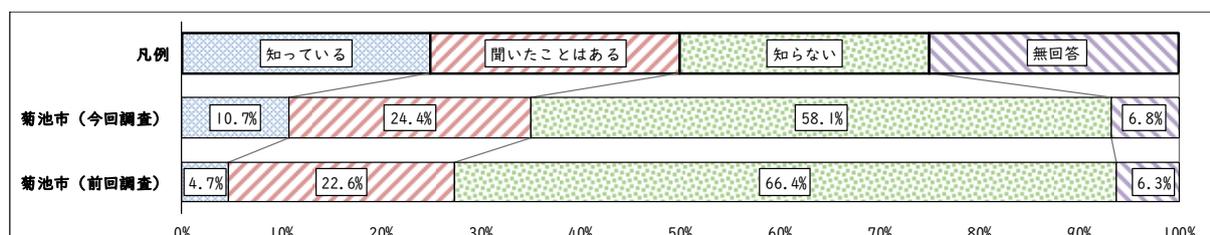
【性・年代別】



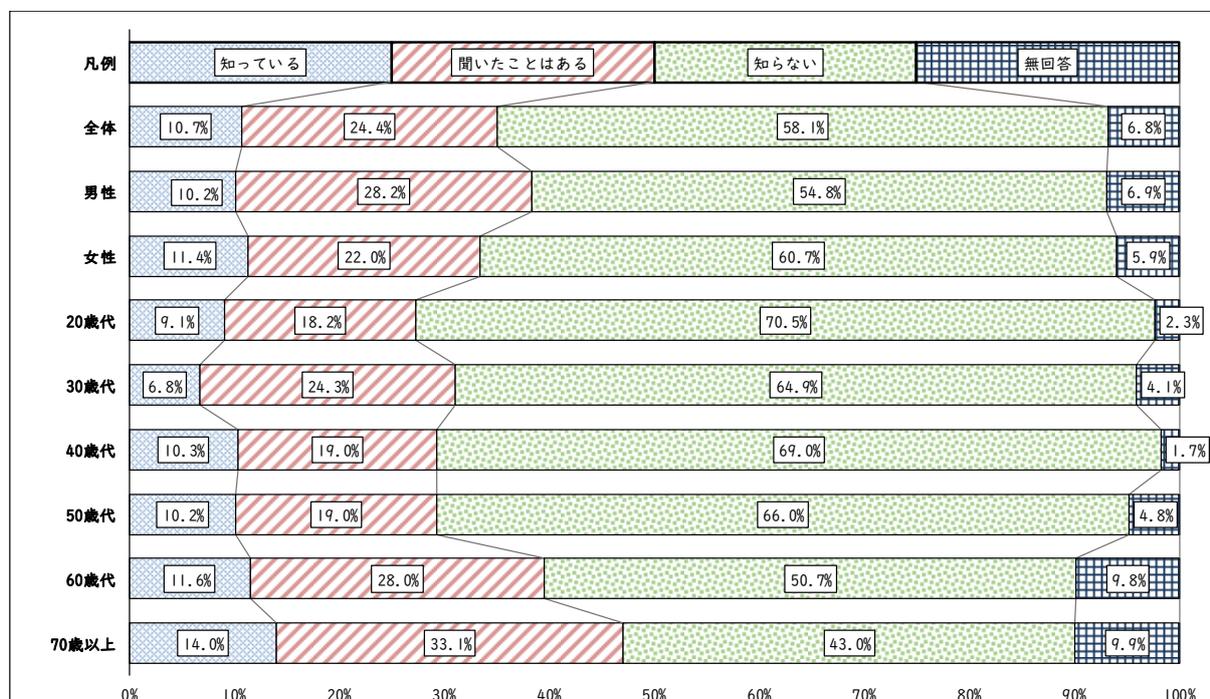
## キ. 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）

- 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）では、「知らない」（58.1%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（24.4%）、「知っている」（10.7%）となっています。
- 前回調査と比較すると、今回調査で「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は全体の35.1%となっており、前回調査よりも認知度が7.8ポイント高くなっています。

【全体】



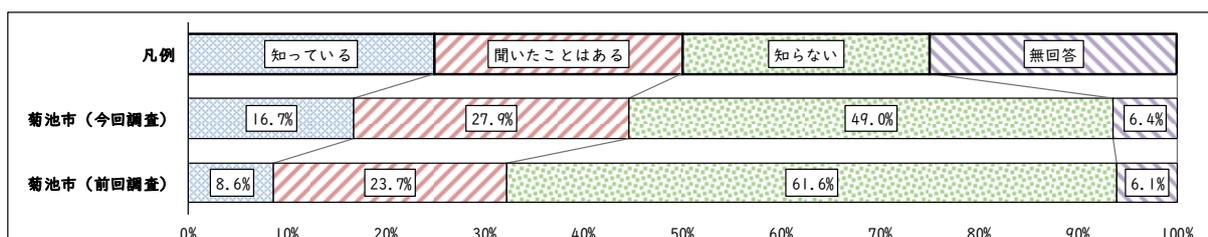
【性・年代別】



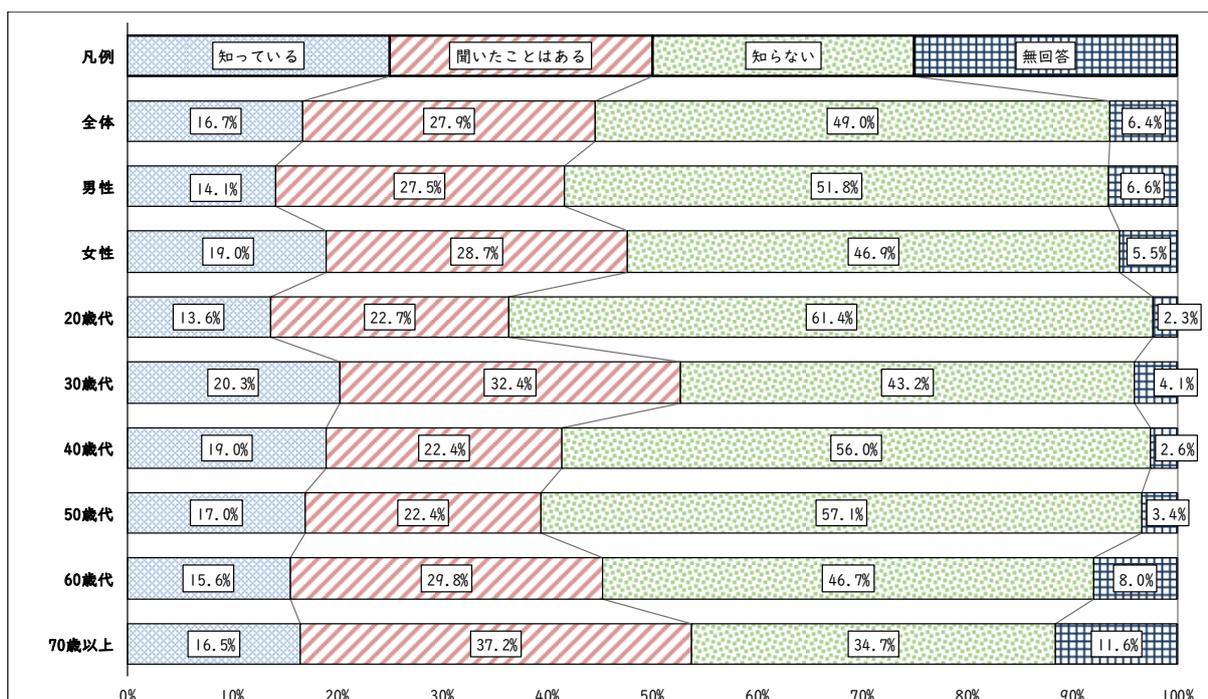
## ク. 女性相談員（菊池市設置）

- 女性相談員（菊池市設置）では、「知らない」（49.0%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（27.9%）、「知っている」（16.7%）となっています。
- 年代別にみると、「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は「30歳代」において52.7%と最も高くなっています。
- 前回調査と比較すると、今回調査で「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は全体の44.6%となっており、前回調査よりも認知度が12.3ポイント高くなっています。

【全体】



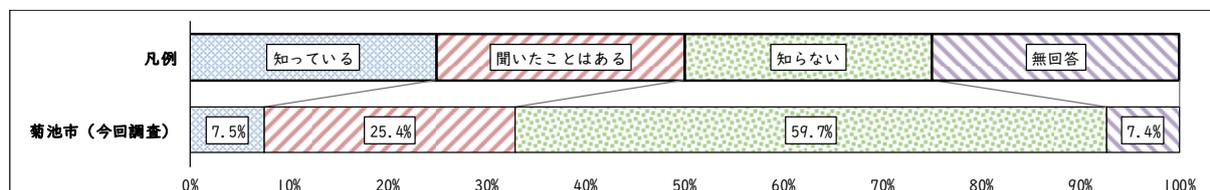
【性・年代別】



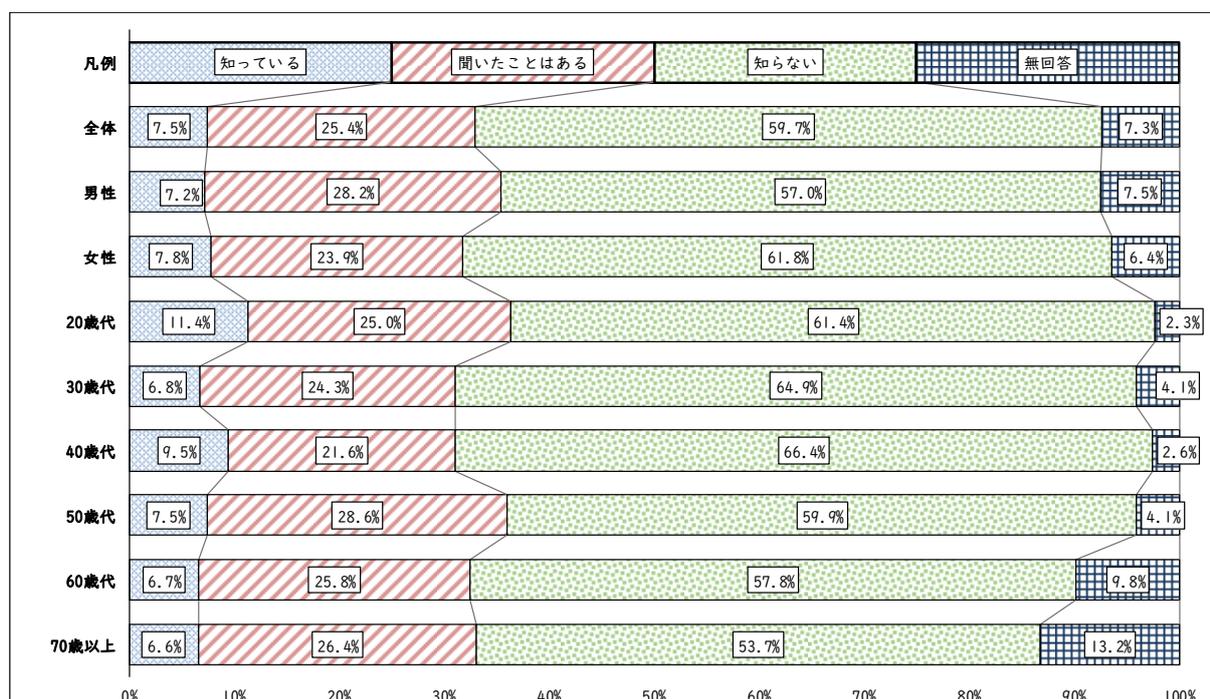
## ケ. 女性活躍推進法

- 女性活躍推進法では、「知らない」(59.7%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(25.4%)、「知っている」(7.5%)となっています。

【全体】



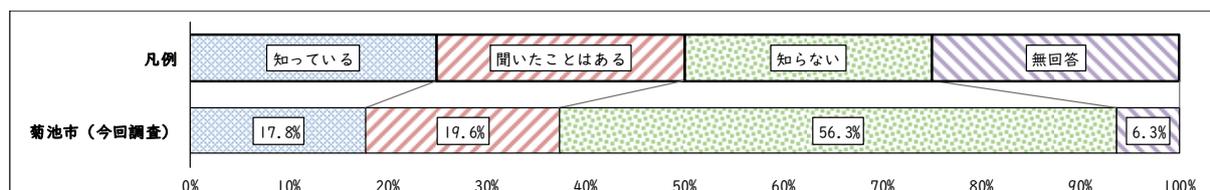
【性・年代別】



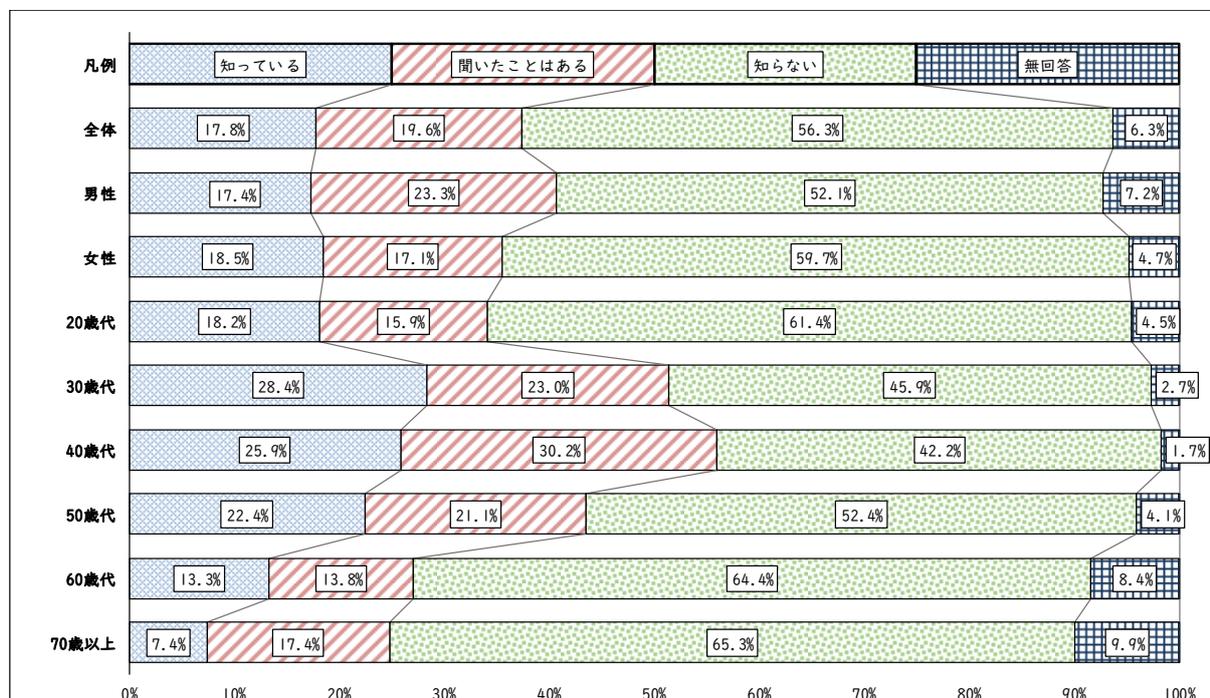
## コ. JK ビジネス

- JK ビジネスでは、「知らない」(56.3%) の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(19.6%)、「知っている」(17.8%) となっています。
- 年代別にみると、「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は「40 歳代」において 56.1% と最も高く、「70 歳以上」において 24.8% と最も低くなっています。

【全体】



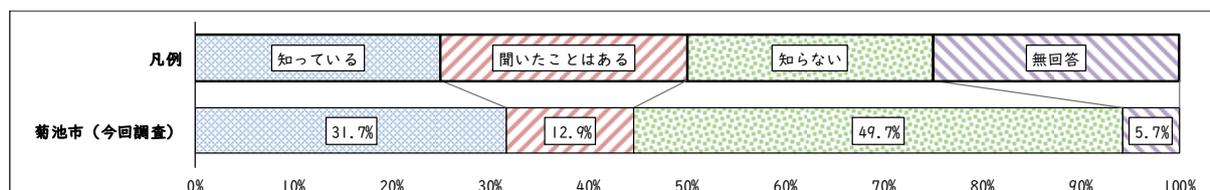
【性・年代別】



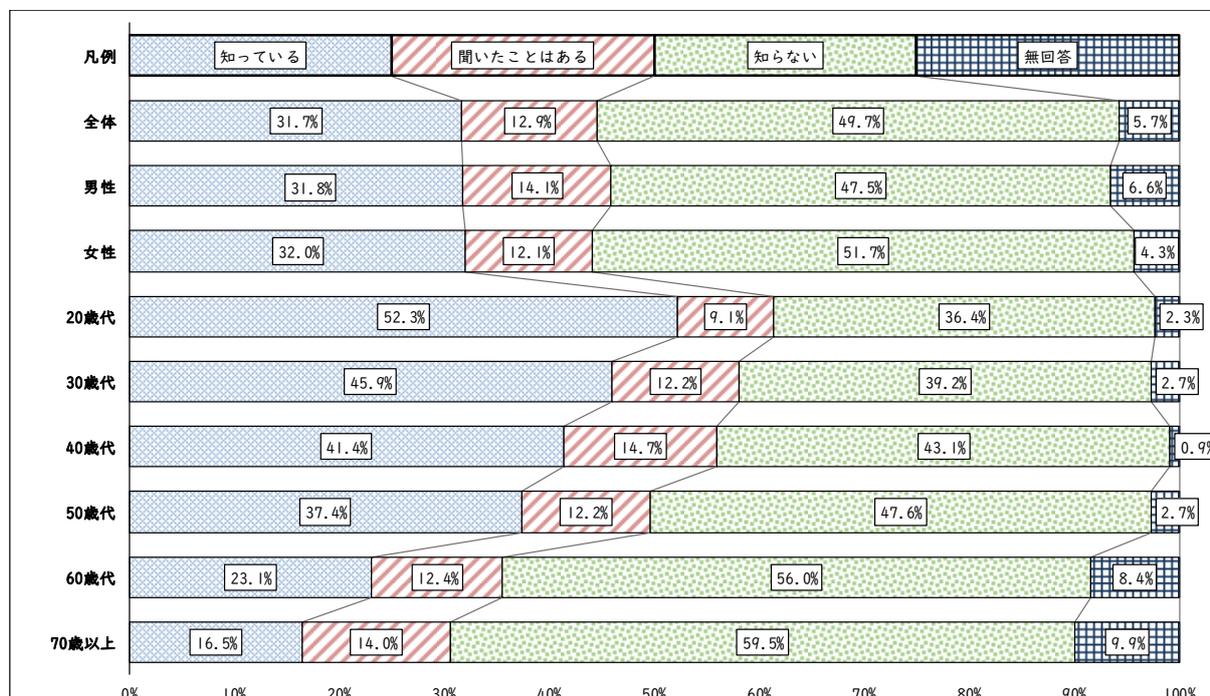
## サ. LGBT

- LGBTでは、「知らない」(49.7%)の割合が最も高く、次いで「知っている」(31.7%)、「聞いたことはある」(12.9%)となっています。
- 年代別にみると、「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は「20歳代」において61.4%と最も高く、「70歳以上」において30.5%と最も低くなっています。

【全体】



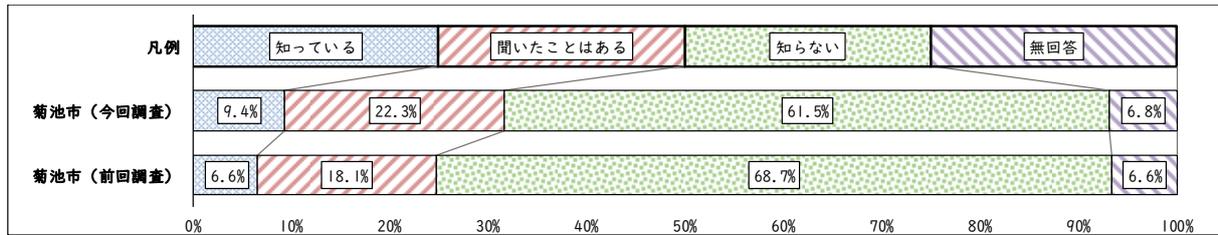
【性・年代別】



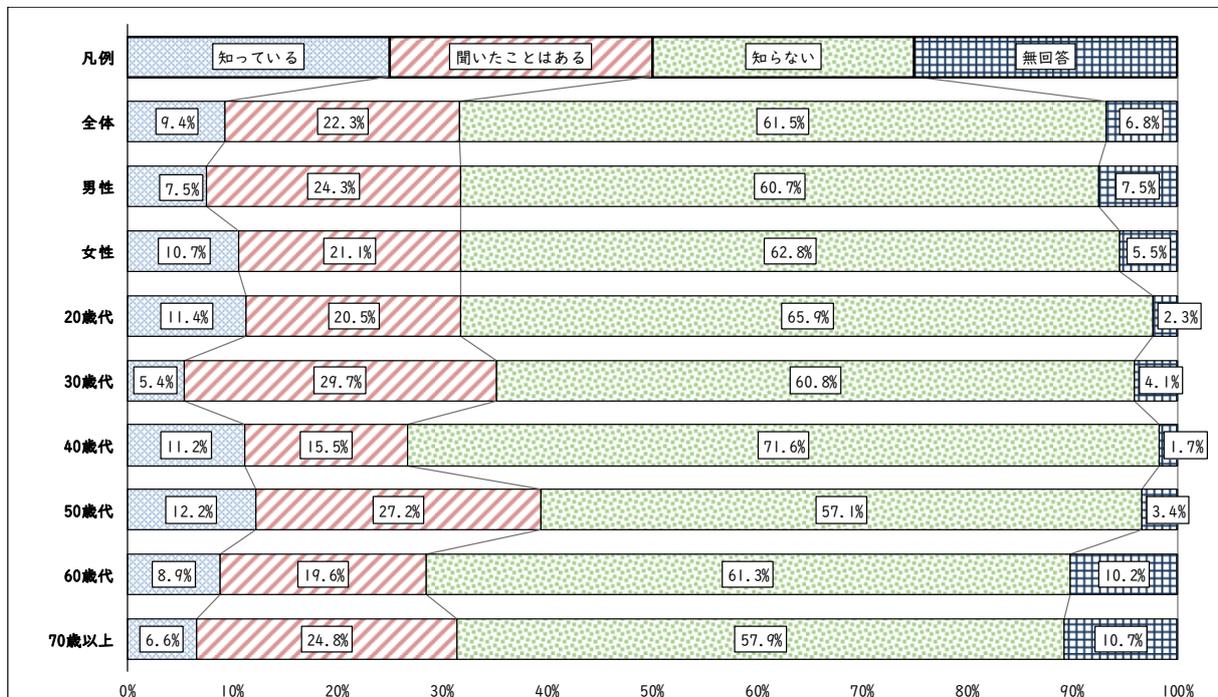
## シ. ポジティブ・アクション

- ポジティブ・アクションでは、「知らない」(61.5%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(22.3%)、「知っている」(9.4%)となっています。
- 前回調査と比較すると、今回調査で「知っている」「聞いたことはある」と回答している人は全体の31.7%となっており、前回調査よりも認知度が7.0ポイント高くなっています。

【全体】



【性・年代別】



## ■自由記述

【回答者の性・年代別構成】

年代	女性		男性		不明		合計	
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
20歳代	5	5.2	0	0.0	0	0.0	5	3.5
30歳代	9	9.4	5	11.4	0	0.0	14	9.9
40歳代	12	12.5	4	9.1	0	0.0	16	11.3
50歳代	20	20.8	13	29.5	0	0.0	33	23.4
60歳代	30	31.3	17	38.6	0	0.0	47	33.3
70歳以上	19	19.8	5	11.4	0	0.0	24	17.0
年齢不明	1	1.0	0	0.0	1	100.0	2	1.4
合計	96	100.0	44	100.0	1	100.0	141	100.0

※（％）は小数点以下第2位を四捨五入しています。

自由記述欄では、合計で141件の貴重なご意見を頂きました。頂いたご意見は担当課にて全て確認させていただき、菊池市の男女共同参画社会の推進に向けた施策立案の参考とさせていただきます。

## IV 参考資料

### 1 用語の解説

あ	LGBT	性的少数者を限定的に指す言葉。レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（出生時に診断された性と、自認する性の不一致）の頭文字をとった総称であり、他の性的少数者は含まない。
か	菊池市男女共同参画計画	男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画行政の総合化、効率化を図るため、計画の目標や理念を明示し、具体的に施策の方向や内容を提示するために、菊池市が策定している計画。
	菊池市男女共同参画推進条例	男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業所の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策について、基本となる事項を定めることにより、総合的計画的に推進することを目的として制定。
さ	JKビジネス	女子高生による男性向けのサービスを提供する業務形態の総称。労働基準法違反が疑われる事例があり、その実態は性産業に近く、少女売春や犯罪などの危険があるとして、警察の取り締まりが強化されている。
	女性活躍推進法 （女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	女性の職業生活における活躍を推進し実現するため、採用や昇進等への積極的登用、仕事と家庭生活の両立のための環境整備などの基本原則を定め、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を目指す法律。
	女性相談員	婦人相談員並びに母子・父子自立支援員の職務であり、権利擁護・啓発、ひとり親家庭への自立支援、DV等被害女性への支援、女子の生きづらさへの総合支援活動を役割としている。【窓口：子育て支援課】
た	ダイバーシティ（多様性）	多様な人材を積極的に活用しようという考え方のこと。性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする。こと。
	男女共同参画社会基本法	「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置づけ、国の政策に関する基本方針を明らかにするとともに、基本理念や国・地方公共団体・国民の責務、施策の基本となる事項などを定めている法律。
	男女共同参画専門委員相談	男女共同参画の取り組みや、推進に影響を及ぼすと思われることや、性別による差別的取扱い・男女間における暴力・セクシャルハラスメント等の人権侵害に対する相談や苦情に対して、専門の委員（弁護士・カウンセラー）が相談に応じる。【窓口：男女共同参画推進課】
	ドメスティック・バイオレンス （DV）	配偶者や恋人など、親しい関係にある人からの暴力。なぐる、けるなどの身体的な暴力だけでなく、言葉で傷つけたり無視したりする心理的暴力や、生活費を渡さないなどの経済的暴力、行動を監視したりする社会的暴力、望まない性行為を強要するなどの性的暴力などの形がある。
は	ポジティブ・アクション	様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくもの。
わ	ワーク・ライフ・バランス	国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。

## 2 調査票



男性も女性も、ともに輝き支えあう社会を実現するために  
**あなたの声を聞かせてください！**

～男女共同参画社会づくりのための菊池市民意識調査～

【アンケート調査票】



菊池市  
男女共同参画推進課

## 【アンケートご協力のお願い】

市民の皆さまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

菊池市では、男女共同参画社会（男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指して取り組みを進めております。

本調査は、市民の皆様の男女共同参画に関するお考えやご意見をお伺いし、今後の男女共同参画に関する施策を充実させていくための基礎資料とすることを目的として実施するものです。この調査にあたりましては、20歳から75歳の市民の方から2,000人を無作為に選ばせていただき、本調査票を送付させていただいております。

いただいた回答は、計画見直しの基礎資料とするための集計・分析のみに使用し、それ以外の目的には一切使用いたしません。また、お答えいただいた内容が外部にもれることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ではありますが、調査の趣旨を充分ご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成30年7月

菊池市長 江頭 実

### ●記入上にあたってのお願い

1. アンケートは、封筒あて名の方で本人がご記入ください。
2. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。また、○の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。
3. ご記入が終わりましたら、記入漏れがないか最後に確認をお願いします。
4. 確認が終わりましたら、**8月20日まで**に、同封の返信用封筒に入れて、返送してください。（切手を貼っていただく必要はありません。）

### ●調査について、ご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください

お問い合わせ先	菊池市役所 総務部 男女共同参画推進課 (担当) 九重
電 話	0968-25-7210

## ◆あなたご自身のことについて

1 あなたの性別を教えてください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

2 あなたの年齢を教えてください。(平成30年6月1日現在)

1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上

3 あなたのご職業は何ですか。

1. 会社員・団体職員・公務員・教員	2. 会社経営・自由業・自営業・家業
3. 農林業	4. 専業主婦・専業主夫
5. パート・アルバイト	6. 学生
7. 無職	8. その他( )

4 あなたは結婚していらっしゃいますか。

1. 結婚していない	2. 結婚している・結婚していた(事実婚・離死別含む)
------------	-----------------------------

5 配偶者のいらっしゃる方におたずねします。配偶者は就業されていますか

1. 就業している	2. 就業していない
-----------	------------

6 あなたの家族構成について教えてください

1. 単身世帯(1人暮らし)	2. 夫婦世帯(夫婦のみ)
3. 二世帯世帯(親と子)	4. 三世帯世帯(親と子と孫)
5. その他の世帯	

7 あなたの住んでおられるところ(旧市町村)を教えてください。

1. 旧菊池市	2. 旧七城町
3. 旧旭志村	4. 旧泗水町

## ◆男女平等に関する考え方について

問1 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。  
ア～ケのそれぞれについて、1～6の中から一つずつ選び○で囲んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア. 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
イ. 職場では	1	2	3	4	5	6
ウ. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
エ. 政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6
オ. 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
カ. 社会通念・慣習・しきたり等では	1	2	3	4	5	6
キ. 自治会・PTA・地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
ク. 菊池市全体では	1	2	3	4	5	6
ケ. 社会全体では	1	2	3	4	5	6



## ◆家庭生活の役割分担について

問 2 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方について、あなたはごどう思いますか。次の1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 同感する          | 2. どちらかと言えは同感する |
| 3. どちらかと言えは同感しない | 4. 同感しない        |
| 5. わからない         |                 |

問 3 「結婚している・していた（事実婚・離死別を含む）」方にお尋ねします。  
（離死別に該当される方は、当時の状況についてお書きください）

あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。次のア～カのそれぞれについて、1～5の中から一つずつ選び○で囲んでください。

	（経験なし）	主として夫	主として妻	夫婦で同じ程度	その他の人 （親・子ども等）	わからない
ア. 家計を支える（生活費を稼ぐ）	—	1	2	3	4	5
イ. 炊事・掃除・洗濯などの家事	—	1	2	3	4	5
ウ. 日々の家計の管理	—	1	2	3	4	5
エ. 自治会・町内会などの地域活動	—	1	2	3	4	5
オ. 育児（経験者のみ） （経験がない方は、「経験なし」に○をつけてください）	0	1	2	3	4	5
カ. 介護（経験者のみ） （経験がない方は、「経験なし」に○をつけてください）	0	1	2	3	4	5



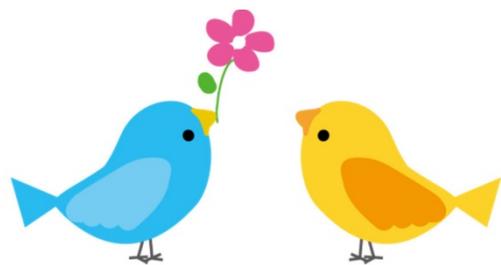
## ◆仕事と家庭・地域生活について

問4 あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものをお答えください。  
次の1～8の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」（家族と過ごすこと、家事、育児、介護等）を優先したい
3. 「地域・個人の生活」（ボランティア活動、社会参加活動、趣味、娯楽等）を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

問5 あなたの現実（現状）に最も近いものをお答えください。  
次の1～8の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない



- 問 6 国では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」のひとつに「多様な働き方・生き方が選択できる社会」をあげています。あなた自身やまわりで、以下のことが一年前と比較してどのように変化していると思いますか。次の1～6の中から一つだけ選び○で囲んでください。



「多様な働き方・生き方が選択できる社会」

性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意思と能力を持ってさまざまな働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人のおかれた状況に応じて、多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1. 良くなったと思う | 2. どちらかといえば良くなったと思う |
| 3. 変わらないと思う | 4. どちらかといえば悪くなったと思う |
| 5. 悪くなったと思う | 6. わからない            |

### ワーク・ライフ・バランス

仕事と私生活を調和させ、そのどちらも充実させることで、お互いをもっとよくしていこうという考え方や、そのための取組のことです。

平成19年12月に策定された「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」では、仕事と生活の調和が実現した社会とは、『国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会』であると定義しています。



## ◆出生率低下について

問7 今、女性が一生において生む子どもの数が少なくなっていると言われていますが、その原因はどこにあると考えますか。

次の1～11の中からあなたの考えに最も近いものを3つまで選んで○で囲んでください。

1. 働く女性が増えたから
2. 女性も男性も働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
3. 子育てにお金がかかるから
4. 出産や育児に対する男性（夫）や家族・親戚の理解や協力が足りないから
5. 少ない子どもに十分な教育を受けさせた方がよいから
6. 子どもより自分自身や夫婦の生活を重視する考えが強くなったから
7. 結婚しても、子どもは欲しくないと思える人が増えたから
8. 子どもを育てるには肉体的・精神的負担が大きいから
9. 結婚年齢が上がっているから
10. 結婚しない人が増えているから
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

## ◆女性の社会参画について

問8 あなたは、女性が自治体の首長（知事や市町村長）や議会議員、企業の管理職や農協の役員などになって、政策の企画立案や方針決定に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思いますか。

次の1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. そう思う ⇒問9へ
2. どちらかといえばそう思う ⇒問9へ
3. どちらかといえばそう思わない ⇒問10へ
4. そう思わない ⇒問10へ
5. わからない ⇒問10へ

問9 **【問8で、1または2と回答した方におたずねします。】**

「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ない」といわれていますが、その原因は何だと思えますか。

次の1～8の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため
2. 男性優位の組織運営がなされているため
3. 家庭の支援、協力が得られないため
4. 女性の能力開発の機会が不十分であるため
5. 女性の参画への支援が少ないため
6. 女性の積極性が不十分であるため
7. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
8. わからない

⇒ 問10へお進みください

問10 **【ここからは、全ての方におたずねします】**

自治会やPTAの会長など、地域の団体の代表に女性が少ない原因は何だと思えますか。

次の1～8の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため
2. 家族の理解が得られないため
3. 女性が仕事・家事・育児が忙しく時間がないため
4. 女性が代表だと組織運営などに協力が得られるか不安であるため
5. 女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため
6. 地域において女性が代表となった前例がないため
7. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
8. わからない

問 11 あなたは、次にあげる職業や役職等において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア. 自治体の首長（知事や市町村長）	1	2	3	4	5
イ. 議会議員	1	2	3	4	5
ウ. 企業の経営者	1	2	3	4	5
エ. 企業等の管理職	1	2	3	4	5
オ. 公務員等の管理職	1	2	3	4	5
カ. 教育機関の管理職（学校長等）	1	2	3	4	5
キ. 区長等の自治会役員	1	2	3	4	5
ク. PTA 会長等の学校役員	1	2	3	4	5

### 固定的性別役割分担意識

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにも関わらず、「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」のように、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のことです。

人々の意識の中に長い時間をかけて形づくられてきた意識であり、時代とともに変わりつつありますが、今も依然として根強く残っています。



## ◆女性が職業を持つことについて

問 12 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

次の1～7の中から一つだけ選び○で囲んでください。

1. 女性は職業を持たないほうがよい ⇒問 13 へ
2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい ⇒問 13 へ
3. 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい ⇒問 13 へ
4. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい ⇒問 14 へ
5. 子どもができたなら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい ⇒問 14 へ
6. その他（具体的に： ） ⇒問 14 へ
7. わからない ⇒問 14 へ

問 13 【問 12 で「1.女性は職業をもたない方がよい」、「2.結婚するまでは、職業をもつ方がよい」、「3.子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた方にお尋ねします。】

その理由は何ですか。次の1～7の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 女性は家庭を守るべきだと思うから
2. 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから
3. 保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見た方が合理的だと思うから
4. 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから
5. 働き続けるのは大変そうだと思うから
6. その他（ ）
7. 理由は特にない

⇒ 問14へお進みください



## ◆子育て、教育について

問 14 【ここからは、全ての方におたずねします】

あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。  
次のア～エについて、それぞれ1～5の中から一つだけ選び○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
イ. 性別に関わらずも職業人として経済的に自立できるように育てる	1	2	3	4	5
ウ. 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕事を身につけさせる	1	2	3	4	5
エ. 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする	1	2	3	4	5

## ◆配偶者からの暴力（ドメスティックバイオレンス（通称：DV））について

問 15 あなたは、あなた自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたことがありますか。

次の1～4の中から一つだけ選び○で囲んでください。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 今も受けている         | 2. 過去に何度も受けたことがある |
| 3. 過去に1、2度受けたことがある | 4. 受けたことはない       |

問 16 あなたは、あなた自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けたり、あなたの知り合いから相談を受けた場合、どのように行動すると思いますか。

次の1～10の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 警察に相談する
2. 市役所に相談する
3. 男女共同参画専門員（菊池市設置）に相談する
4. 女性相談員（菊池市設置）に相談する
5. 女性総合相談室（熊本県設置）に相談する
6. 親族に相談する
7. 知人・友人に相談する
8. 誰にも相談できない
9. 何もしない
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

## ◆防災の分野における男女共同参画について

問 17 国の第4次男女共同参画基本計画の主な施策の中に、防災の分野における男女共同参画の推進がありますが、どのようなことが必要と考えられますか。

次の1～8の中から必要と思われるものをすべて選び○で囲んでください。

1. 防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること
2. 災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること
3. 避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること
4. 女性だけでなく、男性に対する相談体制を整備するとともに、相談窓口の周知方法を工夫すること
5. 妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、介護を必要とする人が、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること
6. 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した視点で取り組むこと
7. 特に必要はない
8. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

## ◆男女共同参画社会の推進について

問 18 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

次の1～14の中からあなたの要望するものをすべて選び○で囲んでください。

1. 性別による固定的な役割分担意識を是正するための啓発・広報
2. 学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画を推進する教育、学習の充実
3. 市の各種審議会の委員等、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
4. 区長や地域自治会役員に女性を増やす
5. 育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備
6. 働く場での男女共同参画の推進のため事業主（企業主）等への研修の実施
7. 性暴力や性差別等に関する問題解決に向けた取組みの充実
8. 仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援
9. 男女共同参画社会づくりを目指す団体などとの協働の推進
10. 家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり
11. 女性だけでなく、男性の意識も変える取組みを積極的に進める
12. 高齢者、障がい者、外国人等が安心して暮らせるユニバーサルデザインの環境整備
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
14. 特にない



問 19 あなたは、以下の言葉についてご存知ですか。  
 次のア～シについてそれぞれ1～3の中から一つだけ選び○で囲んでください。

	知っている	聞いたことはある	知らない
ア. 男女共同参画社会基本法	1	2	3
イ. ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
ウ. ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
エ. ダイバーシティ (多様性)	1	2	3
オ. 菊池市男女共同参画推進条例	1	2	3
カ. 菊池市男女共同参画計画	1	2	3
キ. 男女共同参画専門委員相談 (菊池市設置)	1	2	3
ク. 女性相談員 (菊池市設置)	1	2	3
ケ. 女性活躍推進法	1	2	3
コ. JK ビジネス	1	2	3
サ. LGBT	1	2	3
シ. ポジティブ・アクション	1	2	3

※それぞれの言葉の内容については、別紙【用語の説明】をご覧ください。









2018（平成30）年度  
男女共同参画社会づくりのための菊池市民意識調査  
調査結果報告書

2018（平成30）年 11月

---

編集・発行 菊池市総務部男女共同参画推進課

〒861-1392 熊本県熊本市隈府 888 番地

TEL : 0968-25-7210 / FAX : 0968-25-5720

---